資料１－２

（公印・契印省略）

総政企第299号
令和８年11月16日

統計委員会委員長
津谷　典子　殿

総務大臣
藤井　比早之

諮問第217号
農業経営統計調査の変更について（諮問）

標記について、令和８年11月６日付け８統計第589号により農林水産大臣から別添「基幹統計調査の変更について（申請）」のとおり申請があったところ、その承認の適否を判断するに当たり、統計法（平成19年法律第53号）第11条第２項において準用する同法第９条第４項の規定に基づき、統計委員会の意見を求める。

（参考：別添の申請関連書類の目次）

１．申請書 ・・・

（公印・契印省略）

８統計第589号
令和８年11月６日

総　務　大　臣　　殿

農林水産大臣　武部　　新

基幹統計調査の変更について（申請）

下記調査の変更について、統計法（平成19年法律第53号）第11条第１項の規定に基づく承認を受けたいので、別紙申請事項記載書に関係書類を添えて、申請します。

記

農業経営統計調査

主管部課	大臣官房統計部経営・構造統計課
事務担当者	課長補佐 野田　英隆 （営農類型別経営統計班） 電話　03(6744)2043 e-mail　hidetaka_noda540@maff.go.jp 課長補佐 横道　美智 （農業組織経営統計班） 電話　03(6744)2243 e-mail　michi_yokomichi330@maff.go.jp

別紙

申請事項記載書

1　調査の名称　農業経営統計調査
2　変更の内容
＜目次＞
◆調査計画本文（その１：経営統計調査）・・・

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
その他(注2)　50（ 14,962） （注２）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（個人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。 ○法人経営体　821（ 31,098） 水田作（集落営農）　75（ 4,647） 水田作（集落営農以外）164（ 6,849） 畑作　136（ 2,012） 野菜作　93（ 5,854） 果樹作　88（ 2,183） 花き作　51（ 1,116） 酪農　52（ 1,696） 肉用牛　48（ 1,781） 養豚　43（ 1,180） 採卵養鶏　34（ 802） ブロイラー養鶏　12（ 514） その他(注3)　25（ 2,464） （注３）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（法人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。 （２）報告者の選定方法（□全数　■無作為抽出（□全数階層あり）□有意抽出） 個人経営体及び水田作（集落営農）以外の法人経営体については、2025年農林業センサスにより集められた情報を、法人経営体の水田作（集落営農）については、令和７年集落営農実態調査により集められた情報を母集団とし、営農類型別及び農業経営体の種類（個人経営体及び法人経営体）ごとに母集団リストを作成した上で、層化無作為抽出により選定する(注4)。 詳細については、別添２のとおり。 （注４）次回の母集団情報が更新されるまでは、同一の報告者に対して、継続的に報告を求めることを基本とする。なお、離農などにより報告を求めることができなくなった場合には、代替となる報告者を選定す	その他(注2)　50（ 17,615） （注２）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（個人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。 ○法人経営体　861（ 27,124） 水田作（集落営農）　111（ 4,538） 水田作（集落営農以外）153（ 3,698） 畑作　126（ 3,189） 野菜作　100（ 4,848） 果樹作　98（ 1,541） 花き作　65（ 1,113） 酪農　26（ 1,660） 肉用牛　38（ 1,612） 養豚　45（ 1,278） 採卵養鶏　58（ 892） ブロイラー養鶏　16（ 434） その他(注3)　25（ 2,321） （注３）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（法人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。 （２）報告者の選定方法（□全数　■無作為抽出（□全数階層あり）□有意抽出） 個人経営体及び水田作（集落営農）以外の法人経営体については、2020年農林業センサスにより集められた情報を、法人経営体の水田作（集落営農）については、令和２年集落営農実態調査により集められた情報を母集団とし、営農類型別及び農業経営体の種類（個人経営体及び法人経営体）ごとに母集団リストを作成した上で、層化無作為抽出により選定する(注4)。 詳細については、別添２のとおり。 （注４）次回の母集団情報が更新されるまでは、同一の報告者に対して、継続的に報告を求めることを基本とする。なお、離農などにより報告を求めることができなくなった場合には、代替となる報告者を選定す	報告者を選定するための母集団リストについて、最新の農林業センサス等の結果を用いて作成するため、年次を更新

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
る。	る。	
5　報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間	5　報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間	
（1）報告を求める事項（詳細は、調査票（別添３－１、３－２）を参照）	（1）報告を求める事項（詳細は、調査票（別添３－１、３－２）を参照）	報告者、調査実施者双方の調査負担の軽減を図るため、調査項目の統廃合等（詳細は、調査票の新旧対照表参照）
（削る）	《基本項目》	
ア　経営体の現況に関する事項	ア　経営体の現況に関する事項	
イ　損益計算書に関する事項	イ　損益計算書に関する事項	
ウ　事業収支の概要	ウ　事業収支の概要	
エ　保有する土地面積の状況	エ　保有する土地面積の状況	表現の適正化
オ　生産概況、農畜産物収入及び農作業受託収入に関する事項	オ　生産概況、農畜産物収入及び農作業受託収入に関する事項	※実質的な内容変更を伴わない形式的修正
カ　農業に関する共済・補助金等に関する事項	カ　制度受取金・積立金等に関する事項	
キ　労働に関する事項	キ　労働に関する事項	
（削る）	《詳細項目》	
ク　貸借対照表に関する事項	ク　貸借対照表に関する事項	
ケ　投資と資金調達の状況	ケ　投資と資金調達の状況	
コ　役員、雇用者への給与に関する事項（法人経営体のみ）	コ　役員、雇用者への給与に関する事項（法人経営体のみ）	
なお、ク及びケについては、個人経営体のうち青色申告を行っている経営体及び年間 60 日以上自営農業に従事している 65 歳未満の家族がいる経営体並びに法人経営体から報告を求める。	なお、ク及びケについては、個人経営体のうち主業経営体(注6)、準主業経営体(注7)及び所得税青色申告決算書（農業所得用）による帳簿管理がなされている副業的経営体(注8)（以下「青色申告の副業的経営体」という。）並びに法人経営体から報告を求める。	記載の適正化（農林業センサスに合わせた変更）
（削る）	（注６）「主業経営体」とは、個人経営体のうち、農業所得が主（農家所得の 50%以上が農業所得）で、調査期間に自営農業に 60 日以上従事している 65 歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。	
（削る）	（注７）「準主業経営体」とは、個人経営体のうち、農外所得が主（農家所得の 50%未満が農業所得）で、調査期間に自営農業に 60 日以上従事している 65 歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。	
（削る）	（注８）「副業的経営体」とは、個人経営体のうち、調査期間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう。	
〔集計しない事項の有無〕□無　■有	〔集計しない事項の有無〕□無　■有	
経営統計調査は、農業経営体の経営の実態について詳細に報告を求めるとともに、調査票への記入に代えて関係資料の開示等についても許容していることから、調査票には、個別に集計・公表しない事項として、報告者の記入漏れを防ぐための該当の有無を確認する事項（経営している土地があるか等）、関係資料の開示等を確認す	経営統計調査は、農業経営体の経営の実態について詳細に報告を求めるとともに、調査票への記入に代えて関係資料の開示等についても許容していることから、調査票には、個別に集計・公表しない事項として、報告者の記入漏れを防ぐための該当の有無を確認する事項（経営している土地があるか等）及び関係資料の開示等を確認	

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
る事項（青色申告決算書（農業所得用）の提供の有無等）及び集計する過程において用いる事項（農業割合）を含む。	する事項（青色申告決算書（農業所得用）の提供の有無等）を含む。	固定資産など、事業全体で把握しつつ農業分を集計するために、農業割合を把握しており農業割合そのものを集計し公表していないため、従前から実施している取扱いを調査計画上でより明確にする観点から追記。
（２）基準となる期日又は期間(注６) （略）	（２）基準となる期日又は期間(注９) （略）	
（注６）本調査計画においては、本項目で示す期間を「調査年」という。ただし、法人経営体については、決算期間の期末月が含まれる年度をもって「調査年」という。	（注９）本調査計画においては、本項目で示す期間を「調査年」という。ただし、法人経営体については、決算期間の期末月が含まれる年度をもって「調査年」という。	
６　報告を求めるために用いる方法 （１）調査系統 ア　経営統計調査のみの報告者 農林水産省 － 民間事業者 － 報告者 └ 民間調査員 ┘ (注７)	６　報告を求めるために用いる方法 （１）調査系統 ア　経営統計調査のみの報告者 農林水産省 － 民間事業者 － 報告者 └ 民間調査員 ┘ (注10)	
（注７）民間事業者が雇用する調査員をいう。	（注10）民間事業者が雇用する調査員をいう。	
イ　生産費調査の報告を兼ねる報告者 農林水産省 － 地方農政局等(注８) － 報告者 └ 統計調査員 ┘ (注９)	イ　生産費調査の報告者を兼ねる者 農林水産省 － 地方農政局等(注11) － 報告者 └ 統計調査員 ┘ (注12)	表現の適正化（以下同じ） ※実質的な内容変更を伴わない形式的修正
（注８）地方農政局等のうち、内閣府沖縄総合事務局農林水産センターは、内閣府沖縄総合事務局を経由して農林水産省との間における事務を行う。 （注９）農林水産省が任命する調査員をいう。	（注11）地方農政局等のうち、内閣府沖縄総合事務局農林水産センターは、内閣府沖縄総合事務局を経由して農林水産省との間における事務を行う。 （注12）農林水産省が任命する調査員をいう。	
なお、民間事業者による調査に協力を得られる報告者については、アに記載する調査系統により実施する。	なお、民間事業者による調査に協力を得られる報告者については、アに記載する調査系統により実施する。	
（２）調査方法 ■郵送調査　■オンライン調査（■政府統計共同利用システム　■独自のシステム　□電子メール）　■調査員調査　■その他（職員調査） 〔調査方法の概要〕 原則として、報告者が調査票に記入又は電子化した調査票に入力	（２）調査方法 ■郵送調査　■オンライン調査（■政府統計共同利用システム　■独自のシステム　□電子メール）　■調査員調査　■その他（職員調査） 〔調査方法の概要〕 原則として、報告者が調査票に記入又は電子化した調査票に入力	

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
する方法（自計報告）により行う。ただし、経営統計調査のみの報告者であるか、生産費調査の報告を兼ねる報告者であるかの区分に応じて、以下のとおり、報告者の希望により、地方農政局等の職員、統計調査員若しくは民間事業者に対して、決算書類等（報告者が磁気情報として作成しているものを含む。以下同じ。）を開示若しくは提供又は口頭で回答し、これを受けて、地方農政局等の職員、統計調査員又は民間事業者が調査票に記入する方法（他計報告）により行う場合もある。	する方法（自計報告）により行う。ただし、経営統計調査のみの報告者であるか、生産費調査の報告者を兼ねるものであるかの区分に応じて、以下のとおり、報告者の希望により、地方農政局等の職員、統計調査員若しくは民間事業者に対して、決算書類等（報告者が磁気情報として作成しているものを含む。以下同じ。）を開示若しくは提供又は口頭で回答し、これを受けて、地方農政局等の職員、統計調査員又は民間事業者が調査票に記入する方法（他計報告）により行う場合もある。	
ア　調査票の配布 （ア）（略） （イ）生産費調査の報告を兼ねる報告者 地方農政局等の職員又は統計調査員が配布する。 なお、前年から調査を継続している報告者に対しては、報告を求める事項のうち経営体の現況に関する事項を除き、前年調査の際に得られた調査票情報を本年の調査票にあらかじめ印字し、その内容について更新を求めるものとする。	ア　調査票の配布 （ア）（略） （イ）生産費調査の報告者を兼ねる者 地方農政局等の職員又は統計調査員が配布する。 なお、前年から調査を継続している報告者に対しては、報告を求める事項のうち経営体の現況に関する事項を除き、前年調査の際に得られた調査票情報を本年の調査票にあらかじめ印字し、その内容について更新を求めるものとする。	経営統計調査のみの報告者については、令和６年調査から民間事業者による郵送自計を主とする調査手法に変更したが、令和５年調査で独自のシステムを利用していた報告者は、令和６年調査において独自のシステムを利用することが想定されたが、利用は無かったことから削除。 また、民間事業者による調査で、複数のオンライン手法があると民間事業者の負担が増えることから、政府統計共同利用システムのみで対応することに変更するとともに、調査を実施する民間事業者と決算書類を格納するためのセキュアファイル交換サービスを行うクラウドサービス事業者を明確に区分するために表現の適正化。
イ　調査票の提出等 （ア）経営統計調査のみの報告者 次のいずれかの方法により行う。 ａ～ｃ　（略） ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システムにより提供し、又は、民間調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。	イ　調査票の提出等 （ア）経営統計調査のみの報告者 次のいずれかの方法により行う。 ａ～ｃ　（略） ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システム若しくは独自のシステム（民間事業者が行うセキュアファイル交換サービスを利用し、データ送受信時に暗号化技術を用いるなど情報漏えいを防ぐ措置を施す。以下同じ。）により提供し、又は、民間調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。	

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
（イ）生産費調査の報告を兼ねる報告者 次のいずれかの方法により行う。 ａ～ｃ　（略） ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システム若しくは独自のシステム（クラウドサービス事業者が行うセキュアファイル交換サービスを利用し、データ送受信時に暗号化技術を用いるなど情報漏えいを防ぐ措置を施す。）により提供し、又は、地方農政局等の職員若しくは統計調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。	（イ）生産費調査の報告者を兼ねる者 次のいずれかの方法により行う。 ａ～ｃ　（略） ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システム若しくは独自のシステムにより提供し、又は、地方農政局等の職員若しくは統計調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。	生産費調査の報告を兼ねる報告者については、引き続き独自のシステムを利用することから、独自のシステムの概要を移設
８　集計事項 次に掲げる集計を行う（詳細は、別添４のとおり。）。 （１）営農類型別経営統計 ア　個人経営体 （ア）～（コ）　（略） （削る） イ・ウ　（略）	８　集計事項 次に掲げる集計を行う（詳細は、別添４のとおり。）。 （１）営農類型別経営統計 ア　個人経営体 （ア）～（コ）　（略） なお、５（１）のク及びケについては、個人経営体のうち主業経営体、準主業経営体及び青色申告の副業的経営体並びに法人経営体を対象に集計を行う。 イ・ウ　（略）	調査項目変更及び標本設計の変更に伴う変更 （詳細は、集計事項一覧の新旧対照表参照） 記載の内容が重複しているため削除

11　調査票情報の保存期間及び保存責任者

関係書類名	保存期間	保存責任者
記入済み調査票(注10)	調査結果を公表した日の属する年の翌年の４月１日から起算して３年	＜経営統計調査のみの報告者に係るもの＞ 農林水産省大臣官房統計部長 ＜生産費調査の報告を兼ねる報告者に係るもの＞ 地方農政局等の長
調査票の内容を記録した電磁的記録	永年	農林水産省大臣官房統計部長

（注10）記入済み調査票とは、調査票の記入に代えて提出された決算書類等を含む。

11　調査票情報の保存期間及び保存責任者

関係書類名	保存期間	保存責任者
記入済み調査票(注13)	調査結果を公表した日の属する年の翌年の４月１日から起算して３年	＜経営統計調査のみの報告者に係るもの＞ 農林水産省大臣官房統計部長 ＜生産費調査の報告者を兼ねる者に係るもの＞ 地方農政局等の長
調査票の内容を記録した電磁的記録	永年	農林水産省大臣官房統計部長

（注13）記入済み調査票とは、調査票の記入に代えて提出された決算書類等を含む。

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

別添２　報告者の選定方法

１～５　（略）

別表第１

営農類型区分		農業経営体の種類	分類基準
水田作経営		個人経営体 法人経営体	稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、水田で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
畑作経営			稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、畑で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
野菜作経営	露地野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入が施設野菜の販売収入以上である経営
	施設野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入より施設野菜の販売収入が多い経営
果樹作経営			果樹の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
花き作経営 （注）	露地花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入が施設花きの販売収入以上である経営
	施設花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入より施設花きの販売収入が多い経営
酪農経営			酪農の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
肉用牛経営	繁殖牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数が肥育牛の飼養頭数以上である経営
	肥育牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数より肥育牛の飼養頭数が多い経営
養豚経営			養豚の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
採卵養鶏経営			採卵養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
ブロイラー養鶏経営			ブロイラー養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
その他経営			水田作経営、畑作経営、野菜作経営、果樹作経営、花き作経営、酪農経営、肉用牛経営、養豚経営、採卵養鶏経営、ブロイラー養鶏経営以外の経営

（注）法人経営体の花き作経営については、露地・施設別の販売収入の多寡による区分は実施せず、花き作経営として区分する。

別表第２　（略）

別添２　報告者の選定方法

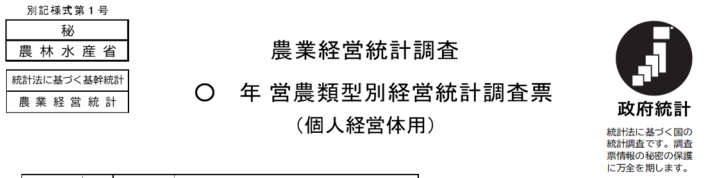
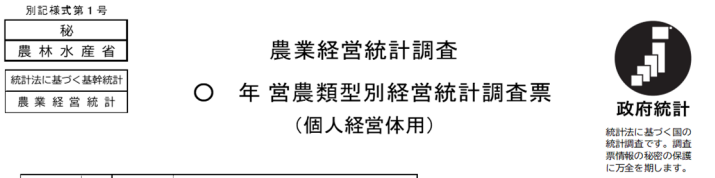
１～５　（略）

別表第１

営農類型区分		農業経営体の種類	分類基準
水田作経営		個人経営体 法人経営体	稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、水田で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
畑作経営			稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、畑で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
野菜作経営	露地野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入が施設野菜の販売収入以上である経営
	施設野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入より施設野菜の販売収入が多い経営
果樹作経営			果樹の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
花き作経営	露地花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入が施設花きの販売収入以上である経営
	施設花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入より施設花きの販売収入が多い経営
酪農経営			酪農の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
肉用牛経営	繁殖牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数が肥育牛の飼養頭数以上である経営
	肥育牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数より肥育牛の飼養頭数が多い経営
養豚経営			養豚の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
採卵養鶏経営			採卵養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
ブロイラー養鶏経営			ブロイラー養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
その他経営			水田作経営、畑作経営、野菜作経営、果樹作経営、花き作経営、酪農経営、肉用牛経営、養豚経営、採卵養鶏経営、ブロイラー養鶏経営以外の経営

別表第２　（略）

法人経営体の花き作経営について、露地花き・施設花きの販売収入による区分をやめ、花き作として報告者を選定することとしたため。

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
別添３　調査票 別添３－１　営農類型別経営統計調査票（個人経営体用） １ページ  別記様式第１号 秘 農林水産省 統計法に基づく基幹統計 農業経営統計 農業経営統計調査 ○　年 営農類型別経営統計調査票 （個人経営体用） 政府統計 統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。 営農類型　番号 ☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。 ☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。 統計作成以外の目的に使うことはありません。 【記入上の留意事項】 １．○年１月１日～○年12月31日の１年間について記入してください。 ２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。 ３．調査項目欄には、右づめで記入してください。 ４．**黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用**し、間違えた場合は消しゴムで消してください。 ５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。 ６．本調査に必要な資料 設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。 ○青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）、確定申告書 ○年○月○日までに提出をお願いします。 ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。 【通信欄】　１年の中で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。	**別添３** 別添３－１　営農類型別経営統計調査票（個人経営体用） １ページ  別記様式第１号 秘 農林水産省 統計法に基づく基幹統計 農業経営統計 農業経営統計調査 ○　年 営農類型別経営統計調査票 （個人経営体用） 政府統計 統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。 営農類型　番号 ☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。 ☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。 統計作成以外の目的に使うことはありません。 【記入上の留意事項】 １．○年１月１日～○年12月31日の１年間について記入してください。 ２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。 ３．調査項目欄には、右づめで記入してください。 ４．**黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用**し、間違えた場合は消しゴムで消してください。 ５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。 ６．本調査に必要な資料 設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。 ○青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）、確定申告書 ○年○月○日までに提出をお願いします。 ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。 【通信欄】　１年の中で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。	

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
2ページ **【はじめに】** 調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。 本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。 ○　損益計算書に係る記入欄は、青色申告決算書（農業所得用）の科目と同じ配列となっているため、他の様式から転記する場合は、記入欄の配列が異なりますので、該当する科目の記入欄へ転記してください。 ○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。 1　調査票の構成 区分 / 説明 / 回答対象者 / ページ 【1】現況 / 農業従事者の状況や青色申告の申請状況、経営耕地面積など / 全ての方にお答えいただく項目です / 3 【2】損益計算書 / 農業の収入や支出の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 4、5 【3】事業収支の概要 / 農業以外も含めた全ての事業収支の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 5 【4】貸借対照表 / 資産や負債の状況 / 青色申告を行っている方又は、年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方にお答えいただく項目です / 6、7 【5】投資と資金調達の状況 / 農業に係る投資や資金調達の状況 / 青色申告を行っている方又は、年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方にお答えいただく項目です / 8 【6】労働の概要 / 作業に従事した人数や労働時間に係る状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 8、9 【7】生産概況、農畜産物収入 / 農畜産物の生産概況と販売収入の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 10～15 【8】農作業受託収入 / 農作業受託収入の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 16 【9】農業に関する共済・補助金等 / 農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金に係る状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 16、17 2　「【4】貸借対照表」の転記に際しての留意点 「【4】貸借対照表」（6頁）は、青色申告決算書の勘定科目から転記可能な様式となっています。 一方で、青色申告であっても、貸借対照表の作成義務のない簡易簿記や現金式簡易簿記の場合、又は収支内訳書（白色申告）の場合には、資産や負債に該当する勘定科目を7頁に記入してください。	2ページ **【はじめに】** 調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。 本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。 ○　損益計算書に係る記入欄は、青色申告決算書（農業所得用）の科目と同じ配列となっているため、他の様式から転記する場合は、記入欄の配列が異なりますので、該当する科目の記入欄へ転記してください。 ○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。 1　調査票の構成 区分 / 説明 / 回答対象者 / ページ 【1】現況 / 農業従事者の状況や青色申告の申請状況、経営耕地面積など / 全ての方にお答えいただく項目です / 3 【2】損益計算書 / 農業の収入や支出の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 4、5 【3】事業収支の概要 / 農業以外も含めた全ての事業収支の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 5 【4】貸借対照表 / 資産や負債の状況 / 青色申告を行っている方又は、年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方にお答えいただく項目です / 6、7 【5】投資と資金調達の状況 / 農業に係る投資や資金調達の状況 / 青色申告を行っている方又は、年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方にお答えいただく項目です / 8 【6】労働の概要 / 作業に従事した人数や労働時間に係る状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 8、9 【7】生産概況、農畜産物収入 / 農畜産物の生産概況と販売収入の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 10～15 【8】農作業受託収入 / 農作業受託収入の状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 16 【9】制度受取金・積立金等 / 制度受取金等に係る状況 / 全ての方にお答えいただく項目です / 16、17 2　【4】貸借対照表の転記に際しての留意点 「【4】貸借対照表」（6ページ）は、青色申告決算書の勘定科目から転記可能な様式となっています。 一方で、青色申告であっても、貸借対照表の作成義務のない簡易簿記や現金式簡易簿記の場合、又は収支内訳書（白色申告）の場合には、資産や負債に該当する勘定科目を7ページに記入してください。	視認性向上のため、インデント位置、色、レイアウト等を変更（以下同じ） 報告者にとって分かりやすい表現に記載を変更（従前と概念の変更はない）

変　更　案

3ページ

【1】現況（全ての方にお答えいただく項目です。）

1－1　現況についてお伺いします。

	区分	前年		本年	
①	経営主の年齢を記入してください。（令和〇年12月31日時点）	歳		歳	
②	認定農業者がいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
③	経営主を含む家族のうち、年間60日(480時間)以上自営農業に従事している65歳未満の方がいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
④	世帯としての所得は、自営農業と自営農業以外の所得（年金等は含みません）のどちらが多いですか。	自営農業	自営農業以外	自営農業	自営農業以外
⑤	青色申告決算書（農業所得用）を利用していますか。	はい	いいえ	はい	いいえ

（注）
③の自営農業に従事した日数については、自営農業労働時間８時間を１日として換算してください。

1－2　期末（12月31日）時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田、畑、樹園地、牧草地及び採草放牧地がありますか。

「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年欄に記入してください。
いいえ → 4頁の【2】へお進みください。

土地の状況を記入してください。貸している面積は含みません。

区　分	前　年 経営面積 a	前　年 うち借入地 a	本　年 経営面積 ha a	本　年 うち借入地 ha a
田				
畑（樹園地、牧草地を除く）				
樹　園　地（茶の植栽面積を含む）				
牧　草　地				
採 草 放 牧 地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

変　更　前

3ページ

【1】現況（全ての方にお答えいただく項目です。）

1－1　現況についてお伺いします。

①	経営主の年齢を記入してください。（令和〇年12月31日時点）	歳	
②	認定農業者がいますか。	はい	いいえ
③	経営主を含む家族のうち、年間60日(480時間)以上自営農業に従事している65歳未満の方がいますか。	はい	いいえ
④	世帯としての所得は、自営農業と自営農業以外の所得（年金等は含みません。）のどちらが多いですか。	自営農業	自営農業以外
⑤	青色申告決算書（農業所得用）を利用していますか。	はい	いいえ

（注）
③の従事した日数については、1日を８時間として換算してください。

1－2　期末（12月31日）時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田～採草放牧地がありますか。

はい → 本年欄に記入してください。
いいえ → 4頁の【2】へお進みください。

土地の状況を記入してください。貸している面積は含みません。

区　分	前　年 経営面積 （a）	前　年 うち借入地 （a）	本　年 経営面積 ha a	本　年 うち借入地 ha a
田				
畑（樹園地、牧草地を除く。）				
樹　園　地（茶の植栽面積を含む。）				
牧　草　地				
採 草 放 牧 地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

変　更　理　由

報告者が、記入日時点の年齢を誤記入されるケースがあったことから、前回値のプレプリント欄を追加

報告者が、単に「採草放牧地があるか」を質問されていると誤認されたケースがあったことから、明文化

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変　更　案

4ページ

【2】損益計算書（全ての方にお答えいただく項目です。）

農業の収入、経費などについてお伺いします。

青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 2－3へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

2－1　青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。

科目		青色申告決算書No	収支内訳書No	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
収入	販売金額	①	①		
	家事消費金額・事業消費金額	②	②		
	雑収入	③	③		
	小計	④	④		
	農産物の棚卸高 期首	⑤	⑤		
	農産物の棚卸高 期末	⑥	⑥		
	収入計	⑦	⑦		
経費	租税公課	⑧	㋑		
	種苗費	⑨	㋺		
	素畜費	⑩	㋩		
	肥料費	⑪	㋥		
	飼料費（注）	⑫	㋭		
	農具費	⑬	㋬		
	農薬費・衛生費	⑭	㋣		
	諸材料費	⑮	㋠		
	修繕費	⑯	㋡		
	動力光熱費	⑰	㋢		
	作業用衣料費	⑱	㋤		
	農業共済掛金	⑲	㋥		
	減価償却費	⑳	⑩		
	荷造運賃手数料	㉑	㋦		
	雇人費	㉒	⑧		
	利子割引料	㉓	⑫		
	地代・賃借料	㉔	⑨		
	土地改良費	㉕	㋕		
		㉖	㋖		
		㉗	㋗		
		㉘	㋘		
		㉙	㋙		
	雑費	㉚	㋚		
	小計	㉛	㋛		
	農産物以外の棚卸高 期首	㉜	㋜		
	農産物以外の棚卸高 期末	㉝	㋝		
経費から差し引く果樹・牛馬等の育成費用		㉞	㋞		
計		㉟	⑭		

（注）飼料費の計上がある場合は、2－3も必ず回答してください。

（任意科目欄）※科目が一致しない場合、決算書に記載の科目名を記入いただき、金額を記入してください。

変　更　前

4ページ

【2】損益計算書（全ての方にお答えいただく項目です。）

農業の収入、経費などについてお伺いします。

青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい → 2－2へお進みください。　いいえ → 本年欄に記入してください。

2－1　青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。

科目		青色申告決算書No	収支内訳書No	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
収入	販売金額	①	①		
	家事消費金額・事業消費金額	②	②		
	雑収入	③	③		
	小計	④	④		
	農産物の棚卸高 期首	⑤	⑤		
	農産物の棚卸高 期末	⑥	⑥		
	収入計	⑦	⑦		
経費	租税公課	⑧	㋑		
	種苗費	⑨	㋺		
	素畜費	⑩	㋩		
	肥料費	⑪	㋥		
	飼料費（注）	⑫	㋭		
	農具費	⑬	㋬		
	農薬費・衛生費	⑭	㋣		
	諸材料費	⑮	㋠		
	修繕費	⑯	㋡		
	動力光熱費	⑰	㋢		
	作業用衣料費	⑱	㋤		
	農業共済掛金	⑲	㋥	16、17頁へ記入してください。	
	減価償却費	⑳	⑩		
	荷造運賃手数料	㉑	㋦		
	雇人費	㉒	⑧		
	利子割引料	㉓	⑫		
	地代・賃借料	㉔	⑨		
	土地改良費	㉕	㋕		
		㉖	㋖		
		㉗	㋗		
		㉘	㋘		
		㉙	㋙		
	雑費	㉚	㋚		
	小計	㉛	㋛		
	農産物以外の棚卸高 期首	㉜	㋜		
	農産物以外の棚卸高 期末	㉝	㋝		
経費から差し引く果樹・牛馬等の育成費用		㉞	㋞		
計		㉟	⑭		

（注）飼料費の計上がある場合は、2－2も必ず回答してください。

（任意科目欄）※科目が一致しない場合、決算書に記載の科目名を記入いただき、金額を記入してください。

変　更　理　由

小計等について、記入不要としていたが、青色申告決算書から調査票に転記する際に、回答欄に斜線があるため一つ下の欄に転記する報告者がいたことから、青色申告決算書からそのまま転記できるように全て記入する方法に変更。
（例：「収入の小計」を「農産物の棚卸高（期首）」欄に記入等）

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
5ページ 2－2　専従者給与について、青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。 科目 / 青色申告決算書No / 収支内訳書No / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 専従者給与 / ㊶ / ⑯ 2－3　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。 「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい → 本年金額欄に控除した補てん金額を記入してください。 いいえ → 【3】へお進みください。 前年金額（円） / 本年金額（円） 【3】事業収支の概要（全ての方にお答えいただく項目です。） 事業収入や山林収入等についてお伺いします。 確定申告書第一表、第三表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。 資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい → 6頁の【4】へお進みください。 いいえ → 3－1、3－2の本年欄に記入してください。 3－1　事業収入、事業所得についてお伺いします。 申告書第一表を参照して、次の科目の金額を記入してください。 科目 / 申告書記号 / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 収入金額 事業 営業等 / ㋐ 収入金額 事業 農業 / ㋑ 収入金額 不動産 / ㋒ 所得金額 事業 営業等 / ① 所得金額 事業 農業 / ② 所得金額 不動産 / ③ 3－2　1年間のうち、山林の所得がある場合には、申告書第三表（分離課税用）を参照して、次の科目の金額を記入してください。 科目 / 申告書記号 / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 収入金額（山林） / ㋓ 所得金額（山林） / ⑯	5ページ 2－2　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。 はい → 本年金額欄に控除した補てん金額を記入してください。 / いいえ → 2－3へお進みください。 前年金額（円） / 本年金額（円） 2－3　専従者給与について、青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。 科目 / 青色申告決算書No / 収支内訳書No / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 専従者給与 / ㊶ / ⑯ 【3】事業収支の概要（全ての方にお答えいただく項目です。） 事業収入や山林収入等についてお伺いします。 確定申告書第一表、第三表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。 資料を提供していただけますか。 はい → 6頁の【4】へお進みください。 / いいえ → 本年欄に記入してください。 3－1　事業収入、事業所得についてお伺いします。 申告書第一表を参照して、次の科目の金額を記入してください。 科目 / 申告書記号 / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 収入金額 事業 営業等 / ㋐ 収入金額 事業 農業 / ㋑ 収入金額 不動産 / ㋒ 所得金額 事業 営業等 / ① 所得金額 事業 農業 / ② 所得金額 不動産 / ③ 3－2　1年間のうち、山林の所得がある場合には、申告書第三表（分離課税用）を参照して、次の科目の金額を記入してください。 科目 / 申告書記号 / 前年 金額（円） / 本年 金額（円） 収入金額（山林） / ㋓ 所得金額（山林） / ⑯	2－3の設問である専従者給与については、青色申告決算書にある項目であることから、前ページからの続きとした方が、視線の流れに沿うことから、2－2と順番を入替

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

6ページ

【4】貸借対照表（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、貸借対照表の期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【1】の1－1⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【1】の1－1③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

4－1　貸借対照表を作成していますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→ 4－2へお進みください。
いいえ　→ 7頁の4－5、4－6へお進みください。

4－2　貸借対照表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→ 4－4負債・資本の借入金の短期・長期の内訳をご記入の上、8頁の【5】へお進みください。
いいえ　→ 4－3、4－4の本年欄に記入してください。

4－3　資産

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
現金		
普通預金		
定期預金		
その他預金		
売掛金		
未収金		
有価証券		
農産物等		
未収穫農産物等		
未成熟の果樹育成中の牛馬等		
肥料その他の貯蔵品		
前払金		
貸付金		
建物・構築物		
農機具等		
果樹・牛馬等		
土地		
土地改良事業受益者負担金		
（任意科目欄）※		
事業主貸		
合計		

4－4　負債・資本

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
買掛金		
借入金 短期借入金		
借入金 長期借入金		
未払金		
前受金		
預り金		
（任意科目欄）※		
貸倒引当金		
（任意科目欄）※		
事業主借		
元入金		
青色申告特別控除前の所得金額		
合計		

※ 任意科目欄：科目が一致しない場合、科目名を記入いただき金額を記入してください。

8頁の【5】へお進みください。

変更前

6ページ

【4】貸借対照表（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、貸借対照表の期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【1】の1－1⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【1】の1－1③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

4－1　貸借対照表を作成していますか。

はい　→ 4－2へお進みください。　いいえ　→ 次頁の4－5、4－6へお進みください。

4－2　貸借対照表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。

はい　→ 4－4負債・資本の借入金の短期・長期の内訳をご記入の上、8頁の【5】へお進みください。
いいえ　→ 4－3、4－4の本年欄に記入してください。

4－3　資産

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
現金		
普通預金		
定期預金		
その他預金		
売掛金		
未収金		
有価証券		
農産物等		
未収穫農産物等		
未成熟の果樹育成中の牛馬等		
肥料その他の貯蔵品		
前払金		
貸付金		
建物・構築物		
農機具等		
果樹・牛馬等		
土地		
土地改良事業受益者負担金		
（任意科目欄）※		
事業主貸		
合計		

4－4　負債・資本

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
買掛金		
借入金 短期借入金		
借入金 長期借入金		
未払金		
前受金		
預り金		
（任意科目欄）※		
貸倒引当金		
（任意科目欄）※		
事業主借		
元入金		
青色申告特別控除前の所得金額		
合計		

※ 任意科目欄：科目が一致しない場合、科目名を記入いただき金額を記入してください。

8頁の【5】へお進みください。

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変　更　案

7ページ

➡ **貸借対照表を作成していない方にお伺いします。**
期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。

4－5　資産に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
現金		農業経営の現金		
預貯金等		農業経営の普通預金、定期預金、積立金、農業経営所有の有価証券、前払金、貸付金		
売掛未収入金		売掛金、未収金		
建物・構築物		農業経営用建物・構築物等の未償却残高		
農機具等		農業用機械等の未償却残高		
果樹・牛馬等		果樹と牛馬の未償却残高		
土地	土地（貸付地以外）	農業経営用の農地等の固定資産評価額（土地改良事業受益者負担を含む）		
土地	貸付地	貸付地の固定資産評価額		

4－6　負債に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
流動負債		買掛金、短期借入金、未払金、前受金、預り金		
	うち買掛金	原材料等の購入代金の未払金		
	うち短期借入金	経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年以内に到来する借入金		
長期借入金		経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年を超える借入金		

変　更　前

7ページ

➡ **貸借対照表を作成していない方にお伺いします。**
期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。

4－5　資産に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
現金		農業経営の現金		
預貯金等		農業経営の普通預金、定期預金、積立金、農業経営所有の有価証券、前払金、貸付金		
売掛未収入金		売掛金、未収金		
建物・構築物		農業経営用建物・構築物等の未償却残高		
農機具等		農業用機械等の未償却残高		
果樹・牛馬等		果樹と牛馬の未償却残高		
土地	土地（貸付地以外）	農業経営用の農地等の固定資産評価額（土地改良事業受益者負担を含む。）		
土地	貸付地	貸付地の固定資産評価額		

4－6　負債に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
流動負債		買掛金、短期借入金、未払金、前受金、預り金		
	うち買掛金	原材料等の購入代金の未払金		
	うち短期借入金	経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年以内に到来する借入金		
長期借入金		経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年を超える借入金		

変　更　理　由

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

8ページ

【5】投資と資金調達の状況（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、１年間の設備投資や借入れについて、記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【1】の１－１⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【1】の１－１③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

事業経営のため、１年間に設備投資や借入れがありましたか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 本年欄に記入してください。
いいえ → 【6】へお進みください。

５－１　事業経営のため１年間に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年 金額（円）	前　年 農業割合 %	本　年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本　年 農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く）				
土地	土地の購入金額				

５－２　事業経営のため１年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年 金額（円）	前　年 農業割合 %	本　年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本　年 農業割合 %
短期借入金	返済期限が１年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が１年を超える借入金				

【6】労働の概要（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に事業に従事した家族、雇用者の人数、農業労働時間についてお伺いします。

以下の設問にある従事者数及び農業労働時間を整理した資料がある場合、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 10頁の【7】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

６－１　事業（農業、農業生産関連事業、林業、不動産業、その他の事業）に従事した人数を記入してください。

区　分	前　年 事業に従事した人数（人）	本　年 事業に従事した人数（人）
家族（経営主含む）		
常用雇用者		

【６－１から６－３までの家族、雇用の区分は次のとおりです】
・**家族**：生計を一にする経営主を含む家族のうち、15歳以上の方を記入してください。なお、生計を別にする家族については、常用雇用者又は臨時雇用者として記入してください。
・**常用雇用者**：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**臨時雇用者**：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※１　常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
２　酪農ヘルパーなどの派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

変更前

8ページ

【5】投資と資金調達の状況（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、１年間の設備投資や借り入れについて、記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【1】の１－１⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【1】の１－１③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

事業経営のため、１年間に設備投資や借り入れがありましたか。
はい → 本年欄に記入してください。　いいえ → 【6】へお進みください。

５－１　事業経営のため１年間に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年 金額（円）	前　年 農業割合 %	本　年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本　年 農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く。）				
土地	土地の購入金額				

５－２　事業経営のため１年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年 金額（円）	前　年 農業割合 %	本　年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本　年 農業割合 %
短期借入金	返済期限が１年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が１年を超える借入金				

【6】労働の概要（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に事業に従事した家族、雇用者の人数、農業労働時間についてお伺いします。

以下の設問にある従事者数及び農業労働時間を整理した資料がある場合、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。
はい → 10頁の【7】へお進みください。　いいえ → 本年欄に記入してください。

６－１　事業（農業、農業生産関連事業、林業、不動産業、その他の事業）に従事した人数を記入してください。

区　分	前　年 事業に従事した人数（人）	本　年 事業に従事した人数（人）
家族（経営主含む。）		
常用雇用者		

【６－１から６－３までの家族、雇用の区分は次のとおりです】
・**家族**：生計を一にする経営主を含む家族のうち、15歳以上の方を記入してください。
・**常用雇用者**：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**臨時雇用者**：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※１　常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
２　酪農ヘルパーなどの派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

変更理由

家族の区分の取り扱いは従前から変わらないものの、誤記入を防ぐため、生計を別にする家族についての区分を明確化

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

9ページ

6－2　農業に従事した家族の性別、年齢及び１年間の農業労働時間について、一人ずつ記入してください。

区　分	前　年 性別	前　年 年齢	前　年 年間の農業労働時間（時間）	本　年 性別	本　年 年齢	本　年 年間の農業労働時間（時間）
経　営　主	男　女	／		男　女	／	
家　族　①	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　②	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　③	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　④	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑤	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑥	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑦	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑧	男　女	歳		男　女	歳	

・農業には、世帯として請け負った農作業を含みます。

・年間の農業労働時間は、整理した資料又は以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例）平均労働時間が１日８時間、年間300日働いている場合、８×300＝2,400となるため、「2,400」と記入してください。

6－3　農業に従事した雇用者の人数、農業労働時間をそれぞれ記入してください。

（1）常用雇用者の人数を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年 男性（人）	前　年 65歳未満（人）	前　年 女性（人）	前　年 65歳未満（人）	本　年 男性（人）	本　年 65歳未満（人）	本　年 女性（人）	本　年 65歳未満（人）
常用雇用者	合　計								
	うち7か月以上の雇用者								

（2）常用雇用者の１年間の農業労働時間を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年 年間の農業労働時間（時間）	本　年 年間の農業労働時間（時間）
常用雇用者	合　計		
	うち7か月以上の雇用者		

・**農業労働時間**：整理した資料又は以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例１）「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出
（例２）「雇用者に支払った賃金総額（損益計算書の雇人費のうち農業分）」÷「時間（日）当たり単価」により算出

（3）臨時雇用者の農業に従事した人数及び１年間の農業労働時間をそれぞれ記入してください。

区　分		前　年	本　年
臨時雇用者	農業に従事した人数（人）		
	年間の農業労働時間（時間）		

6－4　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区　分	前年	本年
	人数（人）	人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

変更前

9ページ

6－2　農業に従事した家族の性別、年齢及び１年間の農業労働時間について、一人ずつ記入してください。

区　分	前　年 性別	前　年 年齢	前　年 年間の農業労働時間（時間）	本　年 性別	本　年 年齢	本　年 年間の農業労働時間（時間）
経　営　主	男　女	／		男　女	／	
家　族　①	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　②	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　③	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　④	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑤	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑥	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑦	男　女	歳		男　女	歳	
家　族　⑧	男　女	歳		男　女	歳	

・農業には、世帯として請け負った農作業を含みます。
・年間の農業労働時間は、整理した資料若しくは以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例）平均労働時間が１日８時間、年間300日働いている場合、８×300＝2,400となるため、「2,400」と記入してください。

6－3　農業に従事した雇用者の人数、農業労働時間をそれぞれ記入してください。

（1）常用雇用者の人数を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年 男性（人）	前　年 65歳未満（人）	前　年 女性（人）	前　年 65歳未満（人）	本　年 男性（人）	本　年 65歳未満（人）	本　年 女性（人）	本　年 65歳未満（人）
常用雇用者	合　計								
	うち7か月以上の雇用者								

（2）常用雇用者の１年間の農業労働時間を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年 年間の農業労働時間（時間）	本　年 年間の農業労働時間（時間）
常用雇用者	合　計		
	うち7か月以上の雇用者		

・**農業労働時間**：整理した資料若しくは以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例１）「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出
（例２）「雇用者に支払った賃金総額（損益計算書の雇人費のうち農業分）」÷「時間（日）当たり単価」により算出

（3）臨時雇用者の農業に従事した人数及び１年間の農業労働時間をそれぞれ記入してください。

区　分		前　年	本　年
臨時雇用者	農業に従事した人数（人）		
	年間の農業労働時間（時間）		

6－4　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区　分	前年	本年
	人数（人）	人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

変　更　案

10 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、生産量、販売金額についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物を含めてください。
また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

区分		①	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
稲	食用	水稲	主食用、加工用、酒造用、米粉用、輸出用、備蓄用				
		陸稲					
	飼料用米		自給用を含む				
	WCS用稲		稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む）				
稲わら・ぬか等		②	稲わら・もみがら・ぬかを販売したもの				
麦類	小麦						
	二条大麦						
	六条大麦						
	はだか麦						
	その他の麦		ライ麦など				
豆類	大豆		乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外		小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば		そば殻を含む				
	他の雑穀		とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ		種いも用、原料用かんしょを含む				
	ばれいしょ		種いも用、原料用ばれいしょを含む				
工芸農作物	てんさい						
	さとうきび						
	茶		作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物		なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物		牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む）				
	その他の作物		芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

変　更　前

10 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、販売金額等についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物を含めてください。
また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

区分		①	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
稲（食用）	水稲	主食用米	主食用				
		加工用米	酒造用、加工用				
		新規需要米等	輸出用、米粉用、備蓄用の合計				
	陸稲						
稲（飼料用）	飼料用米		自給用を含む。				
	WCS用稲		稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む。）				
稲わら・ぬか等		②	稲わら・ぬか等を販売したもの				
麦類	小麦						
	二条大麦						
	六条大麦						
	はだか麦						
	その他の麦		ライ麦など				
豆類	大豆		乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外		小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば		そば殻を含む。				
	他の雑穀		とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ		種いも用、原料用かんしょを含む。				
	ばれいしょ		種いも用、原料用ばれいしょを含む。				
工芸農作物	てんさい						
	さとうきび						
	茶		作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物		なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物		牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む。）				
	その他の作物		芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

変　更　理　由

①稲（食用）の水稲について、用途を明確にするため細分化して把握していたところであるが、統合しても利活用上の支障もなく、報告者の記入負担の軽減を図る目的から統合

②例示（もみがら）を追加

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
11 ページ	11 ページ	③調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない）

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 16頁の【8】へお進みください。　いいえ → 本年欄に記入してください。

③ ・かんしょへのでん粉原料用いも交付金、さとうきびへの甘味資源作物交付金は、販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

① 区分		本年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a） ha a	畑(普通畑)（a） ha a	生産量（kg）	販売金額（円） 億 万 千 百 十 一
稲	食用 水稲				
	食用 陸稲				
	飼料用米				
	WCS用稲				
稲わら・ぬか等					
麦類	小麦				
	二条大麦				
	六条大麦				
	はだか麦				
	その他の麦				
豆類	大豆				
	大豆以外				
雑穀	そば				
	他の雑穀				
いも類	かんしょ				
	ばれいしょ				
工芸農作物	てんさい				
	さとうきび				
	茶				
	その他工芸農作物				
その他	飼料用作物				
	その他の作物				

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい → 16頁の【8】へお進みください。　いいえ → 本年欄に記入してください。

7－1　稲、麦類等

① 区分		本年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a） ha a	畑(普通畑)（a） ha a	生産量（kg）	販売金額（円） 億 万 千 百 十 一
稲（食用）	水稲 主食用米				
	水稲 加工用米				
	水稲 新規需要米等				
	陸稲				
稲（飼料用）	飼料用米				
	WCS用稲				
稲わら・ぬか等					
麦類	小麦				
	二条大麦				
	六条大麦				
	はだか麦				
	その他の麦				
豆類	大豆				
	大豆以外				
雑穀	そば				
	他の雑穀				
いも類	かんしょ				
	ばれいしょ				
工芸農作物	てんさい				
	さとうきび				
	茶				
	その他工芸農作物				
その他	飼料用作物				
	その他の作物				

①稲（食用）の水稲について、用途を明確にするため細分化して把握していたところであるが、統合しても利活用上の支障もなく、報告者の記入負担の軽減を図る目的から統合

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

12 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－2　野菜

区　分	前　年 品　目 コード	品　目　名	作付延べ面積 露地（a）	作付延べ面積 施設（m^2）	販売金額（円）
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年 品　目 コード	品　目　名	作付延べ面積（植栽面積） 露地（a）	作付延べ面積（植栽面積） 施設（m^2）	販売金額（円）
果　樹					
	その他の果樹				

12 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－2　野菜

区　分	前　年 品　目 コード	品　目　名	作付延べ面積 露地（a）	作付延べ面積 施設（m^2）	販売金額（円）
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年 品　目 コード	品　目　名	作付延べ面積（植栽面積） 露地（a）	作付延べ面積（植栽面積） 施設（m^2）	販売金額（円）
果　樹					
	その他の果樹				

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

13 ページ

7－2　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜			ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード										
	01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
	02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト	14	ブロッコリー
	03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

④

7－3　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果樹			ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
	その他の果樹				

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード										
	51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
	52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
	53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

13 ページ

7－2　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜			ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード										
	01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
	02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト		
	03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

7－3　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果樹			ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
	その他の果樹				

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード										
	51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
	52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
	53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

④野菜生産出荷安定法に基づく指定野菜に「ブロッコリー」が位置づけられたことから、選択肢に「ブロッコリー」を追加

変　更　案

14 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（つづき）

7－4　花き

区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積 露地（a）	前年 作付延べ面積 施設（m^2）	前年 販売金額（円）
露地花き	露地で生産する鉢植えの花木を含む			
施設花き	施設で生産する鉢植えの花木を含む			

7－5　畜産物

⑤ 区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前年 飼養頭羽数、生産量	前年 販売頭羽数	前年 販売金額（円）
酪農	⑤ 生乳（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
酪農	搾乳牛		搾乳牛(乾乳中の牛を含む)の**月平均飼養頭数**		頭		
酪農	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（F1、ETを含む）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・F1クロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
養豚	子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
⑤ 採卵養鶏	⑤ 採卵鶏		採卵鶏(うずらを除く)の**月平均飼養羽数**		羽		
⑤ 採卵養鶏	鶏卵（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）、廃鶏	kg		
⑤ ブロイラー			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
その他畜産	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蜜、養蜂等			

変　更　前

14 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－4　花き

区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積 露地（a）	前年 作付延べ面積 施設（m^2）	前年 販売金額（円）
露地花き	露地で生産する鉢植えの花木を含む。			
施設花き	施設で生産する鉢植えの花木を含む。			

7－5　畜産物

⑤ 区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前年 飼養頭羽数、生産量	前年 販売頭羽数	前年 販売金額（円）
酪農	⑤ 生乳生産量（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
酪農	搾乳牛		搾乳牛（乾乳中の牛を含む。）の**月平均飼養頭数**		頭		
酪農	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（F1、ETを含む。）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・F1クロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
養豚	子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
⑤ 採卵養鶏	⑤ 飼養羽数		採卵鶏（うずらを除く。）の**月平均飼養羽数**		羽		
⑤ 採卵養鶏	鶏卵生産量（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む。）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む。）、廃鶏	kg		
⑤ ブロイラー養鶏			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く。）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く。）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
その他畜産	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蜜、養蜂等			

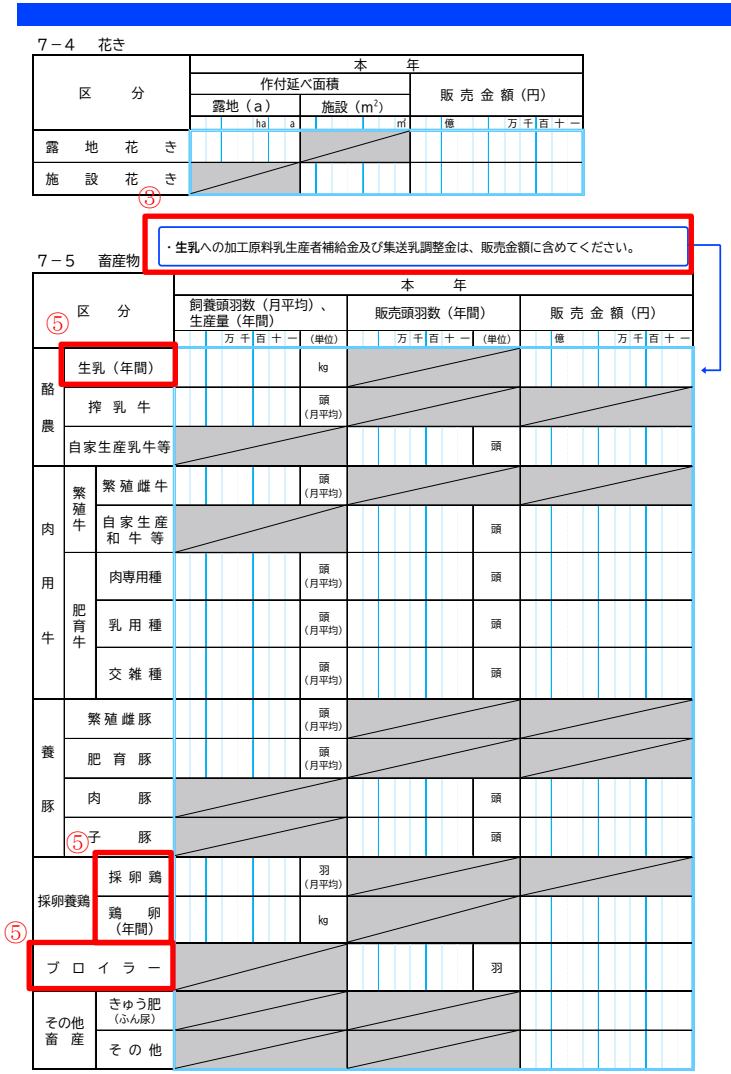
変　更　理　由

⑤表現の適正化

変　更　案

15 ページ

7－4　花き



区　分	本　年 作付延べ面積 露地（a）	施設（m²）	販売金額（円）
	ha　a	㎡	億　万千百十一
露地花き			
施設花き			

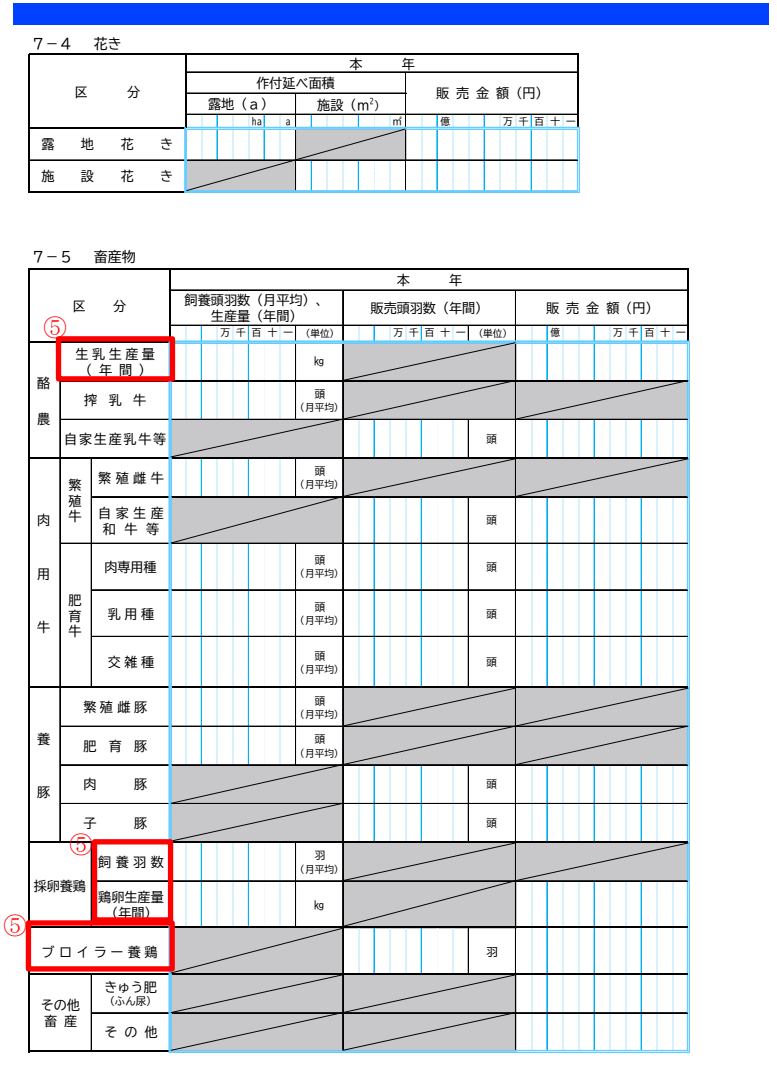
③

・生乳への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、販売金額に含めてください。

7－5　畜産物

⑤ 区　分			本　年 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間）		販売頭羽数（年間）		販売金額（円）
			万千百十一	（単位）	万千百十一	（単位）	億　万千百十一
酪農	生乳（年間）			kg			
酪農	搾乳牛			頭（月平均）			
酪農	自家生産乳牛等					頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛		頭（月平均）			
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等				頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種		頭（月平均）		頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種		頭（月平均）		頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種		頭（月平均）		頭	
養豚	繁殖雌豚			頭（月平均）			
養豚	肥育豚			頭（月平均）			
養豚	肉豚					頭	
養豚	⑤子豚					頭	
採卵養鶏	採卵鶏			羽（月平均）			
採卵養鶏	鶏卵（年間）			kg			
⑤ ブロイラー						羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）						
その他畜産	その他						

変　更　前



15 ページ

7－4　花き

区　分	本　年 作付延べ面積 露地（a）	施設（m²）	販売金額（円）
	ha　a	㎡	億　万千百十一
露地花き			
施設花き			

7－5　畜産物

⑤ 区　分			本　年 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間）		販売頭羽数（年間）		販売金額（円）
			万千百十一	（単位）	万千百十一	（単位）	億　万千百十一
酪農	生乳生産量（年間）			kg			
酪農	搾乳牛			頭（月平均）			
酪農	自家生産乳牛等					頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛		頭（月平均）			
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等				頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種		頭（月平均）		頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種		頭（月平均）		頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種		頭（月平均）		頭	
養豚	繁殖雌豚			頭（月平均）			
養豚	肥育豚			頭（月平均）			
養豚	肉豚					頭	
養豚	子豚					頭	
採卵養鶏	⑤飼養羽数			羽（月平均）			
採卵養鶏	鶏卵生産量（年間）			kg			
⑤ ブロイラー養鶏						羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）						
その他畜産	その他						

変　更　理　由

③調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない）

⑤表現の適正化

変　更　案

16 ページ

【8】農作業受託収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

農作業受託についてお伺いします。

１年間に農作業受託収入がありましたか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年金額欄に記入してください。

いいえ → 【9】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円） 億 万 千 百 十 一

⑥

【9】農業に関する共済・補助金等（全ての方にお答えいただく項目です。）

農業に関する共済・補助金等についてお伺いします。

１年間に農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金等はありましたか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 次の設問へお進みください。

いいえ → 調査は終了になります。

⑦

名　称　等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 受取金（円）	前年 金額 積立金等（円）
農業保険	農業共済				
農業保険	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合　計					

変　更　前

16 ページ

【8】農作業受託収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

農作業受託についてお伺いします。

１年間に農作業受託収入がありましたか。

はい → 本年金額欄に記入してください。

いいえ → 【9】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円） 億 万 千 百 十 一

⑥

【9】制度受取金・積立金等（全ての方にお答えいただく項目です。）

制度受取金・積立金等についてお伺いします。

１年間に農業に関する制度受取金・積立金等がありましたか。

はい → 次の設問へお進みください。

いいえ → 調査は終了になります。

（右頁に続きます。）

⑦

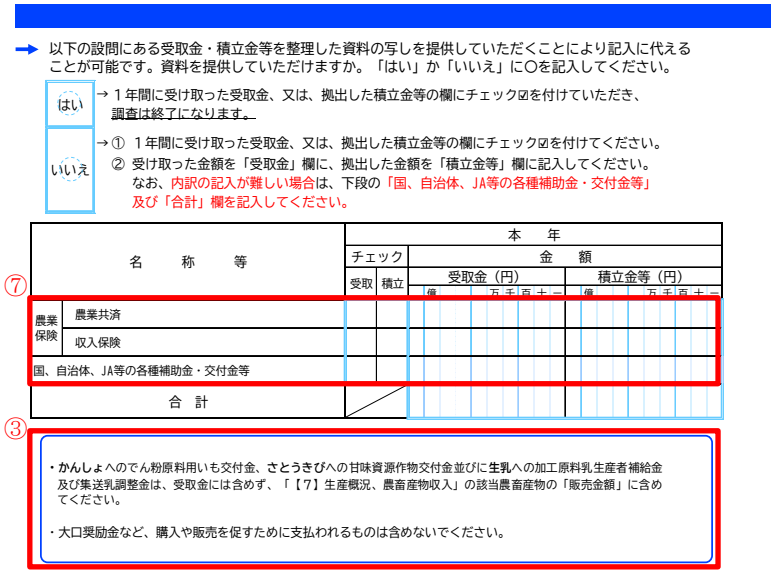
名　称　等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 制度受取金等（円）	前年 金額 制度積立金等（円）
共通					
水田・畑作					
野菜					
茶					
果樹					
畜産					
その他					
合　計					

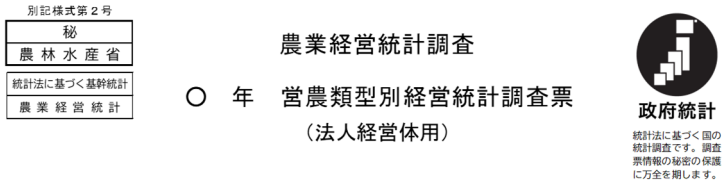
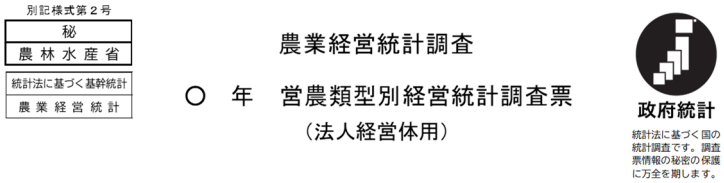
内訳の記入が難しい場合は、「上記以外の制度受取金」、「合計」欄を記入してください。

変　更　理　由

⑥報告者にとって分かりやすい表現に、変更（従前と概念の変更はない）

⑦農業に関する共済・補助金等については、令和６年調査から（調査時に制度名称を印字して配布する等対応していたものの）報告者の記入負担軽減のため、その他の制度受取金・積立金欄と合計欄のみの記入を可能としたことにより、計のみ記入する報告者もいるため、事業ごとの活用は低下していることから、利活用上、支障のない範囲で、客体の負担軽減のため、把握する項目数を縮減

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
17 ページ  以下の設問にある受取金・積立金等を整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。 いいえ →① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けてください。 ② 受け取った金額を「受取金」欄に、拠出した金額を「積立金等」欄に記入してください。 なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等」及び「合計」欄を記入してください。 ⑦ 名　称　等 / 本年 / チェック（受取・積立） / 金額 / 受取金（円） / 積立金等（円） 農業保険：農業共済 農業保険：収入保険 国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等 合　計 ③ ・かんしょへのでん粉原料用いも交付金、さとうきびへの甘味資源作物交付金並びに生乳への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、受取金には含めず、「【7】生産概況、農畜産物収入」の該当農畜産物の「販売金額」に含めてください。 ・大口奨励金など、購入や販売を促すために支払われるものは含めないでください。 調査は以上です。ご協力、ありがとうございました。	17 ページ  以下の設問にある制度受取金・積立金等を整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。 はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。 いいえ →① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金の欄にチェック☑を付けてください。 ② 受け取った金額を「制度受取金等」欄に、支払った金額を「制度積立金等」欄に記入してください。 なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「上記以外の制度受取金等」、「合計（制度受取金等）」及び「合計（制度積立金等）」欄を記入してください。 ⑦ 名　称　等 / 本年 / チェック（受取・積立） / 金額 / 制度受取金等（円） / 制度積立金等（円） 共通 水田・畑作 野菜 茶 果樹 畜産 その他 合　計 内訳の記入が難しい場合は、「上記以外の制度受取金」、「合計」欄を記入してください。 調査は以上です。ご協力、ありがとうございました。	⑦農業に関する共済・補助金等については、令和６年調査から（調査時に制度名称を印字して配布する等対応していたものの）報告者の記入負担軽減のため、その他の制度受取金・積立金欄と合計欄のみの記入を可能としたことにより、計のみ記入する報告者もいるため、事業ごとの活用は低下していることから、利活用上、支障のない範囲で、客体の負担軽減のため、把握する項目数を縮減 ③調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない）

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
別添３－２　営農類型別経営統計調査票（法人経営体用） １ページ  別記様式第２号 秘 農林水産省 統計法に基づく基幹統計 農業経営統計 農業経営統計調査 ○　年　営農類型別経営統計調査票 （法人経営体用） 政府統計 統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。 営農類型　番号 ☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。 ☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。 統計作成以外の目的に使うことはありません。 【記入上の留意事項】 １．○年４月１日～○年３月31日の間に到来した決算日の対象となる１年間について記入してください。 ２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。 ３．調査項目欄には、右づめで記入してください。 ４．黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用し、間違えた場合は消しゴムで消してください。 ５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。 ６．本調査に必要な資料 設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。 ○ 貸借対照表 ○ 損益計算書 ○ 事業経費の内訳がわかる書類 （製造原価報告書や販売費及び一般管理費内訳書など） ○ 労働時間や給与支給額がわかる書類 ○ 生産状況・販売金額の内訳がわかる書類 ○年○月○日までに提出をお願いします。 （決算月が１月～３月の場合は○月○日までに提出をお願いします。） ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。 【通信欄】 決算期間の１年間で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。	別添３－２　営農類型別経営統計調査票（法人経営体用） １ページ  別記様式第２号 秘 農林水産省 統計法に基づく基幹統計 農業経営統計 農業経営統計調査 ○　年　営農類型別経営統計調査票 （法人経営体用） 政府統計 統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。 営農類型　番号 ☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。 ☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。 統計作成以外の目的に使うことはありません。 【記入上の留意事項】 １．○年４月１日～○年３月31日の間に到来した決算日の対象となる１年間について記入してください。 ２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。 ３．調査項目欄には、右づめで記入してください。 ４．黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用し、間違えた場合は消しゴムで消してください。 ５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。 ６．本調査に必要な資料 設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。 ○ 貸借対照表 ○ 損益計算書 ○ 事業経費の内訳がわかる書類 （製造原価報告書や販売費及び一般管理費内訳書など） ○ 労働時間や給与支給額がわかる書類 ○ 生産状況・販売金額の内訳がわかる書類 ○年○月○日までに提出をお願いします。 （決算月が１月～３月の場合は○月○日までに提出をお願いします。） ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。 【通信欄】 決算期間の１年間で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。	視認性向上のため、インデント位置、色、レイアウト等を変更（以下同じ）

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

2ページ

【はじめに】
調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。
○　貸借対照表や事業経費（製造原価、販売費及び一般管理費）に係る勘定科目の記入欄は、貴法人が採用する勘定科目と異なる場合があります。
○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。

1　調査票の構成

区　分	説　明	ページ
【1】現況	認定農業者の有無、決算期、経営する土地面積等の状況について記入してください。	3
【2】貸借対照表	資産や負債の状況について記入してください。	4
【3】投資と資金の調達	農業に係る投資や資金調達の状況について記入してください。	5
【4】労働の概要、給与の状況	事業に従事した人数や労働時間、役員、雇用者への給与の状況について記入してください。	6、7
【5】損益計算書	農業以外も含めた全ての事業収支の状況について記入してください。	8
【6】農業に係る事業経費	農業に係る経費の状況について記入してください。	9～11
【7】生産概況、農畜産物収入	農畜産物の生産概況と販売収入について記入してください。	12～17
① 【8】農作業受託収入、事業消費など	農作業受託収入、事業消費に仕向けた農畜産物の金額について記入してください。	18
【9】農業に関する共済・補助金等	農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金に係る状況について記入してください。	18、19

2　「【6】農業に係る事業経費」の記入に際しての留意点

（1）　「当期製品製造原価」と「販売費及び一般管理費」の内訳である「事業経費」については、法人ごとに会計処理が異なるため、貴法人に該当する項目（【6】農業に係る事業経費（6－1－1又は6－2－1））（9頁又は10頁））を選択し記入してください。

② （2）　「事業経費」の勘定科目は、日本農業法人協会が定める「農業の会計に関する指針」（平成26年5月制定）及びその参考資料の「農業法人標準勘定科目」を基準に設定しています。このため、調査項目に採用している勘定科目と貴法人の勘定科目の名称に相違がある場合には、調査項目に採用している勘定科目の説明欄を参照し科目ごとに記入してください。

変更前

2ページ

【はじめに】
調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。
○　貸借対照表や事業経費（製造原価、販売費及び一般管理費）に係る勘定科目の記入欄は、貴法人が採用する勘定科目と異なる場合があります。
○　事業経費に係る記入は、農業についてのみとしてください。
○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。

1　調査票の構成

区　分	説　明	ページ
【1】現況	認定農業者の有無、決算期、経営する土地面積等の状況について記入してください。	3
【2】貸借対照表	資産や負債の状況について記入してください。	4
【3】投資と資金の調達	農業に係る投資や資金調達の状況について記入してください。	5
【4】労働の概要、給与の状況	事業に従事した人数や労働時間、役員、雇用者への給与の状況について記入してください。	6、7
【5】損益計算書	農業以外も含めた全ての事業収支の状況について記入してください。	8
【6】農業に係る事業経費	農業に係る経費の状況について記入してください。	9～11
【7】生産概況、農畜産物収入	農畜産物の生産概況と販売収入について記入してください。	12～17
① 【8】農作業受託収入、事業消費など	農作業受託収入、事業消費に仕向けた農畜産物の金額について記入してください。	18、19
【9】制度受取金・積立金等	制度受取金等に係る状況について記入してください。	18、19

2　「【6】農業に係る事業経費」の記入に際しての留意点

（1）　「当期製品製造原価」と「販売費及び一般管理費」の内訳である「事業経費」については、法人ごとに会計処理が異なるため、貴法人に該当する項目（【6】農業に係る事業経費（P9）（6-1-1又は6-2-1））を選択し記入してください。

② （2）　「事業経費」の勘定科目は、農業法人協会が定める「農業の会計に関する指針」（平成26年5月制定）及びその参考資料の「標準的勘定科目一覧」を基準に設定しています。

（3）　このため、調査項目に採用している勘定科目は、各法人ごとに異なるものであるため、貴法人の勘定科目の名称と相違がある場合には、勘定科目の説明欄を参照し科目ごとに記入してください。

変更理由

①報告者にとって分かりやすい表現に変更（従前と概念の変更はない）

②表現の適正化（（2）と（3）の記載は関連しているため統合）

変　更　案

3ページ

【1】現況

1－1　経営する法人の形態等についてお伺いします。

③

区分		前年		本年	
①	家族による経営ですか。	はい	いいえ	はい	いいえ
②	貴法人は認定農業者ですか。又は、認定農業者はいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
③	決算期間の期末月を記入してください。	月		月	
④	決算日時点の経営主の年齢を記入してください。	歳		歳	
⑤	農業以外の事業を行っていますか。	はい	いいえ	はい	いいえ

・**農業以外の事業**とは、農業生産関連事業（農産加工、観光農園、貸し農園、農家民宿、農家レストラン）、林業、米穀集荷販売業、不動産経営などをいいます。

区分		前年		本年	
⑥	集落営農ですか。	はい	いいえ	はい	いいえ

・**集落営農**とは、集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいいます。

④

1－2　決算期末時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田、畑、樹園地、牧草地及び採草放牧地がありますか。
「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→ 本年欄に記入してください。

いいえ　→ 4頁の【2】へお進みください。

区分は現状の地目で記入してください。また、貸している面積は含みません。
なお、集落営農の場合は、構成員持ち寄りの耕地は借入地に含めてください。

区　分	前　年		本　年	
	経営面積 a	うち借入地 a	経営面積 ha a	うち借入地 ha a
田				
畑（樹園地、牧草地を除く）				
樹園地（茶の植栽面積を含む）				
牧草地				
採草放牧地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

変　更　前

3ページ

【1】現況

1－1　経営する法人の形態等についてお伺いします。

①	家族による経営ですか。	はい	いいえ
②	貴法人は認定農業者ですか。又は、認定農業者はいますか。	はい	いいえ
③	決算期間の期末月を記入してください。	月	
④	決算日時点の経営主の年齢を記入してください。	歳	
⑤	農業以外の事業を行っていますか。	はい	いいえ

・**農業以外の事業**とは、農業生産関連事業（農産加工、観光農園、貸し農園、農家民宿、農家レストラン）、林業、米穀集荷販売業、不動産経営などをいいます。

⑥	集落営農ですか。	はい	いいえ

「集落営農」とは、集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいいます。

④

1－2　決算期末時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田～採草放牧地がありますか。

はい　→ 本年欄に記入してください。　いいえ　→4頁の【2】へお進みください。

区分は現状の地目で記入してください。また、貸している面積は含みません。
なお、集落営農の場合は、構成員持ち寄りの耕地は借入地に含めてください。

区　分	前　年		本　年	
	経営面積（a）	うち借入地（a）	経営面積 ha a	うち借入地 ha a
田				
畑（樹園地、牧草地を除く。）				
樹園地（茶の植栽面積含む。）				
牧草地				
採草放牧地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

変　更　理　由

③報告者が、記入日時点の年齢を誤記入されるケースがあったことから、前回値のプレプリント欄を追加

④報告者が、単に「採草放牧地があるか」を質問されていると誤認されたケースがあったことから、明文化

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

4ページ

【2】貸借対照表

資産、負債の状況について、貸借対照表を参照して、期末の金額を記入してください。
また、農業以外の事業も経営している場合は、農業の占める割合を必ず記入（有形固定資産の内訳及び負債計のみ）してください。

「貸借対照表」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、5頁の【3】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

2－1　資産の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
資産計	資産の合計				
流動資産	流動資産の合計				
うち 現金・預貯金	現金、当座預金、普通預金、定期預金				
売掛金・未収入金	通常取引による営業上の未収入金				
棚卸資産	農産物、半製品、仕掛品、貯蔵品、資材				
うち 農産物	農産物				
固定資産	固定資産の計				
有形固定資産	有形固定資産の計				
うち 動物・植物	乳牛、繁殖牛、繁殖豚、果樹、茶、桑 等				
自動車・農機具	車両運搬具、トラクター、乾燥機、機械装置、籾すり機 等				
建物・構築物	建物、施設、畜舎、建物付属設備 等				
土地	農地、付属施設 等				
減価償却累計額	間接法による場合の減価償却費の累計額				
無形固定資産	電話加入権、地上権、借地権				
投資・その他の資産	農協出資金、長期貸付金、投資証券、補償金				
繰延資産	創立費、開業費				

2－2　負債の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
負債計	負債の合計				
流動負債	流動負債の合計				
うち 買掛金・未払金	原材料等の購入代金等の未払金の合計				
短期借入金	返済期限が1年以内の借入金				
固定負債	固定負債の合計				
うち 長期借入金	返済期限が1年を超える借入金				

5頁の【3】へお進みください。

変更前

4ページ

【2】貸借対照表

資産、負債の状況について、貸借対照表を参照して、期末の金額を記入してください。
また、農業以外の事業も経営している場合は、農業の占める割合を必ず記入（有形固定資産の内訳及び負債計のみ）してください。

「貸借対照表」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい → 農業以外の事業を行っている場合は、点線内の農業割合を必ず記入の上、5頁の【3】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

2－1　資産の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
資産計	資産の合計				
流動資産	流動資産の合計				
うち 現金・預貯金	現金、当座預金、普通預金、定期預金				
売掛金・未収入金	通常取引による営業上の未収入金				
棚卸資産	農産物、半製品、仕掛品、貯蔵品、資材				
うち 農産物	農産物				
固定資産	固定資産の計				
有形固定資産	有形固定資産の計				
うち 動物・植物	乳牛、繁殖牛、繁殖豚、果樹、茶、桑 等				
自動車・農機具	車両運搬具、トラクター、乾燥機、機械装置、籾すり機 等				
建物・構築物	建物、施設、畜舎、建物付属設備 等				
土地	農地、付属施設 等				
減価償却累計額	間接法による場合の減価償却費の累計額				
無形固定資産	電話加入権、地上権、借地権				
投資・その他の資産	農協出資金、長期貸付金、投資証券、補償金				
繰延資産	創立費、開業費				

2－2　負債の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
負債計	負債の合計				
流動負債	流動負債の合計				
うち 買掛金・未払金	原材料等の購入代金等の未払金の合計				
短期借入金	返済期限が1年以内の借入金				
固定負債	固定負債の合計				
うち 長期借入金	返済期限が1年を超える借入金				

次頁の【3】へお進みください。

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

5ページ

【3】投資と資金の調達

3－1　直近決算期における設備投資の状況についてお伺いします。

1年間に、建物・構築物、自動車・農機具、事業用の動物・植物、土地への投資を行いましたか。
「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→　本年欄に記入してください。
いいえ　→　3－2へお進みください。

事業経営のため1年間（決算期間）に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。また、農業以外の事業も経営している場合は、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。 ⑤

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く）				
土地	土地の購入金額				

3－2　直近決算期の資金調達の状況についてお伺いします。

1年間に、事業のための資金調達を行いましたか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→　本年欄に記入してください。
いいえ　→　6頁の【4】へお進みください。

1年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、農業以外の事業も経営している場合は、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。 ⑤

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
短期借入金	返済期限が1年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が1年を超える借入金				

変更前

5ページ

【3】投資と資金の調達

3－1　直近決算期における設備投資の状況についてお伺いします。

1年間に、建物・構築物、自動車・農機具、事業用の動物・植物、土地への投資を行いましたか。

はい　→　本年欄に記入してください。
いいえ　→　3－2へお進みください。

事業経営のため1年間（決算期間）に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。また、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。 ⑤

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く。）				
土地	土地の購入金額				

3－2　直近決算期の資金調達の状況についてお伺いします。

1年間に、事業のための資金調達を行いましたか。

はい　→　本年欄に記入してください。
いいえ　→　6頁の【4】へお進みください。

1年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。 ⑤

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
短期借入金	返済期限が1年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が1年を超える借入金				

変更理由

⑤農業以外の事業を行っている場合に、記入が必須であることを分かりやすく伝えるため、変更

変　更　案

6ページ

【4】労働の概要、給与の状況

⑥ **雇用形態別の従事者数、農業労働時間等についてお伺いします。**
なお、「うち農業」には、農畜産物の生産に加え、販売・一般管理に従事した人数及び労働時間を含めて記入してください。

以下の設問にある従事者数、農業労働時間、性別、支給した給与を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→　8頁の【5】へお進みください。
いいえ　→　本年欄に記入してください。

4－1　男性の従事者数：1年間の男性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 男性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 65歳未満（人）	本年 男性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち7か月以上						

4－2　女性の従事者数：1年間の女性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 女性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 65歳未満（人）	本年 女性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち7か月以上						

4－3　臨時雇用者数：1年間の臨時雇用者数（男女計）について、実人数で記入してください。

区分	前年 従事者数（人）	前年 うち農業（人）	本年 従事者数（人）	本年 うち農業（人）
臨時雇用者				

4－4　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区分	前年 人数（人）	本年 人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

変　更　前

6ページ

【4】労働の概要、給与の状況

雇用形態別の従事者数、農業労働時間等についてお伺いします。

以下の設問にある従事者数、農業労働時間、性別、支給した給与を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい　→8頁の【5】へお進みください。　いいえ　→　本年欄に記入してください。

4－1　男性の従事者数：1年間の男性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 男性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 65歳未満（人）	本年 男性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち7か月以上						

4－2　女性の従事者数：1年間の女性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 女性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 65歳未満（人）	本年 女性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち7か月以上						

4－3　臨時雇用者数：1年間の臨時雇用者数（男女計）について、実人数で記入してください。

区分	前年 従事者数（人）	前年 うち農業（人）	本年 従事者数（人）	本年 うち農業（人）
臨時雇用者				

4－4　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区分	前年 人数（人）	本年 人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

変　更　理　由

⑥「うち農業」に含める範囲を明確化（従前と概念に変更はない）

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

7ページ

4－5　労働時間：１年間の労働時間の合計を雇用形態別に記入してください。
また、農業には、貴法人が請け負った農作業も含みます。

区　分		前　年 ② 年間の事業労働時間（時間）	前　年 ② うち農業（時間）	本　年 ② 年間の事業労働時間（時間）	本　年 ② うち農業（時間）
有　給　役　員					
常用雇用者	正社員・正職員				
常用雇用者	その他				
常用雇用者	うち7カ月以上				
臨　時　雇　用　者					

・労働時間の合計の記入は、整理した資料若しくは以下の方法などにより算出した値を記入してください。
「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出した値を記入してください。
＜例＞
正社員５人の平均労働時間が、1日８時間、年間300日働いている場合、８×300×５＝12,000となるため、「12,000」を記入してください。

4－6　１年間に支給した給与（農業以外の事業に従事した従事者を含みます。）
支給総額を雇用形態別に記入してください。
なお、従事分量配当として事業従事者に支払った場合は給与に含めます。

区　分		前　年 給与支給総額（円）	本　年 給与支給総額（円） 億 万 千 百 十 一
有　給　役　員			0 0 0 0
常用雇用者	正社員・正職員		0 0 0 0
常用雇用者	その他		0 0 0 0
臨　時　雇　用　者			0 0 0 0

⑦
＜留意点＞
・退職金、法定福利費及び福利厚生費は支給総額に含めないでください。
・支給総額は千の位を四捨五入して、記入してください。

【雇用形態の区分】
○**有給役員**：法人の取締役、理事などで役員報酬を得ている者をいいます。
○**常用雇用者**：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**正社員・正職員**：常用雇用者のうち貴法人で正社員・正職員として処遇している者をいいます。
・**その他**：常用雇用者のうち正社員・正職員以外の者（１か月以上雇用したパート、アルバイト等）をいいます。
○**臨時雇用者**：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
酪農ヘルパー等の派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

変更前

7ページ

4－5　労働時間：１年間の労働時間の合計を雇用形態別に記入してください。
また、農業には、貴法人が請け負った農作業も含みます。

区　分		前　年 ② 年間の事業労働時間（時間）	前　年 ② うち農業労働時間（時間）	本　年 ② 年間の事業労働時間（時間）	本　年 ② うち農業労働時間（時間）
有　給　役　員					
常用雇用者	正社員・正職員				
常用雇用者	その他				
常用雇用者	うち7カ月以上				
臨　時　雇　用　者					

労働時間の合計の記入は、整理した資料若しくは以下の方法などにより算出した値を記入してください。
「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出した値を記入してください。
＜例＞
正社員５人の平均労働時間が、1日８時間、年間300日働いている場合、８×300×５＝12,000となるため、「12,000」を記入してください。

4－6　１年間に支給した給与（農業以外の事業に従事した従事者を含みます。）
支給総額を雇用形態別に記入してください。
なお、従事分量配当として事業従事者に支払った場合は給与に含めます。

区　分		前　年 給与支給総額（円）	本　年 給与支給総額（円） 億 万 千 百 十 一
有　給　役　員			0 0 0 0
常用雇用者	正社員・正職員		0 0 0 0
常用雇用者	その他		0 0 0 0
臨　時　雇　用　者			0 0 0 0

⑦
＜留意点＞
・退職金、法定福利費及び福利厚生費は支給総額に含めないでください。
・支給総額は万円単位（千の位を四捨五入）で記入してください。

【雇用形態の区分】
○**有給役員**：法人の取締役、理事などで役員報酬を得ている者をいいます。
○**常用雇用者**：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**正社員・正職員**：常用雇用者のうち貴法人で正社員・正職員として処遇している者をいいます。
・**その他**：常用雇用者のうち正社員・正職員以外の者（１か月以上雇用したパート、アルバイト等）をいいます。
○**臨時雇用者**：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
酪農ヘルパー等の派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

変更理由

②表現の適正化（６ページとの横並びを揃えるため）

⑦桁誤りを防ぐため、留意点の記載内容を修正

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
8ページ **【5】損益計算書** **事業全体の売上高や経費等についてお伺いします。** 5－1　損益計算書：事業全体の売上高、経費等について記入してください。 「損益計算書」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。 資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい → 農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、5－2へお進みください。 いいえ → 本年欄に記入してください。 勘定科目 / 前年 金額（円） / 農業割合 % / 本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一 / 農業割合 % 営業収支（売上高、売上原価等）：売上高 / 売上原価（①＋②＋③＋④－⑤）/ 期首商品棚卸高 ① / 当期商品仕入高 ② / 当期製品製造原価 ③ / 生物売却原価 ④ / 期末商品棚卸高 ⑤ / 販売費及び一般管理費 営業外収支：営業外収益 / 営業外費用 / 支払利子・割引料 特別損益等：特別利益 / 特別損失 / 当期純利益 ⑧ 5－2　「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳である事業経費についてお伺いします。 「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳の整理方法について当てはまる方へお進みください。 ①まとめて整理している（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合）→ 9頁へお進みください。 ②別々に整理している（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合）→ 10頁へお進みください。	8ページ **【5】損益計算書** **事業全体の売上高や経費等についてお伺いします。** 5－1　損益計算書：事業全体の売上高、経費等について記入してください。 「損益計算書」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。 はい → 農業以外の事業を行っている場合は、点線内の農業割合を必ず記入の上、5－2へお進みください。 いいえ → 本年欄に記入してください。 勘定科目 / 前年 金額（円） / 農業割合 % / 本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一 / 農業割合 % 営業収支（売上高、売上原価等）：売上高 / 売上原価（①＋②＋③＋④－⑤）/ 期首商品棚卸高 ① / 当期商品仕入高 ② / 当期製品製造原価 ③ / 生物売却原価 ④ / 期末商品棚卸高 ⑤ / 販売費及び一般管理費 営業外収支：営業外収益 / 営業外費用 / 支払利子・割引料 特別損益等：特別利益 / 特別損失 / 当期純利益 ⑧ 5－2　「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳である事業経費についてお伺いします。 「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳の整理方法について当てはまる方へお進みください。 ①まとめて整理している（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合）→ 9頁へお進みください。 ②別々に整理している（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合）→ 10頁へお進みください。	⑧商品仕入における農業割合は必ず０％となり、回答不要な欄であったことから、回答不要な欄に変更

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
9ページ 【6】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費） ①　製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合 6－1－1　事業経費についてお伺いします。 事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれか）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。 資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい　⑤→農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、⑨「飼料費」がある場合は6－1－2へ、「飼料費」がない場合は、12頁の【7】へお進みください。 いいえ　⑨→本年欄に記入の上、「飼料費」がある場合は6－1－2へ、「飼料費」がない場合は、12頁の【7】へお進みください。 勘定科目／説明／前年 金額（円）／前年 農業割合（%）／本年 金額（円）／本年 農業割合（%） 合計：【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」＋「販売費及び一般管理費」の合計額 期首材料棚卸高：原材料の期首在り高 期首仕掛品棚卸高：仕掛品の期首在り高 種苗費：種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費 素畜費：預託費、種付費、もと畜の購入費用、登録料 肥料費：肥料の購入費用 飼料費：飼料の購入費用、自給飼料の振替額 農薬費・衛生費：農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費 水道料・動力光熱費：生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費 諸材料費：敷料、諸材料費、消耗品費、事務用消耗品費 労務費・人件費：賃金手当、給与手当、雑給、賞与、役員報酬、福利厚生費等 うち作業用衣料費：労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費 農作業等委託費：賃耕料、刈取料などの農作業委託料 診療衛生費：獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費 外注費：酪農や肥育牛などのヘルパー利用料、ほ場管理費等 農具・機械車両費等：農機具、農業用車両の購入費 修繕費・修繕用部品費：建物、農機具、農機具車両等の維持、修繕費 共済掛金・保険料：作物や農用施設の共済掛金、支払保険料、事務費等 減価償却費：農業生産に使用した建物、農機具、自動車等の減価償却費 地代・家賃・賃借料：地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費 土地改良費：土地改良負担金・土地改良賦課金、水利費 租税公課・諸会費等：租税公課、諸会費、諸負担金、消費税、印紙税、共済賦課金、自賠責保険 荷造運賃・販売手数料：出荷用包装材料、運賃、販売手数料など その他の経費：上記以外の経費 期末材料棚卸高：原材料の期末在り高 期末仕掛品棚卸高：仕掛品の期末在り高 育成費振替高：育成中の生物に対する当期の支出 飼料費がある場合は、こちらも必ず回答してください。 6－1－2　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。 ⑨「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい　「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入の上、12頁の【7】へお進みください。 いいえ　→12頁の【7】へお進みください。 前年金額（円）／本年金額（円）（億 万 千 百 十 一）	9ページ 【6】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費） ①　製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合 6－1－1　事業経費についてお伺いします。 事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書及び販売費及び一般管理費内訳書のいずれか）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。 はい　⑤→資料を提出いただける場合は、点線内の農業割合を必ず記入の上、12頁の【7】へお進みください。 いいえ　→本年欄に記入してください。 ⑩農業に係る経費を科目別に記入してください。農業以外の事業を行っている場合で農業に係る経費の記入が困難な場合は事業全体の金額を記入し、うち農業の占める割合を必ず記入してください。 勘定科目／説明／前年 金額（円）／前年 農業割合（%）／本年 金額（円）／本年 農業割合（%） 合計：【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」＋「販売費及び一般管理費」の合計額 期首材料棚卸高：原材料の期首在り高 期首仕掛品棚卸高：仕掛品の期首在り高 種苗費：種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費 素畜費：預託費、種付費、もと畜の購入費用、登録料 肥料費：肥料の購入費用 飼料費：飼料の購入費用、自給飼料の振替額 農薬費・衛生費：農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費 水道料・動力光熱費：生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費 諸材料費：敷料、諸材料費、消耗品費、事務用消耗品費 労務費・人件費：賃金手当、給与手当、雑給、賞与、役員報酬、福利厚生費等 うち作業用衣料費：労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費 農作業等委託費：賃耕料、刈取料などの農作業委託料 診療衛生費：獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費 外注費：酪農や肥育牛などのヘルパー利用料、ほ場管理費等 農具・機械車両費等：農機具、農業用車両の購入費 修繕費・修繕用部品費：建物、農機具、農機具車両等の維持、修繕費 共済掛金・保険料：作物や農用施設の共済掛金、支払保険料、事務費等 減価償却費：農業生産に使用した建物、農機具、自動車等の減価償却費 地代・家賃・賃借料：地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費 土地改良費：土地改良負担金・土地改良賦課金、水利費 租税公課・諸会費等：租税公課、諸会費、諸負担金、消費税、印紙税、共済賦課金、自賠責保険 荷造運賃・販売手数料：出荷用包装材料、運賃、販売手数料など その他の経費：上記以外の経費 期末材料棚卸高：原材料の期末在り高 期末仕掛品棚卸高：仕掛品の期末在り高 育成費振替高：育成中の生物に対する当期の支出 飼料費がある場合は、必ず回答してください。 6－1－2　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。 はい　⑨→「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入してください。 いいえ　→12頁の【7】へお進みください。 前年金額（円）／本年金額（円）（億 万 千 百 十 一）	⑤農業以外の事業を行っている場合に、記入が必須であることを分かりやすく伝えるため、修正 ⑨「はい」「いいえ」選択後の回答の流れが分かるように説明を追加 ⑩他の設問との横並びを図るとともに、変更案の⑤⑨と内容が重複することから削除 ⑨「はい」選択後の回答の流れが分かるように説明を追加

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

10 ページ

【6】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費）（つづき）

② 製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合

※9頁の6－1－1を回答した場合は、12頁の【7】へ進んでください。

6－2－1　事業経費についてお伺いします。

事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。

資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → ⑤ 農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、6－2－2へお進みください。

いいえ → ⑨ 本年欄に記入の上、6－2－2へお進みください。

(1) 当期製品製造原価（製造原価報告書）

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円）	本年 農業割合 %
当期製品製造原価	【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」計上額				
材料費 期首材料棚卸高	原材料の期首在り高				
材料費 種苗費	種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費				
材料費 素畜費	預託費、種付費、もと畜の購入費用、登録料				
材料費 肥料費	肥料の購入費用				
材料費 飼料費	飼料の購入費用、自給飼料の振替額				
材料費 農薬費	農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費				
材料費 敷料費	敷料の購入費				
材料費 燃油費	重油等、園芸用ハウス暖房用燃料等の購入費				
材料費 諸材料費	被覆用ビニール（マルチ）、鉢、針金などの購入費				
材料費 期末材料棚卸高	原材料の期末在り高				
労務費	賃金手当、雑給、賞与、法定福利費、福利厚生費				
労務費 うち作業用衣料費	労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費				
外注費 作業委託費	賃耕料、刈取料などの農作業委託料				
外注費 診療衛生費	獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費				
外注費 預託費	家畜の育成、肥育の委託費				
外注費 ヘルパー利用料	酪農や肥育牛などのヘルパー利用料				
外注費 ほ場管理費	けい畔草刈り、水管理・肥培管理などの作業委託料				
製造経費 農機具費	取得10万円未満又は耐用年数1年未満の農機具購入費				
製造経費 修繕費	建物、農機具、農業用車両等の維持、修繕費				
製造経費 動力光熱費	生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費				
製造経費 共済掛金	作物や農用施設の共済掛金、価格補填負担金の収入保険料、事務費等				
製造経費 減価償却費	農業生産に使用した建物、農機具等の減価償却費				
製造経費 賃借料・地代	地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費				
製造経費 土地改良費	土地改良負担金、土地改良賦課金、水利費				
製造経費 租税公課	生産用固定資産税等の租税、自動車損害賠償責任保険、農業共済賦課金				
その他	上記以外の経費				
仕掛品棚卸高増減	仕掛品の期首在り高－期末在り高				
育成費振替高	育成中の生物に対する当期の支出				

飼料費がある場合は、こちらも必ず回答してください。

10 ページ

【6】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費）（続き）

② 製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合

※前頁6－1－1を回答した場合は、12頁の【7】へ進んでください。

6－2－1　事業経費についてお伺いします。

事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい → ⑤ 資料を提出いただける場合は、点線内の農業割合を必ず記入の上、12頁の【7】へお進みください。

いいえ → ⑨ 本年欄に記入してください。

⑩ 農業に係る経費を科目別に記入してください。農業以外の事業を行っている場合で農業に係る経費の記入が困難な場合は事業全体の金額を記入し、うち農業の占める割合を必ず記入してください。

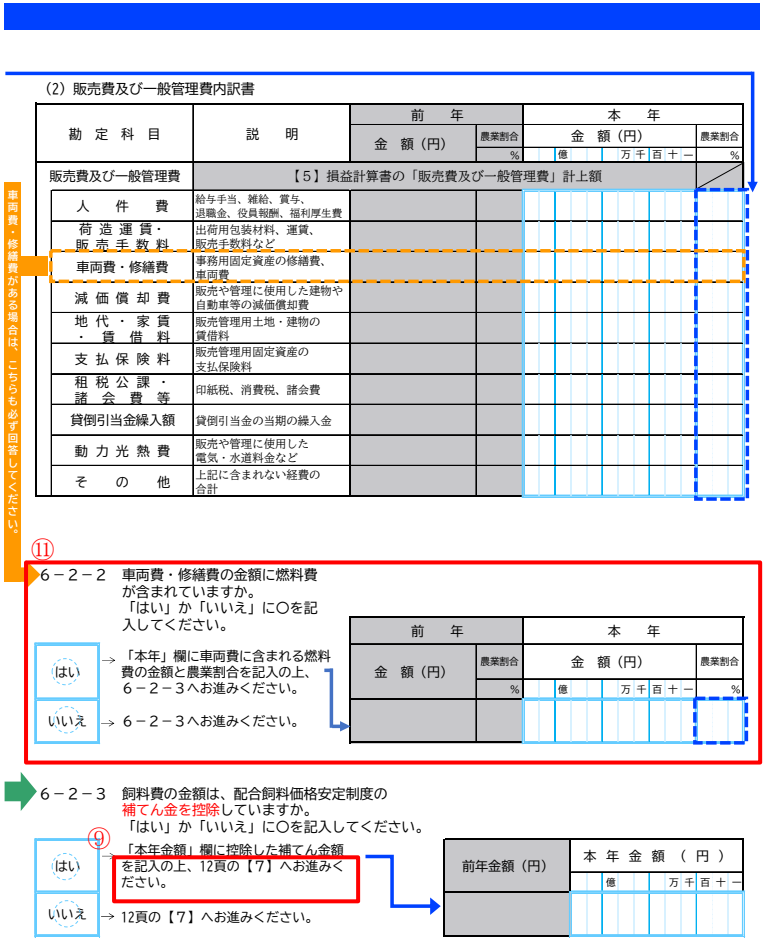
(1) 当期製品製造原価（製造原価報告書）

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円）	本年 農業割合 %
当期製品製造原価	【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」計上額				
材料費 期首材料棚卸高	原材料の期首在り高				
材料費 種苗費	種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費				
材料費 素畜費	種付費、もと畜の購入費用、登録料				
材料費 肥料費	肥料の購入費用				
材料費 飼料費	飼料の購入費用、自給飼料の振替額				
材料費 農薬費	農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費				
材料費 敷料費	敷料の購入費				
材料費 燃油費	重油等、園芸用ハウス暖房用燃料等の購入費				
材料費 諸材料費	被覆用ビニール（マルチ）、鉢、針金などの購入費				
材料費 期末材料棚卸高	原材料の期末在り高				
労務費	賃金手当、雑給、賞与、法定福利費、福利厚生費				
労務費 うち作業用衣料費	労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費				
外注費 作業委託費	賃耕料、刈取料などの農作業委託料				
外注費 診療衛生費	獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費				
外注費 預託費	家畜の育成、肥育の委託費				
外注費 ヘルパー利用料	酪農や肥育牛などのヘルパー利用料				
外注費 ほ場管理費	けい畔草刈り、水管理・肥培管理などの作業委託料				
製造経費 農機具費	取得10万円未満又は耐用年数1年未満の農機具購入費				
製造経費 修繕費	建物、農機具、農業用車両等の維持、修繕費				
製造経費 動力光熱費	生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費				
製造経費 共済掛金	作物や農用施設の共済掛金、価格補填負担金の収入保険料、事務費等				
製造経費 減価償却費	農業生産に使用した建物、農機具等の減価償却費				
製造経費 賃借料・地代	地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費				
製造経費 土地改良費	土地改良負担金、土地改良賦課金、水利費				
製造経費 租税公課	生産用固定資産税等の租税、自動車損害賠償責任保険、農業共済賦課金				
その他	上記以外の経費				
仕掛品棚卸高増減	仕掛品の期首在り高－期末在り高				
育成費振替高	育成中の生物に対する当期の支出				

⑤農業以外の事業を行っている場合に、記入が必須であることを分かりやすく伝えるため、修正

⑨「いいえ」選択後の回答の流れが分かるように説明を追加

⑩他の設問との横並びを図るとともに、変更案の⑤⑨と内容が重複することから削除

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
11 ページ  (2) 販売費及び一般管理費内訳書 車両費・修繕費がある場合は、こちらも必ず回答してください。 ⑪ 6－2－2　車両費・修繕費の金額に燃料費が含まれていますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 はい → 「本年」欄に車両費に含まれる燃料費の金額と農業割合を記入の上、6－2－3へお進みください。 いいえ → 6－2－3へお進みください。 6－2－3　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。 ⑨ はい → 「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入の上、12頁の【7】へお進みください。 いいえ → 12頁の【7】へお進みください。	11 ページ  (2) 販売費及び一般管理費内訳書 飼料費がある場合は、必ず回答してください。 ⑪ 6－2－2　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。 はい ⑨ → 「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入してください。 いいえ → 12頁の【7】へお進みください。	⑪燃料費は、決算資料の販売費及び一般管理費から転記出来ないケースが多いため、別途、回答項目欄を設けて把握する方法に変更 ⑨「はい」選択後の回答の流れが分かるように説明を追加

変　更　案

12 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入

1年間（決算期間）に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、生産量、販売金額についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には、事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物も含めてください。

⑫ 農業生産関連事業（自家製造加工品の原料用等）に仕向けている自家農産物の金額は、「販売金額」欄には含めず、18頁の８－２に記入してください。

また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

区分		作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
稲	⑬ 食用 水稲	主食用、加工用、酒造用、米粉用、輸出用、備蓄用				
	食用 陸稲					
	飼料用米	自給用を含む				
	WCS用稲	稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む）				
稲わら・ぬか等	⑭	稲わら・もみがら・ぬかを販売したもの				
麦類	小麦					
	二条大麦					
	六条大麦					
	はだか麦					
	その他の麦	ライ麦など				
豆類	大豆	乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外	小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば	そば殻を含む				
	その他の雑穀	とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ	種いも用、原料用かんしょを含む				
	ばれいしょ	種いも用、原料用ばれいしょを含む				
工芸農作物	てんさい					
	さとうきび					
	茶	作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物	なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物	牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む）				
	その他の作物	芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

変　更　前

12 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入

1年間（決算期間）に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、販売金額等についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物を含めてください。

また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

区分		作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
⑬ 稲（食用）	水稲 主食用米	主食用				
	水稲 加工用米	酒造用、加工用				
	水稲 新規需要米等	輸出用、米粉用、備蓄用の合計				
	陸稲					
稲（飼料用）	飼料用米	自給用を含む。				
	WCS用稲	稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む。）				
稲わら・ぬか等	⑭	稲わら・ぬか等を販売したもの				
麦類	小麦					
	二条大麦					
	六条大麦					
	はだか麦					
	その他の麦	ライ麦など				
豆類	大豆	乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外	小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば	そば殻を含む。				
	その他の雑穀	とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ	種いも用、原料用かんしょを含む。				
	ばれいしょ	種いも用、原料用ばれいしょを含む。				
工芸農作物	てんさい					
	さとうきび					
	茶	作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物	なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物	牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む。）				
	その他の作物	芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

変　更　理　由

⑫農業生産関連事業に仕向けた場合の金額について、「【７】生産概況、農畜産物収入」又は「【８】農作業受託収入、家事消費など」に記入することにしていたが、「【７】生産概況、農畜産物収入」に記入いただいた場合、農産物の販売金額を正確に把握することができず、審査に時間を要することから、【８】のみに記入いただくよう説明文を追加

⑬稲（食用）の水稲について、用途を明確にするため細分化して把握していたところであるが、統合しても利活用上の支障もなく、報告者の記入負担の軽減を図る目的から統合

⑭例示（もみがら）を追加

変　更　案

13 ページ

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 18頁の【8】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。⑮

・かんしょへのでん粉原料用いも交付金、さとうきびへの甘味資源作物交付金は、販売金額に含めてください。

7－1　稲、麦類等

区分		本年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑(普通畑)（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
		ha a	ha a		億 万 千 百 十 一
⑬ 稲	食用 水稲				
	食用 陸稲				
	飼料用米				
	WCS用稲				
稲わら・ぬか等					
麦類	小麦				
	二条大麦				
	六条大麦				
	はだか麦				
	その他の麦				
豆類	大豆				
	大豆以外				
雑穀	そば				
	他の雑穀				
いも類	かんしょ				
	ばれいしょ				
工芸農作物	てんさい				
	さとうきび				
	茶				
	その他工芸農作物				
その他	飼料用作物				
	その他の作物				

変　更　前

13 ページ

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。

はい →18頁の【8】へお進みください。　いいえ →本年欄に記入してください。

7－1　稲、麦類等

区分		本年 作付延べ面積（茶は植栽面積） 田（a）	畑(普通畑)（a）	生産量（kg）	販売金額（円）
		ha a	ha a		億 万 千 百 十 一
⑬ 稲（食用）	水稲 主食用米				
	水稲 加工用米				
	水稲 新規需要米等				
	陸稲				
稲（飼料用）	飼料用米				
	WCS用稲				
稲わら・ぬか等					
麦類	小麦				
	二条大麦				
	六条大麦				
	はだか麦				
	その他の麦				
豆類	大豆				
	大豆以外				
雑穀	そば				
	他の雑穀				
いも類	かんしょ				
	ばれいしょ				
工芸農作物	てんさい				
	さとうきび				
	茶				
	その他工芸農作物				
その他	飼料用作物				
	その他の作物				

変　更　理　由

⑮調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない）

⑬稲（食用）の水稲について、用途を明確にするため細分化して把握していたところであるが、統合しても利活用上の支障もなく、報告者の記入負担の軽減を図る目的から統合

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

14 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－2　野菜

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果　樹					
	その他の果樹				

14 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－2　野菜

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果　樹					
	その他の果樹				

変　更　案

15 ページ

7－2　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区分	品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください）		本年 作付延べ面積 露地（a）	本年 作付延べ面積 施設（㎡）	本年 販売金額（円）
	コード	品目名	ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
露地野菜					
		その他の露地野菜			
施設野菜					
		その他の施設野菜			

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード									
	01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
	02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト	14	ブロッコリー
	03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

⑯

7－3　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区分	品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください）		本年 作付延べ面積（植栽面積） 露地（a）	本年 作付延べ面積（植栽面積） 施設（㎡）	本年 販売金額（円）
	コード	品目名	ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
果樹					
		その他の果樹			

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード									
	51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
	52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
	53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

変　更　前

15 ページ

7－2　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区分	品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください。）		本年 作付延べ面積 露地（a）	本年 作付延べ面積 施設（㎡）	本年 販売金額（円）
	コード	品目名	ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
露地野菜					
		その他の露地野菜			
施設野菜					
		その他の施設野菜			

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード									
	01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
	02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト		
	03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

7－3　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区分	品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください。）		本年 作付延べ面積（植栽面積） 露地（a）	本年 作付延べ面積（植栽面積） 施設（㎡）	本年 販売金額（円）
	コード	品目名	ha a	㎡	億 万 千 百 十 一
果樹					
		その他の果樹			

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード									
	51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
	52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
	53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

変　更　理　由

⑯野菜生産出荷安定法に基づく指定野菜に「ブロッコリー」が位置づけられたことから、選択肢に「ブロッコリー」を追加

変　更　案

16 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（つづき）

7－4　花き

区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前　年		
		作付延べ面積		販売金額（円）
		露地（a）	施設（m^2）	
露　地　花　き	露地で生産する鉢植えの花木を含む			
施　設　花　き	施設で生産する鉢植えの花木を含む			

7－5　畜産物

⑰ 区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前　年		
					飼養頭羽数、生産量	販売頭羽数	販売金額（円）
酪農	生乳（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
酪農	搾乳牛		搾乳牛(乾乳中の牛を含む)の**月平均飼養頭数**		頭		
酪農	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（FI、ETを含む）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・FIクロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
養豚	⑰子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
採卵養鶏	⑰採卵鶏		採卵鶏（うずらを除く）の**月平均飼養羽数**		羽		
採卵養鶏	⑰鶏卵（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）、廃鶏	kg		
⑰ブロイラー			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
その他畜産	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蚕、養蜂等			

変　更　前

16 ページ

【7】生産概況、農畜産物収入（続き）

7－4　花き

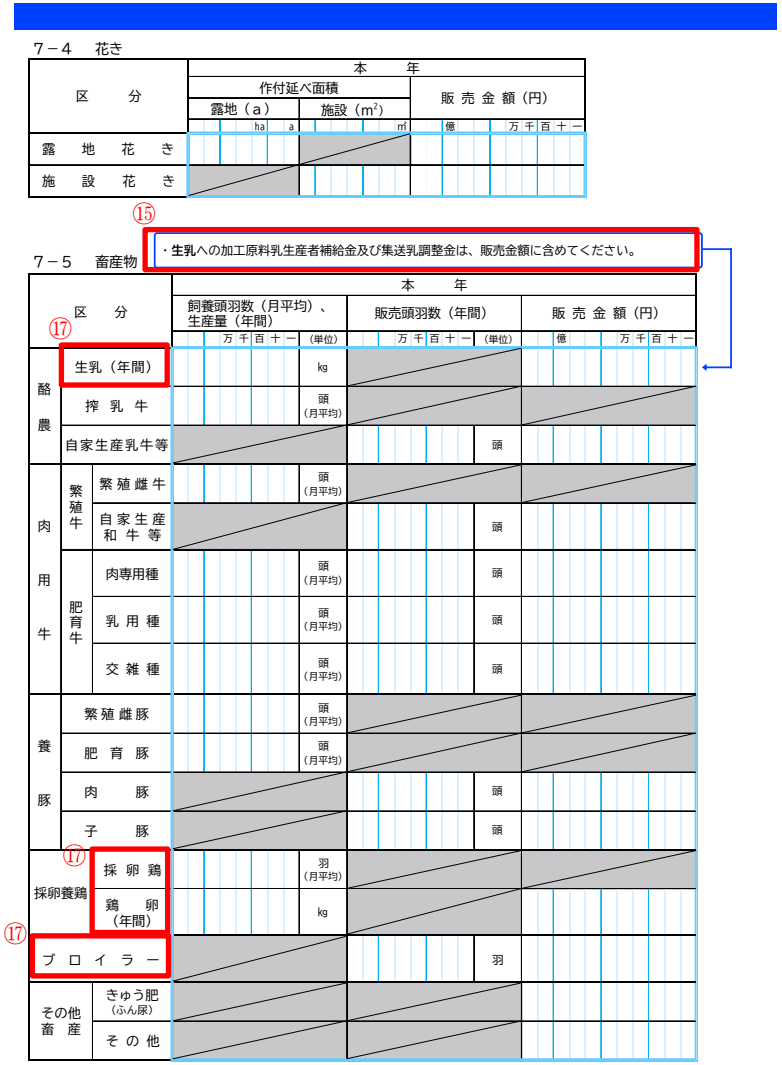
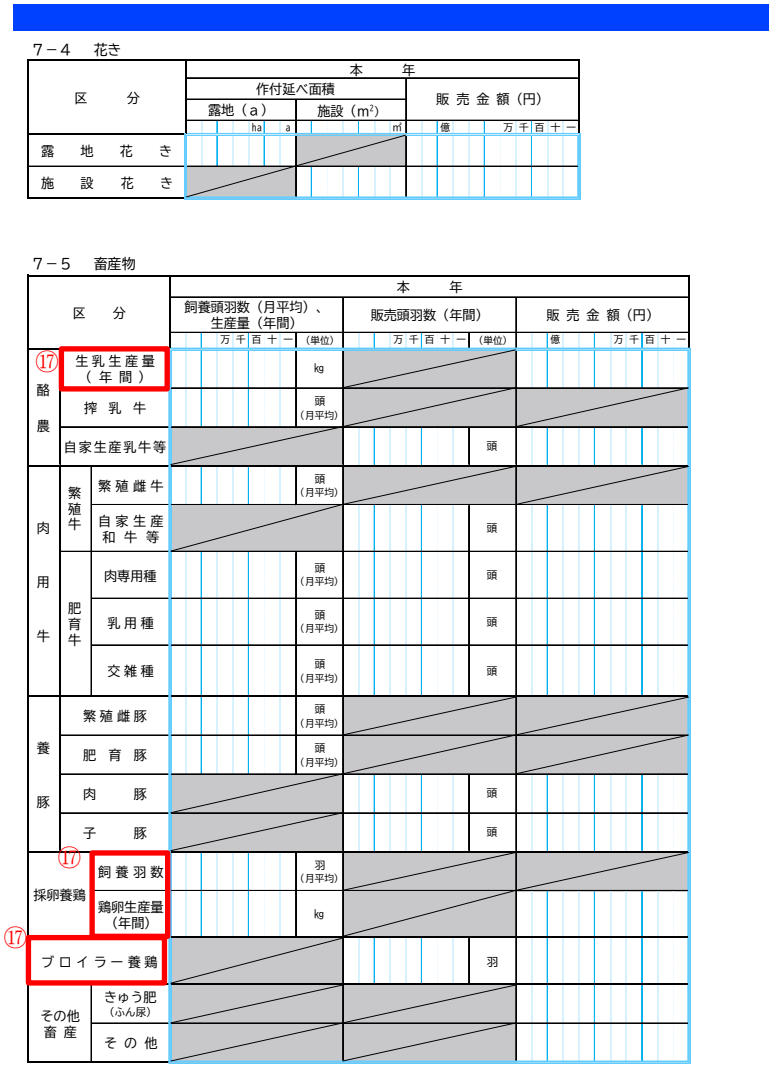
区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前　年		
		作付延べ面積		販売金額（円）
		露地（a）	施設（m^2）	
露　地　花　き	露地で生産する鉢植えの花木を含む。			
施　設　花　き	施設で生産する鉢植えの花木を含む。			

7－5　畜産物

⑰ 区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前　年		
					飼養頭羽数、生産量	販売頭羽数	販売金額（円）
酪農	生乳生産量（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
酪農	搾乳牛		搾乳牛（乾乳中の牛を含む。）の**月平均飼養頭数**		頭		
酪農	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（FI、ETを含む。）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・FIクロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
養豚	⑰子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
採卵養鶏	飼養羽数		採卵鶏（うずらを除く。）の**月平均飼養羽数**		羽		
⑰採卵養鶏	鶏卵生産量（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む。）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む。）、廃鶏	kg		
⑰ブロイラー養鶏			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く。）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く。）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
その他畜産	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蚕、養蜂等			

変　更　理　由

⑰表現の適正化

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
17 ページ  7－4　花き 区　分 / 本年 / 作付延べ面積 露地（a） / 作付延べ面積 施設（m^2） / 販売金額（円） 露地花き 施設花き ⑮ ・生乳への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、販売金額に含めてください。 7－5　畜産物 区　分 / 本年 / 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間） / 販売頭羽数（年間） / 販売金額（円） ⑰ 酪農：生乳（年間）（kg）、搾乳牛（頭（月平均））、自家生産乳牛等（頭） 肉用牛：繁殖牛：繁殖雌牛（頭（月平均））、自家生産和牛等（頭） 肥育牛：肉専用種（頭（月平均））、乳用種（頭（月平均））、交雑種（頭（月平均）） 養豚：繁殖雌豚（頭（月平均））、肥育豚（頭（月平均））、肉豚（頭）、子豚（頭） 採卵養鶏：⑰採卵鶏（羽（月平均））、鶏卵（年間）（kg） ⑰ブロイラー（羽） その他畜産：きゅう肥（ふん尿）、その他	17 ページ  7－4　花き 区　分 / 本年 / 作付延べ面積 露地（a） / 作付延べ面積 施設（m^2） / 販売金額（円） 露地花き 施設花き 7－5　畜産物 区　分 / 本年 / 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間） / 販売頭羽数（年間） / 販売金額（円） ⑰ 酪農：⑰生乳生産量（年間）（kg）、搾乳牛（頭（月平均））、自家生産乳牛等（頭） 肉用牛：繁殖牛：繁殖雌牛（頭（月平均））、自家生産和牛等（頭） 肥育牛：肉専用種（頭（月平均））、乳用種（頭（月平均））、交雑種（頭（月平均）） 養豚：繁殖雌豚（頭（月平均））、肥育豚（頭（月平均））、肉豚（頭）、子豚（頭） 採卵養鶏：⑰飼養羽数（羽（月平均））、鶏卵生産量（年間）（kg） ⑰ブロイラー養鶏（羽） その他畜産：きゅう肥（ふん尿）、その他	⑮調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない） ⑰表現の適正化

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

変更案

18 ページ

【8】農作業受託収入、事業消費など

8－1　農作業受託についてお伺いします。

1年間に農作業受託収入がありましたか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → ⑨「本年金額」欄に受託収入を記入の上、8－2へお進みください。

いいえ → 8－2へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

⑱

8－2　農業生産関連事業を行っている方にお伺いします。

自らが生産した農畜産物を農業生産関連事業に仕向けている場合は、仕向けた自家農畜産物の金額を記入してください。金額が不明な場合は、仕向けた数量に市場価格等を乗じて見積もった金額を記入してください。

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

【9】農業に関する共済・補助金等

⑲

農業に関する共済・補助金等についてお伺いします。

1年間に農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金等はありましたか。
「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 次の設問へお進みください。

いいえ → 調査は終了になります。

⑳

名　称　等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 受取金（円）	前年 金額 積立金等（円）
農業保険	農業共済				
農業保険	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合　計					

変更前

18 ページ

【8】農作業受託収入、事業消費など

8－1　農作業受託についてお伺いします。

1年間に農作業受託収入がありましたか。

はい → ⑨「本年金額」欄に受託収入を記入してください。

いいえ → 8－2へお進みください。

（右頁に続きます。）

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

⑲

【9】制度受取金・積立金等

制度受取金・積立金等についてお伺いします。

1年間に農業に関する制度受取金・積立金等がありましたか。

はい → 次の設問へお進みください。

いいえ → 調査は終了になります。

（右頁に続きます。）

⑳

名　称　等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 制度受取金等（円）	前年 金額 制度積立金等（円）
共通					
水田・畑作					
野菜					
茶					
果樹					
畜産					
その他					
合　計					

内訳の記入が難しい場合は、下段の「上記以外の制度受取金」、「合計」欄を記入ください。

変更理由

⑨「はい」選択後の回答の流れが分かるように説明を追加

⑱P19 から移動するとともに、ただし書きを削除

⑲報告者にとって分かりやすい表現に記載を変更（従前と概念の変更はない）

⑳農業に関する共済・補助金等については、令和６年調査から（調査時に制度名称を印字して配布する等対応していたものの）報告者の記入負担軽減のため、その他の制度受取金・積立金欄と合計欄のみの記入を可能としたことにより、計のみ記入する報告者もいるため、事業ごとの活用は低下していることから、利活用上、支障のない範囲で、客体の負担軽減のため、把握する項目数を縮減

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由
19 ページ 以下の設問にある受取金・積立金等を整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。 はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。 いいえ → ① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けてください。 ② 受け取った金額を「受取金」欄に、拠出した金額を「積立金等」欄に記入してください。 なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等」及び「合計」欄を記入してください。 ⑳ 名称等 / 本年 / チェック（受取・積立） / 金額（受取金（円）・積立金等（円）） 農業保険：農業共済 農業保険：収入保険 国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等 合計 ⑮ ・かんしょへのでん粉原料用いも交付金、さとうきびへの甘味資源作物交付金並びに生乳への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、受取金には含めず、「【７】生産概況、農畜産物収入」の該当農畜産物の「販売金額」に含めてください。 ・大口奨励金など、購入や販売を促すために支払われるものは含めないでください。	19 ページ ⑱ ８－２　農業生産関連事業を行っている方にお伺いします。 自らが生産した農畜産物を農業生産関連事業に仕向けている場合は、仕向けた自家農畜産物の金額を記入してください。金額が不明な場合は、仕向けた数量に市場価格等を乗じて見積もった金額を記入してください。 ただし、12~17ページの「【７】生産概況、農畜産物収入」に計上されている場合は記入不要です。 前年金額（円） / 本年金額（円） 以下の設問にある制度受取金・積立金等を整理した資料の写しを提出していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。 はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。 いいえ → ① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金の欄にチェック☑を付けてください。 ② 受け取った金額を「制度受取金等」欄に、支払った金額を「制度積立金等」欄に記入してください。 なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「上記以外の制度受取金等」、「合計（制度受取金等）」及び「合計（制度積立金等）」欄を記入してください。 ⑳ 名称等 / 本年 / チェック（受取・積立） / 金額（制度受取金等（円）・制度積立金等（円）） 共通 水田・畑作 野菜 茶 果樹 畜産 その他 内訳の記入が難しい場合は、下段の「上記以外の制度受取金」、「合計」欄を記入ください。 合計 調査は以上です。ご協力、ありがとうございました。	⑱P18 に移動するとともに、ただし書きを削除（農業生産関連事業に仕向けた場合の金額について、「【７】生産概況、農畜産物収入」に計上することがなくなったため。） ⑳農業に関する共済・補助金等については、令和６年調査から（調査時に制度名称を印字して配布する等対応していたものの）報告者の記入負担軽減のため、その他の制度受取金・積立金欄と合計欄のみの記入を可能としたことにより、計のみ記入する報告者もいるため、事業ごとの活用は低下していることから、利活用上、支障のない範囲で、客体の負担軽減のため、把握する項目数を縮減 ⑮調査票と一緒に配布している記入の仕方にも記載しているが、販売金額に含める交付金等の明確化のため、調査票上に明文化（従前と概念の変更はない）

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

別添４　農業経営統計調査の集計事項一覧

目次

目　　次

Ⅰ　営農類型別経営統計

１　個人経営体

（1）水田作経営 …… 1
（2）畑作経営 …… 1
（3）野菜作経営 …… 2
（4）果樹作経営 …… 3
（5）花き作経営 …… 3
（6）酪農経営 …… 4
（7）肉用牛経営 …… 4
（8）養豚経営 …… 4
（9）採卵養鶏経営 …… 4
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 4

２　個人経営体（資産等把握経営体）

（1）水田作経営 …… 5
（2）畑作経営 …… 5
（3）野菜作経営 …… 5
（4）果樹作経営 …… 6
（5）花き作経営 …… 7
（6）酪農経営 …… 7
（7）肉用牛経営 …… 7
（8）養豚経営 …… 7
（9）採卵養鶏経営 …… 7
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 7

３　法人経営体

（1）水田作経営 …… 8
（2）畑作経営 …… 8
（3）野菜作経営 …… 9
（4）果樹作経営 …… 9
（5）花き作経営 …… 9
（6）酪農経営 …… 9
（7）肉用牛経営 …… 9
（8）養豚経営 …… 9
（9）採卵養鶏経営 …… 9
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 9

４　農業経営体

（1）水田作経営 …… 10
（2）畑作経営 …… 10
（3）野菜作経営 …… 10
（4）果樹作経営 …… 11
（5）花き作経営 …… 11
（6）酪農経営 …… 11
（7）肉用牛経営 …… 11
（8）養豚経営 …… 11
（9）採卵養鶏経営 …… 11
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 11

Ⅱ　経営形態別経営統計

１　個人経営体

（1）全国年次別統計表 …… 12
（2）全国農業地域別統計表 …… 12
（3）農業所得依存度別統計表 …… 12
（4）青色申告経営体統計表 …… 12
（5）農業地域類型別統計表 …… 12
（6）認定農業者のいる経営体の経営収支 …… 12

２　法人経営体

（1）全国年次別統計表 …… 12
（2）全国農業地域別統計表 …… 12
（3）法人経営体のうち組織法人経営体 …… 12
（4）法人経営体のうち個別法人経営体 …… 12

３　農業経営体

（1）全国年次別統計表 …… 12
（2）全国農業地域別統計表 …… 12

Ⅲ　農産物生産費統計

１　個別経営体

（1）米生産費 …… 13
（2）小麦生産費 …… 13
（3）二条大麦生産費 …… 13
（4）六条大麦生産費 …… 13
（5）はだか麦生産費 …… 13
（6）そば生産費 …… 13
（7）大豆生産費 …… 14
（8）原料用かんしょ生産費 …… 14
（9）原料用ばれいしょ生産費 …… 14
（10）なたね生産費 …… 14
（11）てんさい生産費 …… 14
（12）さとうきび生産費 …… 14

２　組織法人経営体

（1）米生産費 …… 14
（2）小麦生産費 …… 14
（3）大豆生産費 …… 14

別添４　農業経営統計調査の集計事項一覧

目次

目　　次

Ⅰ　営農類型別経営統計

１　個人経営体

（1）水田作経営 …… 1
（2）畑作経営 …… 1
（3）野菜作経営 …… 2
（4）果樹作経営 …… 3
（5）花き作経営 …… 3
（6）酪農経営 …… 4
（7）肉用牛経営 …… 4
（8）養豚経営 …… 4
（9）採卵養鶏経営 …… 4
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 4

２　個人経営体（主業経営体、準主業経営体及び副業的経営体）

（1）水田作経営 …… 4
（2）畑作経営 …… 4
（3）野菜作経営 …… 5
（4）果樹作経営 …… 6
（5）花き作経営 …… 7
（6）酪農経営 …… 7
（7）肉用牛経営 …… 7
（8）養豚経営 …… 7
（9）採卵養鶏経営 …… 7
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 7

３　法人経営体

（1）水田作経営 …… 8
（2）畑作経営 …… 9
（3）野菜作経営 …… 9
（4）果樹作経営 …… 9
（5）花き作経営 …… 9
（6）酪農経営 …… 10
（7）肉用牛経営 …… 10
（8）養豚経営 …… 10
（9）採卵養鶏経営 …… 10
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 10

４　農業経営体

（1）水田作経営 …… 11
（2）畑作経営 …… 11
（3）野菜作経営 …… 12
（4）果樹作経営 …… 12
（5）花き作経営 …… 12
（6）酪農経営 …… 12
（7）肉用牛経営 …… 12
（8）養豚経営 …… 12
（9）採卵養鶏経営 …… 12
（10）ブロイラー養鶏経営 …… 12

Ⅱ　経営形態別経営統計

１　個人経営体

（1）全国年次別統計表 …… 13
（2）全国農業地域別統計表 …… 13
（3）農業の主副業別統計表 …… 13
（4）青色申告経営体統計表 …… 13
（5）農業地域類型別統計表 …… 13
（6）認定農業者のいる経営体の経営収支 …… 13

２　法人経営体

（1）全国年次別統計表 …… 13
（2）全国農業地域別統計表 …… 13
（3）法人経営体のうち組織法人経営体 …… 13
（4）法人経営体のうち個別法人経営体 …… 13

３　農業経営体

（1）全国年次別統計表 …… 13
（2）全国農業地域別統計表 …… 13

Ⅲ　農産物生産費統計

１　個別経営体

（1）米生産費 …… 14
（2）小麦生産費 …… 14
（3）二条大麦生産費 …… 14
（4）六条大麦生産費 …… 14
（5）はだか麦生産費 …… 14
（6）そば生産費 …… 14
（7）大豆生産費 …… 15
（8）原料用かんしょ生産費 …… 15
（9）原料用ばれいしょ生産費 …… 15
（10）なたね生産費 …… 15
（11）てんさい生産費 …… 15
（12）さとうきび生産費 …… 15

２　組織法人経営体

（1）米生産費 …… 15
（2）小麦生産費 …… 15
（3）大豆生産費 …… 15

集計事項の見直しに伴う変更

記載の適正化（農林業センサスの変更に合わせた変更）

記載の適正化（農林業センサスに合わせた変更）

変　更　案

Ⅳ　畜産物生産費統計（個別経営体）

1　牛乳生産費 …… 15
2　去勢若齢肥育牛生産費 …… 15
3　乳用雄肥育牛生産費 …… 15
4　交雑種肥育牛生産費 …… 15
5　子牛生産費 …… 15
6　乳用雄育成牛生産費 …… 15
7　交雑種育成牛生産費 …… 15
8　肥育豚生産費 …… 15

本文内の記号の意味
◎：　平均値及び階層別を表章
○：　平均値のみを表章
×：　集計しない

本体

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
Ⅰ　営農類型別経営統計					調査対象経営体のうち、調査期間（５（２）に掲げる期間をいう。以下同じ。）に脱落等により調査不能となった経営体を除く経営体を集計の対象とする。（Ⅱにおいても同様）
1　個人経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況は２において集計
（1）水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	◎	○	
イ　水田作主業経営	〃	◎	○	×	
ウ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	◎	○	
エ　稲作１位経営	〃	◎	◎	○	
オ　稲作単一経営	〃	◎	◎	○	
カ　稲作１位複合経営	〃	◎	◎	○	
キ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	○※1	○※2	※１　北海道のみ ※２　関東・東山、九州のみ
（削除）					
ク　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	○	×	
（削除）					
（2）畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	○	◎	○	
イ　畑作主業経営	〃	○	◎※1	○※2	※１　都府県は平均値のみ ※２　九州のみ

変　更　前

Ⅳ　畜産物生産費統計（個別経営体）

1　牛乳生産費 …… 16
2　去勢若齢肥育牛生産費 …… 16
3　乳用雄肥育牛生産費 …… 16
4　交雑種肥育牛生産費 …… 16
5　子牛生産費 …… 16
6　乳用雄育成牛生産費 …… 16
7　交雑種育成牛生産費 …… 16
8　肥育豚生産費 …… 16

本文内の記号の意味
◎：　平均値及び階層別を表章
○：　平均値のみを表章
×：　集計しない

本体

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
Ⅰ　営農類型別経営統計					調査対象経営体のうち、調査期間（５（２）に掲げる期間をいう。以下同じ。）に脱落等により調査不能となった経営体を除く経営体を集計の対象とする。（Ⅱにおいても同様）
1　個人経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況は２において集計
（1）水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	◎	○	
イ　水田作主業経営	〃	◎	○	×	
ウ　稲作経営	稲作作付面積	◎	◎	○	
エ　稲作１位経営	〃	◎	◎	○	
オ　稲作単一経営	〃	◎	◎	○	
カ　稲作１位複合経営	〃	◎	◎	○	
キ　麦類作経営	麦類作作付面積	◎	○※1	○※2	※１　北海道のみ ※２　関東・東山、九州のみ
ク　麦類作１位経営		○	×	×	
ケ　大豆作経営	大豆作作付面積	◎	○	×	
コ　大豆作１位経営		○	×	×	
（2）畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	○	◎	○	
イ　畑作主業経営	〃	○	◎※1	○※2	※１　都府県は平均値のみ ※２　九州のみ

変　更　理　由

利活用上、削除しても問題ない統計表を削除
（以下、同様。）

変　更　案						変　更　前						変　更　理　由
区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考	区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考	
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別				全　国	北海道・都府県別	農業地域別		
ウ　麦類作経営		×	○※	×	※　北海道のみ	ウ　麦類作経営		×	○※	×	※　北海道のみ	
エ　大豆作経営		×	○※	×	※　〃	エ　大豆作経営		×	○※	×	※　〃	
オ　ばれいしょ作経営		×	○※	×	※　〃	オ　ばれいしょ作経営		×	○※	×	※　〃	
カ　てんさい作経営		×	○※	×	※　〃	カ　てんさい作経営		×	○※	×	※　〃	
キ　茶作経営		×	○※	×	※　都府県のみ	キ　茶作経営		×	○※	×	※　都府県のみ	
ク　さとうきび作経営		×	○※	×	※　〃	ク　さとうきび作経営		×	○※	×	※　〃	
ケ　かんしょ作経営		×	○※	×	※　〃	ケ　かんしょ作経営		×	○※	×	※　〃	
(3) 野菜作経営						(3) 野菜作経営						
ア　野菜作経営						ア　野菜作経営						
（ア）野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	○	○		（ア）野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	○	○		
（イ）野菜作主業経営		○	×	×		（イ）野菜作主業経営		○	×	×		
イ　露地野菜作経営						イ　露地野菜作経営						
（ア）露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○		（ア）露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○		
（イ）露地野菜作主業経営		○	×	×		（イ）露地野菜作主業経営		○	×	×		
（ウ）露地野菜作単一経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○		（ウ）露地野菜作単一経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○		
（エ）露地野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○		（エ）露地野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○		
ウ　施設野菜作経営						ウ　施設野菜作経営						
（ア）施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○		（ア）施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○		
（イ）施設野菜作主業経営		○	×	×		（イ）施設野菜作主業経営		○	×	×		
（ウ）施設野菜作単一経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○		（ウ）施設野菜作単一経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○		
（エ）施設野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○		（エ）施設野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○		
(4) 果樹作経営						(4) 果樹作経営						
ア　果樹作経営	果樹植栽面積	◎	○	○		ア　果樹作経営	果樹植栽面積	◎	○	○		
イ　果樹作主業経営		○	×	×		イ　果樹作主業経営		○	×	×		
ウ　果樹作単一経営	果樹植栽面積	◎	○	○		ウ　果樹作単一経営	果樹植栽面積	◎	○	○		
(5) 花き作経営						(5) 花き作経営						
ア　花き作経営						ア　花き作経営						
（ア）花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×		（ア）花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×		
（イ）花き作主業経営		○	×	×		（イ）花き作主業経営		○	×	×		
イ　露地花き作経営						イ　露地花き作経営						
（ア）露地花き作経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×		（ア）露地花き作経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×		
（イ）露地花き作主業経営		○	×	×		（イ）露地花き作主業経営		○	×	×		
（ウ）露地花き作単一経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×		（ウ）露地花き作単一経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×		
ウ　施設花き作経営						ウ　施設花き作経営						
（ア）施設花き作経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×		（ア）施設花き作経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×		
（イ）施設花き作主業経営		○	×	×		（イ）施設花き作主業経営		○	×	×		
（ウ）施設花き作単一経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×		（ウ）施設花き作単一経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×		

変　更　案

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	○	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
ウ　肥育牛経営					
（ア）肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
（イ）肉専用種が主	〃	◎	×	×	
（ウ）乳用種が主	〃	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	
2　個人経営体（資産等把握経営体）					単一経営は貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営		○	○	○	
（削除）					
（削除）					
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営		○	○	○	
（削除）					
イ　ばれいしょ作単一経営		×	○	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
ウ　茶作単一経営		×	○※	×	※　都府県のみ
エ　かんしょ作単一経営		×	○※1	○※2	※1　都府県のみ ※2　九州のみ
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営		○	○	○	
（削除）					
イ　露地野菜作経営		○	○	○	
（ア）露地きゅうり作単一経営		○	×	×	
（イ）露地大玉トマト作単一経営		○	×	×	
（ウ）露地なす作単一経営		○	×	×	
（エ）露地キャベツ作単一経営		○	×	×	
（オ）露地ほうれんそう作単一経営		○	×	×	
（カ）露地たまねぎ作単一経営		○	×	×	
（キ）露地レタス作単一経営		○	×	×	
（ク）露地はくさい作単一経営		○	×	×	
（ケ）露地白ねぎ作単一経営		○	×	×	
（コ）露地だいこん作単一経営		○	×	×	
（サ）露地にんじん作単一経営		○	×	×	
（シ）露地ブロッコリー作単一経営		○	×	×	
（削除）					

変　更　前

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	○	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
ウ　肥育牛経営					
（ア）肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
（イ）肉専用種が主	〃	◎	×	×	
（ウ）乳用種が主	〃	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	
2　個人経営体（主業経営体、準主業経営体及び青色申告の副業的経営体）					単一経営は貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営		○	○	○	
イ　水田作経営青色申告経営体		○	○	○	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営		○	○	○	
イ　畑作経営青色申告経営体		○	○	○	
ウ　ばれいしょ作単一経営		×	○	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
エ　茶作単一経営		×	○※	×	※　都府県のみ
オ　かんしょ作単一経営		×	○※1	○※2	※1　都府県のみ ※2　九州のみ
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営		○	○	○	
イ　野菜作経営青色申告経営体		○	○	○	
ウ　露地野菜作経営		○	○	○	
（ア）露地きゅうり作単一経営		○	×	×	
（イ）露地大玉トマト作単一経営		○	×	×	
（ウ）露地なす作単一経営		○	×	×	
（エ）露地キャベツ作単一経営		○	×	×	
（オ）露地ほうれんそう作単一経営		○	×	×	
（カ）露地たまねぎ作単一経営		○	×	×	
（キ）露地レタス作単一経営		○	×	×	
（ク）露地はくさい作単一経営		○	×	×	
（ケ）露地白ねぎ作単一経営		○	×	×	
（コ）露地だいこん作単一経営		○	×	×	
（サ）露地にんじん作単一経営		○	×	×	
（新規）		○	×	×	
エ　露地野菜作経営青色申告経営体		○	○	○	

変　更　理　由

記載の適正化（農林業センサスに合わせた変更）

野菜の選択肢に、「ブロッコリー」を追加したことに伴い、集計事項にも追加

変　更　案						変　更　前					
区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考	区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別				全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
ウ　施設野菜作経営		○	○	○		オ　施設野菜作経営		○	○	○	
（ア）施設きゅうり作単一経営		○	×	×		（ア）施設きゅうり作単一経営		○	×	×	
（イ）施設大玉トマト作単一経営		○	×	×		（イ）施設大玉トマト作単一経営		○	×	×	
（ウ）施設ミニトマト作単一経営		○	×	×		（ウ）施設ミニトマト作単一経営		○	×	×	
（エ）施設なす作単一経営		○	×	×		（エ）施設なす作単一経営		○	×	×	
（オ）施設ブロッコリー作単一経営		○	×	×		（新規）					
（削除）						カ　施設野菜作経営青色申告経営体		○	○	○	
(4) 果樹作経営						(4) 果樹作経営					
ア　果樹作経営		○	○	○		ア　果樹作経営		○	○	○	
（削除）						イ　果樹作経営青色申告経営体		○	○	○	
イ　りんご作単一経営		○	×	×		ウ　りんご作単一経営		○	×	×	
ウ　露地温州みかん作単一経営		○	×	×		エ　露地温州みかん作単一経営		○	×	×	
エ　露地ぶどう作単一経営		○	×	×		オ　露地ぶどう作単一経営		○	×	×	
オ　日本なし作単一経営		○	×	×		カ　日本なし作単一経営		○	×	×	
カ　もも作単一経営		○	×	×		キ　もも作単一経営		○	×	×	
キ　施設温州みかん作単一経営		○	×	×		ク　施設温州みかん作単一経営		○	×	×	
ク　施設ぶどう作単一経営		○	×	×		ケ　施設ぶどう作単一経営		○	×	×	
ケ　かき作単一経営		○	×	×		コ　かき作単一経営		○	×	×	
コ　うめ作単一経営		○	×	×		サ　うめ作単一経営		○	×	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考	区　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別				全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
サ　おうとう作単一経営		○	×	×		シ　おうとう作単一経営		○	×	×	
シ　キウイフルーツ作単一経営		○	×	×		ス　キウイフルーツ作単一経営		○	×	×	
ス　すもも作単一経営		○	×	×		セ　すもも作単一経営		○	×	×	
(5) 花き作経営						(5) 花き作経営					
ア　花き作経営		○	×	×		ア　花き作経営		○	×	×	
イ　露地花き作経営		○	×	×		イ　露地花き作経営		○	×	×	
ウ　施設花き作経営		○	×	×		ウ　施設花き作経営		○	×	×	
(6) 酪農経営		○	○	○		(6) 酪農経営		○	○	○	
(7) 肉用牛経営						(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営		○	○	○		ア　肉用牛経営		○	○	○	
イ　繁殖牛経営		○	○	○		イ　繁殖牛経営		○	○	○	
ウ　肥育牛経営		○	○	○		ウ　肥育牛経営		○	○	○	
(8) 養豚経営		○	○	○		(8) 養豚経営		○	○	○	
(9) 採卵養鶏経営		○	×	×		(9) 採卵養鶏経営		○	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営		○	×	×		(10) ブロイラー養鶏経営		○	×	×	

変　更　理　由

変　更　案

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
3　法人経営体					
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	○	○＊	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○＊	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○＊	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					
キ　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					
ク　水田作経営のうち集落営農組織法人					
（ア）水田作経営のうち集落営農組織法人	水田作作付延べ面積	◎	○＊	○	※　都府県のみ
（イ）稲作１位経営	稲作作付延べ面積	◎	○＊1	○＊2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（ウ）稲作単一経営	〃	◎	○＊1	○＊2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（削除）					
（エ）麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
（オ）大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○＊	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○＊	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○＊	×	※　〃
オ　てんさい作経営		×	○＊	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○＊	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○＊	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○＊	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					
（削除）					
（削除）					

変　更　前

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
3　法人経営体					
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付面積	◎	○	○＊	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○＊	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○＊	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付面積	◎	×	×	
キ　麦類作１位経営		○	×	×	
ク　大豆作経営	大豆作作付面積	◎	×	×	
ケ　大豆作１位経営		○	×	×	
コ　水田作経営のうち集落営農組織法人					
（ア）水田作経営のうち集落営農組織法人	水田作作付延べ面積	◎	○＊	○	※　都府県のみ
（イ）稲作１位経営	稲作作付面積	◎	○＊1	○＊2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（ウ）稲作単一経営	〃	◎	○＊1	○＊2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（エ）稲作１位複合経営		○	×	×	
（オ）麦類作経営	麦類作作付面積	◎	×	×	
（カ）麦類作１位経営		○	×	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
（キ）大豆作経営	大豆作作付面積	◎	×	×	
（ク）大豆作１位経営		○	×	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○＊	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○＊	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○＊	×	※　〃
オ　てんさい作経営		×	○＊	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○＊	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○＊	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○＊	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営					
ア　花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地花き作経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設花き作経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×	

変　更　理　由

法人経営体の花き作については、母集団の大きさも小さく、露地花き作、施設花き作別に標本設計を行うことが困難であり、それに伴い集計区分を削除

変　更　案	変　更　前	変　更　理　由

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲 全　国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲 全　国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲 全　国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
4　農業経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	○	○ *	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○ *	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○ *	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
キ　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○ *	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○ *	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○ *	×	※　〃
オ　てんさい作経営		×	○ *	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○ *	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○ *	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○ *	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲 全　国	北海道・都府県別	農業地域別	備　考
4　農業経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付面積	◎	○	○ *	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○ *	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付面積	◎	×	×	
キ　麦類作１位経営		○	×	×	
ク　大豆作経営	大豆作作付面積	◎	×	×	
ケ　大豆作１位経営		○	×	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○ *	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○ *	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○ *	×	※　〃
オ　てんさい作経営		×	○ *	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○ *	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○ *	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○ *	×	※　〃

変　更　案

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
（削除）					
（削除）					
（削除）					
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
Ⅱ　経営形態別経営統計					
1　個人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 農業所得依存度別統計表		○	○	○	
(4) 青色申告経営体統計表		○	○	○	
(5) 農業地域類型別統計表		○	×	×	
(6) 認定農業者のいる経営体の経営収支		○	○	×	
2　法人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 法人経営体のうち組織法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
(4) 法人経営体のうち個別法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
3　農業経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	

Ⅲ・Ⅳ　（略）

変　更　前

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営					
ア　花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地花き作経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設花き作経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×	
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　分	階層の種類	表章地域の範囲 全国	北海道・都府県別	農業地域別	備考
Ⅱ　経営形態別経営統計					
1　個人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 農業の主副業別統計表		○	○	○	
(4) 青色申告経営体統計表		○	○	○	
(5) 農業地域類型別統計表		○	×	×	
(6) 認定農業者のいる経営体の経営収支		○	○	×	
2　法人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 法人経営体のうち組織法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
(4) 法人経営体のうち個別法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
3　農業経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	

Ⅲ・Ⅳ　（略）

変　更　理　由

法人経営体の露地花き作、施設花き作の集計区分を削除したことから、農業経営体の集計も削除

記載の適正化（農林業センサスに合わせた変更）

調査計画（変更後）

１　調査の名称

農業経営統計調査（注１）

（その１：営農類型別経営統計に係る調査（以下「経営統計調査」という。））

（注１）農業経営統計調査は、経営統計調査及び農畜産物の生産費統計に係る調査（以下「生産費調査」という。）の２種類とする。

２　調査の目的

統計法（平成19年法律第53号。以下「法」という。）に基づき、農業経営統計（法第２条第４項に規定する基幹統計）を作成し、農業経営体の経営の実態を明らかにするとともに、農業行政の基礎資料を整備することを目的とする。

３　調査対象の範囲

（１）地域的範囲（■全国　□その他）

（２）属性的範囲（□個人　■世帯　□事業所　■企業・法人・団体　□地方公共団体　□その他）

農業経営体のうち、農産物の販売を目的とする経営体（農業経営体の定義については、**別添１**を参照）とし、次の区分とする。

ア　個人経営体

世帯による事業を行う経営体のうち法人格を有しない経営体

イ　法人経営体

世帯による事業を行う経営体のうち法人格を有する経営体、農事組合法人及び会社組織による経営体

４　報告を求める個人又は法人その他の団体

（１）報告者数

3,784経営体（母集団の大きさ： 774,087経営体）

（内訳）

○個人経営体	2,963（母集団の大きさ（以下同じ）742,989）
水田作	638（418,215）
畑作	593（ 31,357）
野菜作	651（127,621）
果樹作	435（108,274）
花き作	165（ 15,046）
酪農	68（ 7,792）
肉用牛	252（ 17,506）

養豚	44（ 694）
採卵養鶏	38（ 742）
ブロイラー養鶏	29（ 780）
その他（注２）	50（ 14,962）

（注２）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（個人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。

○法人経営体	821（ 31,098）
水田作（集落営農）	75（ 4,647）
水田作（集落営農以外）	164（ 6,849）
畑作	136（ 2,012）
野菜作	93（ 5,854）
果樹作	88（ 2,183）
花き作	51（ 1,116）
酪農	52（ 1,696）
肉用牛	48（ 1,781）
養豚	43（ 1,180）
採卵養鶏	34（ 802）
ブロイラー養鶏	12（ 514）
その他（注３）	25（ 2,464）

（注３）「その他」には、水田作からブロイラー養鶏までの営農類型のいずれにも分類されない営農（芝、軽種馬（競走用仔馬）、養蜂等）の販売金額が最も多い経営体が該当し、この情報は、経営形態別経営統計（法人経営体全体及び農業経営体全体の経営統計）を作成する際にのみ用いる。

（２）報告者の選定方法（□全数　■無作為抽出（□全数階層あり）　□有意抽出）

個人経営体及び水田作（集落営農）以外の法人経営体については、2025年農林業センサスにより集められた情報を、法人経営体の水田作（集落営農）については、令和７年集落営農実態調査により集められた情報を母集団とし、営農類型別及び農業経営体の種類（個人経営体及び法人経営体）ごとに母集団リストを作成した上で、層化無作為抽出により選定する（注４）。

詳細については、**別添２**のとおり。

（注４）次回の母集団情報が更新されるまでは、同一の報告者に対して、継続的に報告を求めることを基本とする。なお、離農などにより報告を求めることができなくなった場合には、代替となる報告者を選定する。

（３）報告義務者

ア　農業経営体を代表する者

イ　農業経営体を代表する者が対応できない場合には、地方農政局等（注５）の職員又は経営統計調査に係る事務を受託した民間事業者（以下「民間事業者」という。）が指定する当該農業経営体の農業経営に関与している者

（注５）「地方農政局等」とは、地方農政局、北海道農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局の農林水産センターをいう。

５　報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

（１）報告を求める事項（詳細は、調査票（別添３－１、３－２）を参照）

ア　経営体の現況に関する事項
イ　損益計算書に関する事項
ウ　事業収支の概要
エ　保有する土地面積の状況
オ　生産概況、農畜産物収入及び農作業受託収入に関する事項
カ　農業に関する共済・補助金等に関する事項
キ　労働に関する事項
ク　貸借対照表に関する事項
ケ　投資と資金調達の状況
コ　役員、雇用者への給与に関する事項（法人経営体のみ）

なお、ク及びケについては、個人経営体のうち青色申告を行っている経営体及び年間 60 日以上自営農業に従事している 65 歳未満の家族がいる経営体並びに法人経営体から報告を求める。

〔集計しない事項の有無〕□無　■有

経営統計調査は、農業経営体の経営の実態について詳細に報告を求めるとともに、調査票への記入に代えて関係資料の開示等についても許容していることから、調査票には、個別に集計・公表しない事項として、報告者の記入漏れを防ぐための該当の有無を確認する事項（経営している土地があるか等）、関係資料の開示等を確認する事項（青色申告決算書（農業所得用）の提供の有無等）及び集計する過程において用いる事項（農業割合）を含む。

（２）基準となる期日又は期間（注６）

ア　個人経営体
　毎年１月１日から12月31日までの１年間
イ　法人経営体
　毎年、決算の対象となった１年間

（注６）本調査計画においては、本項目で示す期間を「調査年」という。ただし、法人経営体については、決算期間の期末月が含まれる年度をもって「調査年」という。

６　報告を求めるために用いる方法

（１）調査系統

ア　経営統計調査のみの報告者
　農林水産省 － 民間事業者 － 報告者
　　└民間調査員┘
　　（注７）

（注７）民間事業者が雇用する調査員をいう。

イ　生産費調査の報告を兼ねる報告者

農林水産省 － 地方農政局等(注８) － 報告者
└ 統計調査員 ┘(注９)

（注８）地方農政局等のうち、内閣府沖縄総合事務局農林水産センターは、内閣府沖縄総合事務局を経由して農林水産省との間における事務を行う。
（注９）農林水産省が任命する調査員をいう。

なお、民間事業者による調査に協力を得られる報告者については、アに記載する調査系統により実施する。

（２）調査方法

■郵送調査　■オンライン調査（■政府統計共同利用システム　■独自のシステム　□電子メール）　■調査員調査　■その他（職員調査）

〔調査方法の概要〕

原則として、報告者が調査票に記入又は電子化した調査票に入力する方法（自計報告）により行う。ただし、経営統計調査のみの報告者であるか、生産費調査の報告を兼ねる報告者であるかの区分に応じて、以下のとおり、報告者の希望により、地方農政局等の職員、統計調査員若しくは民間事業者に対して、決算書類等（報告者が磁気情報として作成しているものを含む。以下同じ。）を開示若しくは提供又は口頭で回答し、これを受けて、地方農政局等の職員、統計調査員又は民間事業者が調査票に記入する方法（他計報告）により行う場合もある。

ア　調査票の配布

（ア）経営統計調査のみの報告者

民間事業者が郵送で配布する。

なお、前年から調査を継続している報告者に対しては、報告を求める事項のうち経営体の現況に関する事項を除き、前年調査の際に得られた調査票情報を本年の調査票にあらかじめ印字し、その内容について更新を求めるものとする。

（イ）生産費調査の報告を兼ねる報告者

地方農政局等の職員又は統計調査員が配布する。

なお、前年から調査を継続している報告者に対しては、報告を求める事項のうち経営体の現況に関する事項を除き、前年調査の際に得られた調査票情報を本年の調査票にあらかじめ印字し、その内容について更新を求めるものとする。

イ　調査票の提出等

（ア）経営統計調査のみの報告者

次のいずれかの方法により行う。

ａ　報告者が郵送により、民間事業者に提出する。

ｂ　民間調査員が、報告者を訪問して回収する。

ｃ　報告者が政府統計共同利用システムにより提出する。

ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システムにより提供し、又は、民間調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。

（イ）生産費調査の報告を兼ねる報告者

次のいずれかの方法により行う。

ａ　報告者が郵送により、地方農政局等に提出する。

ｂ　地方農政局等の職員又は統計調査員が、報告者を訪問して回収する。

ｃ　報告者が政府統計共同利用システムにより提出する。

ｄ　報告者が、その作成した決算書類等を郵送若しくは政府統計共同利用システム若しくは独自のシステム（クラウドサービス事業者が行うセキュアファイル交換サービスを利用し、データ送受信時に暗号化技術を用いるなど情報漏えいを防ぐ措置を施す。）により提供し、又は、地方農政局等の職員若しくは統計調査員が報告者を訪問して当該書類の提供を受ける。

７　報告を求める期間

（１）調査の周期

□１回限り　□毎月　□四半期　■１年　□２年　□３年　□５年　□不定期

□その他（　）

（２）調査の実施期間又は調査票の提出期限

調査票は、毎年、調査年翌年の３月に配布し、提出期限は調査年翌年の４月末までとする。ただし、法人経営体のうち決算期が１月から３月までの経営体の提出期限は調査年翌年の６月末までとする。

８　集計事項

次に掲げる集計を行う（詳細は、**別添４**のとおり。）。

（１）営農類型別経営統計

ア　個人経営体

（ア）水田作経営、（イ）畑作経営、（ウ）野菜作経営、（エ）果樹作経営、
（オ）花き作経営、（カ）酪農経営、（キ）肉用牛経営、（ク）養豚経営、
（ケ）採卵養鶏経営、（コ）ブロイラー養鶏経営

イ　法人経営体

（ア）水田作経営、（イ）水田作経営（集落営農）、（ウ）畑作経営、
（エ）野菜作経営、（オ）果樹作経営、（カ）花き作経営、（キ）酪農経営、
（ク）肉用牛経営、（ケ）養豚経営、（コ）採卵養鶏経営、（サ）ブロイラー養鶏経営

ウ　農業経営体

（ア）水田作経営、（イ）畑作経営、（ウ）野菜作経営、（エ）果樹作経営、
（オ）花き作経営、（カ）酪農経営、（キ）肉用牛経営、（ク）養豚経営、
（ケ）採卵養鶏経営、（コ）ブロイラー養鶏経営

（２）経営形態別経営統計

ア　個人経営体、イ　法人経営体、ウ　農業経営体

９　調査結果の公表の方法及び期日

（１）公表の方法（■e-Stat　□インターネット（e-Stat以外）　□印刷物　□閲覧）

（２）公表の期日

調査結果の概要は結果の集計後速やかに、その詳細は逐次公表する。詳細は、**別添５**のとおり。

10　使用する統計基準等

□使用する　→　□日本標準産業分類　□日本標準職業分類　□その他（　　）

■使用しない

経営統計調査では、販売を目的とする農業経営体を調査対象としているため、調査対象の範囲の画定や集計結果については、日本標準産業分類における分類がないことから、統計基準は使用していない。

11　調査票情報の保存期間及び保存責任者

関係書類名	保存期間	保存責任者
記入済み調査票(注10)	調査結果を公表した日の属する年の翌年の４月１日から起算して３年	＜経営統計調査のみの報告者に係るもの＞ 農林水産省大臣官房統計部長 ＜生産費調査の報告を兼ねる報告者に係るもの＞ 地方農政局等の長
調査票の内容を記録した電磁的記録	永年	農林水産省大臣官房統計部長

（注10）記入済み調査票とは、調査票の記入に代えて提出された決算書類等を含む。

12　立入検査等の対象とすることができる事項

経営統計調査の事務に従事する職員は、正確な報告を確保する特段の必要があるときは、５（１）に掲げる事項について、資料の提出を求め、又は必要な場所の立ち入り、帳簿、書類その他の物件を検査し、若しくは関係者に質問することができる。

調査計画（変更後）

１　調査の名称

農業経営統計調査（注１）

（その２：農畜産物の生産費統計に係る調査（以下「生産費調査」という。））

（注１）農業経営統計調査は、生産費調査及び営農類型別経営統計に係る調査（以下「経営統計調査」という。）の２種類とする。

２　調査の目的

統計法（平成19年法律第53号。以下「法」という。）に基づき、農業経営統計（法第２条第４項に規定する基幹統計）を作成し、農産物の生産費の実態を明らかにするとともに、農業行政の基礎資料を整備することを目的とする。

３　調査対象の範囲

（１）地域的範囲（■全国　□その他）

（２）属性的範囲（□個人　■世帯　□事業所　■企業・法人・団体　□地方公共団体　□その他）

農業経営体のうち､農産物の販売を目的とする経営体(農業経営体の定義については、**別添１**を参照）とし、次の区分とする。

ア　個別経営体

世帯による事業を行う経営体（法人格を有する経営体を含む。）

イ　組織法人経営体

個別経営体以外で法人格を有する農事組合法人及び会社組織による経営体

４　報告を求める個人又は法人その他の団体

（１）報告者数

3,360経営体（母集団の大きさ： 656,131経営体）

（内訳）

○個別経営体	3,082（母集団の大きさ（以下同じ）640,434）
《農産物生産費統計》	
米生産費	720（514,784）
小麦生産費	374（ 22,466）
二条大麦生産費	60（ 6,118）
六条大麦生産費	58（ 1,948）
はだか麦生産費	38（ 846）
そば生産費	127（ 13,262）

大豆生産費	365	(25,266)
原料用かんしょ生産費	57	(1,010)
原料用ばれいしょ生産費	79	(1,543)
なたね生産費	36	(398)
てんさい生産費	61	(5,256)
さとうきび生産費	96	(8,678)

《畜産物生産費統計》

牛乳生産費	350	(8,822)
去勢若齢肥育牛生産費	186	(5,328)
乳用雄肥育牛生産費	48	(465)
交雑種肥育牛生産費	69	(1,144)
子牛生産費	199	(20,848)
乳用雄育成牛生産費	35	(323)
交雑種育成牛生産費	42	(1,073)
肥育豚生産費	82	(856)

○組織法人経営体	278	(15,697)

《農産物生産費統計》

米生産費	98	(9,458)
小麦生産費	82	(2,651)
大豆生産費	98	(3,588)

（２）報告者の選定方法（□全数　■無作為抽出（□全数階層あり）　□有意抽出）

2025年農林業センサスにより集められた情報を母集団とし、品目別及び農業経営体の種類（個別経営体及び組織法人経営体）ごとに母集団リストを作成した上で、層化無作為抽出により選定する(注２)。

詳細については、**別添２**のとおり。

（注２）次回の母集団情報が更新されるまでは、同一の報告者に対して、継続的に報告を求めることを基本とする。なお、離農などにより報告を求めることができなくなった場合には、代替となる報告者を選定する。

（３）報告義務者

ア　農業経営体を代表する者

イ　農業経営体を代表する者が対応できない場合には、地方農政局等(注３)の職員が指定する当該農業経営体の農業経営に関与している者

（注３）「地方農政局等」とは、地方農政局、北海道農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局の農林水産センターをいう。

５　報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

（１）報告を求める事項（詳細は、調査票（別添３－３から３－22まで）を参照）

ア　認定農業者の状況（米生産費（個別経営体）のみ）、直近５か年の10a当たり収量（農産物生産費のみ）、農業就業者数（牛乳生産費のみ）
イ　生産物の販売等の状況又は調査対象畜の取引状況
ウ　調査対象農畜産物の生産に使用した資材等に関する事項
エ　物件税及び公課諸負担に関する事項
オ　土地改良及び水利費に関する事項（農産物生産費のみ）
カ　借入金（買掛未払金を含む。）及び支払利子に関する事項
キ　建物及び構築物（土地改良設備を含む。）の所有状況
ク　自動車（自動二輪・三輪を含む。）の所有状況
ケ　農業機械（生産管理機器を含む。）の所有状況
コ　農具の購入費等に関する事項
サ　搾乳牛等の所有状況（牛乳生産費のみ）
シ　土地の面積及び地代に関する事項
ス　労働に関する事項
セ　乳用牛の月齢別の飼育経費に関する事項（牛乳生産費のみ）

〔集計しない事項の有無〕□無　■有

生産費調査は、各種農畜産物の生産費の実態を明らかにすることを目的として、詳細な報告を求めていることから、調査票には、個別に集計・公表しない事項として、生産費の集計する過程において用いる事項（負担割合等）、回答内容の審査のための事項（作業者等）、報告者の記入漏れを防ぐための該当の有無を確認する事項（自給の有無、物々交換の有無等）等を含む。

（２）基準となる期日又は期間

生産サイクル（収穫終了月までの１年間）(注4)に基づき、農畜産物の品目ごとに、次の期間とする。

農畜産物	期間
米　そば　大豆　原料用かんしょ　原料用ばれいしょ　てんさい　牛乳　去勢若齢肥育牛　乳用雄肥育牛　交雑種肥育牛　子牛　乳用雄育成牛　交雑種育成牛　肥育豚	毎年１月１日から12月31日までの１年間
さとうきび	毎年４月１日から３月31日までの１年間
小麦　二条大麦　六条大麦　はだか麦　なたね	毎年９月１日から８月31日までの１年間

（注４）本調査計画においては、本項目で示す期間を「調査年」という。ただし、２つの暦年にまたがる品目については、集計対象月数の多い年をもって「調査年」とする。

６　報告を求めるために用いる方法

（１）調査系統

農林水産省 ― 地方農政局等(注５) ― 報告者
└ 統計調査員(注６) ┘

（注５）地方農政局等のうち、内閣府沖縄総合事務局農林水産センターは、内閣府沖縄総合事務局を経由して農林水産省との間における事務を行う。
（注６）農林水産省が任命する調査員をいう。

（２）調査方法

■郵送調査　■オンライン調査（□政府統計共同利用システム　■独自のシステム　□電子メール）　■調査員調査　■その他（職員調査）

〔調査方法の概要〕

原則として、報告者が調査票に記入又は電子化した調査票に入力する方法（自計報告）により行う。ただし、報告者の希望により地方農政局等の職員又は統計調査員に決算書類等（報告者が磁気情報として作成しているものを含む。以下同じ。）を開示又は口頭で回答し、これを受けて、地方農政局等の職員又は統計調査員が調査票に記入する方法（他計報告）により行う場合もある。

ア　調査票の配布

地方農政局等の職員又は統計調査員が配布する。

なお、前年から調査を継続している報告者に対しては、報告を求める事項のうち、固定資産の所有状況等について、地方農政局等の職員が前年調査の報告内容をあらかじめ調査票に印字し、その内容について更新を求めるものとする。

また、承諾が得られる報告者に対しては、「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」（平成15年法律第72号）に基づき農林水産省が保有（データベースの管理は（独）家畜改良センターが実施）している牛個体識別台帳（トレーサビリティデータ）を活用し、地方農政局等の職員が牛乳生産費統計調査票における搾乳牛等の所有状況並びに子牛生産費統計調査票、肥育牛（去勢若齢肥育牛、乳用雄肥育牛、交雑種肥育牛）生産費統計調査票及び育成牛（乳用雄育成牛、交雑種育成牛）生産費統計調査票における調査対象畜の取引状況をあらかじめ調査票に印字する。

イ　調査票の提出等

次のいずれかの方法により行う。

（ア）報告者が郵送により、地方農政局等に提出する。
（イ）地方農政局等の職員又は統計調査員が、報告者を訪問して回収する。
（ウ）報告者が電子化した調査票を独自のシステム（民間事業者が行うセキュアファイ

ル交換サービスを利用し、データ送受信時に暗号化技術を用いるなど情報漏えいを防ぐ措置を施す。）により提出する。

7　報告を求める期間

（1）調査の周期

□１回限り　□毎月　□四半期　■１年　□２年　□３年　□５年　□不定期
□その他（　）

（2）調査の実施期間又は調査票の提出期限

調査票は、５（２）に掲げる期間前に配布し、提出期限については、同期間終了月の翌々月末又は報告者が税務署に確定申告した月若しくは総会等により決算報告が行われた月の翌月末までとする。

8　集計事項

次に掲げる集計を行う（詳細は、**別添４**のとおり。）。

（1）農産物生産費統計

ア 個別経営体

（ア）米生産費、（イ）小麦生産費、（ウ）二条大麦生産費、（エ）六条大麦生産費、
（オ）はだか麦生産費、（カ）そば生産費、（キ）大豆生産費、
（ク）原料用かんしょ生産費、（ケ）原料用ばれいしょ生産費、
（コ）なたね生産費、（サ）てんさい生産費、（シ）さとうきび生産費

イ 組織法人経営体

（ア）米生産費、（イ）小麦生産費、（ウ）大豆生産費

（2）畜産物生産費統計（個別経営体）

ア　牛乳生産費、イ　去勢若齢肥育牛生産費、ウ　乳用雄肥育牛生産費、
エ　交雑種肥育牛生産費、オ　子牛生産費、カ　乳用雄育成牛生産費、
キ　交雑種育成牛生産費、ク　肥育豚生産費

9　調査結果の公表の方法及び期日

（1）公表の方法（■e-Stat　□インターネット（e-Stat以外）　□印刷物　□閲覧）

（2）公表の期日

調査結果の概要は結果の集計後速やかに、その詳細は逐次公表する。詳細は、**別添５**のとおり。

10　使用する統計基準等

□使用する　→　□日本標準産業分類　□日本標準職業分類　□その他（　　）

■使用しない

生産費調査では、販売を目的とする農業経営体を調査対象としているため、調査対象の範囲の画定や集計結果については、日本標準産業分類における分類がないことから、統計基準は使用していない。

11　調査票情報の保存期間及び保存責任者

関係書類名	保存期間	保存責任者
記入済み調査票	調査結果を公表した日の属する年の翌年の４月１日から起算して３年	地方農政局等の長
調査票の内容を記録した電磁的記録	永年	農林水産省大臣官房統計部長

12　立入検査等の対象とすることができる事項

生産費調査の事務に従事する職員は、正確な報告を確保する特段の必要があるときは、５（１）に掲げる事項について、資料の提出を求め、又は必要な場所の立ち入り、帳簿、書類その他の物件を検査し、若しくは関係者に質問することができる。

別添１

農業経営体の定義

「農業経営体」とは、次のいずれかに該当するものをいう。

１　その経営耕地面積が30 アール以上であること。

２　農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業の規模が次に定める規模以上であること。

（１）露地野菜作付面積	15 アール
（２）施設野菜栽培面積	350 平方メートル
（３）果樹栽培面積	10 アール
（４）露地花き栽培面積	10 アール
（５）施設花き栽培面積	250 平方メートル
（６）搾乳牛飼養頭数	１頭
（７）肥育牛飼養頭数	１頭
（８）豚飼養頭数	15 頭
（９）採卵鶏飼養羽数	150 羽
(10) ブロイラー年間出荷羽数	1,000羽
(11) その他	調査期間の開始の日前１年間における農業生産物の総販売額が 50 万円に相当する事業の規模

別添２

報告者の選定方法

１　農林水産省大臣官房統計部長（以下「統計部長」という。）は、農業経営統計調査規則（以下「規則」という。）第３条第２項の農業経営体の中から営農類型別の経営に関する統計の調査客体（以下「営農類型調査客体」という。）を抽出するため、別表第１の左欄に掲げる営農類型区分及び同表の中欄に掲げる農業経営体の種類ごとに、同表の右欄に掲げる分類基準により農業経営体を区分してリストを作成し、これを地方農政局、北海道農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局の長（以下「地方農政局等の長」という。）に送付する。

２　地方農政局等の長は、調査の結果が十分な精度を有するよう統計部長が定める基準に従って、統計部長から割り当てられた営農類型調査客体の数を、前項の規定により統計部長から送付されたリストを使用して層化無作為抽出の方法により抽出する。

３　統計部長は、農畜産物の生産費に関する統計の調査客体（以下「生産費調査客体」という。）を抽出するため、別表第２の左欄に掲げる品目及び同表の中欄に掲げる農業経営体の種類ごとに、同表の右欄に掲げる分類基準により農業経営体を区分してリストを作成し、これを地方農政局等の長に送付する。

４　地方農政局等の長は、生産費調査客体を抽出するため、調査の結果が十分な精度を有するよう統計部長が定める基準に従って、統計部長から割り当てられた生産費調査客体の数を、前項で統計部長から送付されたリストを使用して層化無作為抽出の方法により抽出する。

５　なお、農業経営体を区分したリストから標本抽出できない場合には、行政記録情報（農事組合法人名簿等）を基に調査対象を選定する。

※　２、４の結果、同一の農業経営体が営農類型調査客体と生産費調査客体として抽出された場合、両調査の調査対象として選定することも可能。

別表第１

営農類型区分		農業経営体の種類	分類基準
水田作経営		個人経営体 法人経営体	稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、水田で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
畑作経営			稲、麦類、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物の販売収入のうち、畑で作付した農業生産物の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
野菜作経営	露地野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入が施設野菜の販売収入以上である経営
	施設野菜作経営		野菜の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地野菜の販売収入より施設野菜の販売収入が多い経営
果樹作経営			果樹の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
花き作経営（注）	露地花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入が施設花きの販売収入以上である経営
	施設花き作経営		花きの販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、露地花きの販売収入より施設花きの販売収入が多い経営
酪農経営			酪農の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
肉用牛経営	繁殖牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数が肥育牛の飼養頭数以上である経営
	肥育牛経営		肉用牛の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営のうち、繁殖用雌牛の飼養頭数より肥育牛の飼養頭数が多い経営
養豚経営			養豚の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
採卵養鶏経営			採卵養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
ブロイラー養鶏経営			ブロイラー養鶏の販売収入が他の営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営
その他経営			水田作経営、畑作経営、野菜作経営、果樹作経営、花き作経営、酪農経営、肉用牛経営、養豚経営、採卵養鶏経営、ブロイラー養鶏経営以外の経営

（注）法人経営体の花き作経営については、露地・施設別の販売収入の多寡による区分は実施せず、花き作経営として区分する。

別表第２

品目	農業経営体の種類	分類基準
米	個別経営体	水稲を作付けし、玄米を年間６００キログラム以上販売する経営
	組織法人経営体	水稲を作付けし、販売する経営
小麦	個別経営体	小麦を１０アール以上作付けし、販売する経営
	組織法人経営体	小麦を作付けし、販売する経営
二条大麦	個別経営体	対象作目を１０アール以上作付けし、販売する経営
六条大麦		
はだか麦		
そば		
大豆	個別経営体	大豆（黒大豆を除く）を１０アール以上作付けし、販売する経営
	組織法人経営体	大豆（黒大豆を除く）を作付けし、販売する経営
原料用かんしょ	個別経営体	対象作目を１０アール以上作付けし、販売する経営
原料用ばれいしょ		
なたね		
てんさい		
さとうきび		
牛乳		搾乳牛を１頭以上飼養し、生乳を販売する経営
去勢若齢肥育牛		肥育を目的とする去勢若齢和牛を１頭以上飼養し、販売する経営
乳用雄肥育牛		肥育を目的とする乳用雄牛を１頭以上飼養し、販売する経営
交雑種肥育牛		肥育を目的とする交雑種牛を１頭以上飼養し、販売する経営
子牛		肉用種の繁殖雌牛を２頭以上飼養し、子牛を生産して販売する経営
乳用雄育成牛		育成を目的とする乳用雄育成牛を５頭以上飼養し、販売する経営
交雑種育成牛		育成を目的とする交雑種牛を５頭以上飼養し、販売する経営
肥育豚		肥育豚を年間 20 頭以上販売し、肥育用もと豚に占める自家生産子豚の割合が７割以上の経営

別記様式第１号

秘
農 林 水 産 省

統計法に基づく基幹統計
農 業 経 営 統 計

別添３－１

政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

農業経営統計調査

○　年 営農類型別経営統計調査票

（個人経営体用）

営農類型		番号	

☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。

☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。
　　統計作成以外の目的に使うことはありません。

【記入上の留意事項】

１．○年１月１日～○年12月31日の１年間について記入してください。

２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。

３．調査項目欄には、右づめで記入してください。

４．**黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用**し、間違えた場合は消しゴムで消してください。

５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。

６．本調査に必要な資料

　設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。

　○青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）、確定申告書

○年○月○日までに提出をお願いします。

ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。

【通信欄】　１年の中で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。

70

【はじめに】

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。

本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。

○　損益計算書に係る記入欄は、青色申告決算書（農業所得用）の科目と同じ配列となっているため、他の様式から転記する場合は、記入欄の配列が異なりますので、該当する科目の記入欄へ転記してください。

○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。

1　調査票の構成

区　　分	説　　明	回答対象者	ページ
【1】現況	農業従事者の状況や青色申告の申請状況、経営耕地面積など	**全ての方にお答えいただく項目です**	3
【2】損益計算書	農業の収入や支出の状況		4、5
【3】事業収支の概要	農業以外も含めた全ての事業収支の状況		5
【4】貸借対照表	資産や負債の状況	**青色申告を行っている方又は、年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方にお答えいただく項目です**	6、7
【5】投資と資金調達の状況	農業に係る投資や資金調達の状況		8
【6】労働の概要	作業に従事した人数や労働時間に係る状況	**全ての方にお答えいただく項目です**	8、9
【7】生産概況、農畜産物収入	農畜産物の生産概況と販売収入の状況		10～15
【8】農作業受託収入	農作業受託収入の状況		16
【9】農業に関する共済・補助金等	農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金に係る状況		16、17

2　「【4】貸借対照表」の転記に際しての留意点

「【4】貸借対照表」（6頁）は、青色申告決算書の勘定科目から転記可能な様式となっています。

一方で、青色申告であっても、貸借対照表の作成義務のない簡易簿記や現金式簡易簿記の場合、又は収支内訳書（白色申告）の場合には、資産や負債に該当する勘定科目を7頁に記入してください。

【１】現況（全ての方にお答えいただく項目です。）

１－１　現況についてお伺いします。

区分		前年		本年	
①	経営主の年齢を記入してください。（令和〇年12月31日時点）	歳		歳	
②	認定農業者がいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
③	経営主を含む家族のうち、年間60日(480時間)以上自営農業に従事している65歳未満の方がいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
④	世帯としての所得は、自営農業と自営農業以外の所得（年金等は含みません）のどちらが多いですか。	自営農業	自営農業以外	自営農業	自営農業以外
⑤	青色申告決算書（農業所得用）を利用していますか。	はい	いいえ	はい	いいえ

（注）
③の自営農業に従事した日数については、自営農業労働時間８時間を１日として換算してください。

１－２　期末（12月31日）時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田、畑、樹園地、牧草地及び採草放牧地がありますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年欄に記入してください。
いいえ → ４頁の【２】へお進みください。

土地の状況を記入してください。貸している面積は含みません。

区　分	前　年		本　年	
	経営面積	うち借入地	経営面積	うち借入地
	a	a	ha a	ha a
田				
畑（樹園地、牧草地を除く）				
樹園地（茶の植栽面積を含む）				
牧草地				
採草放牧地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

【２】損益計算書（全ての方にお答えいただく項目です。）

農業の収入、経費などについてお伺いします。

青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → ２－３へお進みください。

いいえ → 本年欄に記入してください。

２－１　青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。

科目		青色申告決算書No	収支内訳書No	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
収入	販売金額	①	①		
	家事消費金額・事業消費金額	②	②		
	雑収入	③	③		
	小計	④	④		
	農産物の棚卸高 期首	⑤	⑤		
	農産物の棚卸高 期末	⑥	⑥		
	収入計	⑦	⑦		
経費	租税公課	⑧	イ		
	種苗費	⑨	ロ		
	素畜費	⑩	ハ		
	肥料費	⑪	ニ		
	飼料費（注）	⑫	ホ		
	農具費	⑬	ヘ		
	農薬費・衛生費	⑭	ト		
	諸材料費	⑮	チ		
	修繕費	⑯	リ		
	動力光熱費	⑰	ヌ		
	作業用衣料費	⑱	ル		
	農業共済掛金	⑲	ヲ		
	減価償却費	⑳	ワ		
	荷造運賃手数料	㉑	カ		
	雇人費	㉒	ヨ		
	利子割引料	㉓	タ		
	地代・賃借料	㉔	レ		
	土地改良費	㉕	ソ		
		㉖	ツ		
		㉗	ネ		
		㉘	ナ		
		㉙	ラ		
	雑費	㉚	ム		
	小計	㉛	ー		
	農産物以外の棚卸高 期首	㉜	ウ		
	農産物以外の棚卸高 期末	㉝	ノ		
経費から差し引く果樹・牛馬等の育成費用		㉞	オ		
計		㉟	ク		

（注）飼料費の計上がある場合は、２－３も必ず回答してください。

（任意科目欄）
※科目が一致しない場合、決算書に記載の科目名を記入いただき、金額を記入してください。

73

２－２　専従者給与について、青色申告決算書（農業所得用）、収支内訳書（農業所得用）を参照して金額を記入してください。

科　目	青色申告決算書No	収支内訳書No	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
専　従　者　給　与	㊶	⑯		

２－３　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年金額欄に控除した補てん金額を記入してください。
いいえ → 【３】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円） 億 万 千 百 十 一

【３】事業収支の概要（全ての方にお答えいただく項目です。）

事業収入や山林収入等についてお伺いします。

確定申告書第一表、第三表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → ６頁の【４】へお進みください。
いいえ → ３－１、３－２の本年欄に記入してください。

３－１　事業収入、事業所得についてお伺いします。
申告書第一表を参照して、次の科目の金額を記入してください。

科目			申告書記号	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
収入金額	事業	営業等	㋐		
		農業	㋑		
	不動産		㋒		
所得金額	事業	営業等	①		
		農業	②		
	不動産		③		

３－２　１年間のうち、山林の所得がある場合には、申告書第三表（分離課税用）を参照して、次の科目の金額を記入してください。

科　目	申告書記号	前年 金額（円）	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一
収　入　金　額　（　山　林　）	㋓		
所　得　金　額　（　山　林　）	⑯		

【４】貸借対照表（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、貸借対照表の期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【１】の１－１⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【１】の１－１③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

４－１　貸借対照表を作成していますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→ ４－２へお進みください。
いいえ　→ ７頁の４－５、４－６へお進みください。

４－２　貸借対照表の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい　→ ４－４負債・資本の借入金の短期・長期の内訳をご記入の上、８頁の【５】へお進みください。
いいえ　→ ４－３、４－４の本年欄に記入してください。

４－３　資産

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
現金		
普通預金		
定期預金		
その他預金		
売掛金		
未収金		
有価証券		
農産物等		
未収穫農産物等		
未成熟の果樹育成中の牛馬等		
肥料その他の貯蔵品		
前払金		
貸付金		
建物・構築物		
農機具等		
果樹・牛馬等		
土地		
土地改良事業受益者負担金		
（任意科目欄）※		
事業主貸		
合計		

４－４　負債・資本

科目	前年 期末(12月31日)(円)	本年 期末(12月31日)(円) 億 万 千 百 十 一
買掛金		
借入金 短期借入金		
借入金 長期借入金		
未払金		
前受金		
預り金		
（任意科目欄）※		
貸倒引当金		
（任意科目欄）※		
事業主借		
元入金		
青色申告特別控除前の所得金額		
合計		

※ 任意科目欄：科目が一致しない場合、科目名を記入いただき金額を記入してください。

８頁の【５】へお進みください。

75

貸借対照表を作成していない方にお伺いします。
期末（12月31日）時点の各科目の金額を記入してください。

４－５　資産に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
現金		農業経営の現金		
預貯金等		農業経営の普通預金、定期預金、積立金、農業経営所有の有価証券、前払金、貸付金		
売掛未収入金		売掛金、未収金		
建物・構築物		農業経営用建物・構築物等の未償却残高		
農機具等		農業用機械等の未償却残高		
果樹・牛馬等		果樹と牛馬の未償却残高		
土地	土地（貸付地以外）	農業経営用の農地等の固定資産評価額（土地改良事業受益者負担を含む）		
土地	貸付地	貸付地の固定資産評価額		

４－６　負債に該当する勘定科目

科目		説明	前年 期末(12月31日)（円）	本年 期末(12月31日)（円） 億 万 千 百 十 一
流動負債		買掛金、短期借入金、未払金、前受金、預り金		
	うち買掛金	原材料等の購入代金の未払金		
	うち短期借入金	経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年以内に到来する借入金		
長期借入金		経営のために銀行やJAなどからの借入金のうち返済期限が１年を超える借入金		

【５】投資と資金調達の状況（該当する方のみお答えいただく項目です。）

次のいずれかに該当する方は、１年間の設備投資や借入れについて、記入してください。
・**青色申告決算書（農業所得用）を利用している方**（【１】の１－１⑤が「はい」の方）
・**年間60日以上自営農業に従事している65歳未満の家族がいる方**（【１】の１－１③が「はい」の方）
（青色申告決算書（農業所得用）を利用していない方を含みます。）

事業経営のため、１年間に設備投資や借入れがありましたか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 本年欄に記入してください。
いいえ → 【６】へお進みください。

５－１　事業経営のため１年間に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年		本　年	
		金　額（円）	農業割合 %	金　額（円）億 万 千 百 十 一	農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く）				
土　地	土地の購入金額				

５－２　事業経営のため１年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、記入した金額のうち農業の占める割合（農業生産関連事業などの他の事業を除いた割合）を記入してください。

区　分	説　明	前　年		本　年	
		金　額（円）	農業割合 %	金　額（円）億 万 千 百 十 一	農業割合 %
短期借入金	返済期限が１年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が１年を超える借入金				

【６】労働の概要（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に事業に従事した家族、雇用者の人数、農業労働時間についてお伺いします。

以下の設問にある従事者数及び農業労働時間を整理した資料がある場合、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に○を記入してください。

はい → 10頁の【７】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

６－１　事業（農業、農業生産関連事業、林業、不動産業、その他の事業）に従事した人数を記入してください。

区　分	前　年 事業に従事した人数（人）	本　年 事業に従事した人数（人）
家族（経営主含む）		
常用雇用者		

【６－１から６－３までの家族、雇用の区分は次のとおりです】
・**家族**：生計を一にする経営主を含む家族のうち、15歳以上の方を記入してください。なお、生計を別にする家族については、常用雇用者又は臨時雇用者として記入してください。
・**常用雇用者**：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**臨時雇用者**：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※１　常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
　２　酪農ヘルパーなどの派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

77

６－２　農業に従事した家族の性別、年齢及び１年間の農業労働時間について、一人ずつ記入してください。

区　分	前　年				本　年			
	性別		年齢	年間の農業労働時間（時間）	性別		年齢	年間の農業労働時間（時間）
経　営　主	男	女			男	女		
家　族　①	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　②	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　③	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　④	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　⑤	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　⑥	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　⑦	男	女	歳		男	女	歳	
家　族　⑧	男	女	歳		男	女	歳	

・農業には、世帯として請け負った農作業を含みます。

・年間の農業労働時間は、整理した資料又は以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例）平均労働時間が１日８時間、年間300日働いている場合、８×300＝2,400となるため、「2,400」と記入してください。

６－３　農業に従事した雇用者の人数、農業労働時間をそれぞれ記入してください。

（１）常用雇用者の人数を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年				本　年			
		男性（人）	65歳未満（人）	女性（人）	65歳未満（人）	男性（人）	65歳未満（人）	女性（人）	65歳未満（人）
常用雇用者	合　計								
	うち７か月以上の雇用者								

（２）常用雇用者の１年間の農業労働時間を区分ごとに記入してください。

区　分		前　年	本　年
		年間の農業労働時間（時間）	年間の農業労働時間（時間）
常用雇用者	合　計		
	うち７か月以上の雇用者		

・**農業労働時間**：整理した資料又は以下の方法などにより算出した値を記入してください。
（例１）「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出
（例２）「雇用者に支払った賃金総額（損益計算書の雇人費のうち農業分）」÷「時間（日）当たり単価」により算出

（３）臨時雇用者の農業に従事した人数及び１年間の農業労働時間をそれぞれ記入してください。

区　分		前　年	本　年
臨時雇用者	農業に従事した人数（人）		
	年間の農業労働時間（時間）		

６－４　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区　分	前年	本年
	人数（人）	人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

【7】生産概況、農畜産物収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

１年間に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、生産量、販売金額についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物を含めてください。
また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

７－１　稲、麦類等

区分			作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年			
				作付延べ面積（茶は植栽面積）		生産量（kg）	販売金額（円）
				田（a）	畑（a）		
稲	食用	水稲	主食用、加工用、酒造用、米粉用、輸出用、備蓄用				
		陸稲					
	飼料用米		自給用を含む				
	WCS用稲		稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む）				
稲わら・ぬか等			稲わら・もみがら・ぬかを販売したもの				
麦類	小麦						
	二条大麦						
	六条大麦						
	はだか麦						
	その他の麦		ライ麦など				
豆類	大豆		乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外		小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば		そば殻を含む				
	他の雑穀		とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ		種いも用、原料用かんしょを含む				
	ばれいしょ		種いも用、原料用ばれいしょを含む				
工芸農作物	てんさい						
	さとうきび						
	茶		作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物		なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物		牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む）				
	その他の作物		芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 16頁の【８】へお進みください。

いいえ → 本年欄に記入してください。

・かんしょへのでん粉原料用いも交付金、さとうきびへの甘味資源作物交付金は、販売金額に含めてください。

７－１　稲、麦類等

区分			本年			
			作付延べ面積（茶は植栽面積）		生産量（kg）	販売金額（円）
			田（a）	畑(普通畑)（a）		
			ha a	ha a		億 万 千 百 十 一
稲	食用	水稲				
		陸稲				
	飼料用米					
	WCS用稲					
稲わら・ぬか等						
麦類	小麦					
	二条大麦					
	六条大麦					
	はだか麦					
	その他の麦					
豆類	大豆					
	大豆以外					
雑穀	そば					
	他の雑穀					
いも類	かんしょ					
	ばれいしょ					
工芸農作物	てんさい					
	さとうきび					
	茶					
	その他工芸農作物					
その他	飼料用作物					
	その他の作物					

7－2　野菜

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果　樹					
	その他の果樹				

７－２　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a） ha　a	施設（m^2） m^2	億　万　千　百　十　一
露地野菜					
		その他の露地野菜			
施設野菜					
		その他の施設野菜			

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード										
01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト	14	ブロッコリー
03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

７－３　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区　分	本　年				
	品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください）		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a） ha　a	施設（m^2） m^2	億　万　千　百　十　一
果樹					
		その他の果樹			

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード										
51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

【7】生産概況、農畜産物収入（つづき）

7－4　花き

区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年		
		作付延べ面積		販売金額（円）
		露地（a）	施設（m^2）	
露地花き	露地で生産する鉢植えの花木を含む			
施設花き	施設で生産する鉢植えの花木を含む			

7－5　畜産物

区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前年		
					飼養頭羽数、生産量	販売頭羽数	販売金額（円）
酪農	生乳（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
	搾乳牛		搾乳牛(乾乳中の牛を含む)の**月平均飼養頭数**		頭		
	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（F1、ETを含む）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
		自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・F1クロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
		乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
		交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
	子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
採卵養鶏	採卵鶏		採卵鶏(うずらを除く)の**月平均飼養羽数**		羽		
	鶏卵（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）、廃鶏	kg		
ブロイラー			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蚕、養蜂等			

7－4　花き

区　分	本年 作付延べ面積 露地（a） ha	a	施設（m^2） ㎡	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
露地花き										
施設花き										

7－5　畜産物

・**生乳**への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、販売金額に含めてください。

区　分			本年 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間） 万	千	百	十	一	（単位）	販売頭羽数（年間） 万	千	百	十	一	（単位）	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
酪農	生乳（年間）							kg												
	搾乳牛							頭（月平均）												
	自家生産乳牛等													頭						
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛						頭（月平均）												
		自家生産和牛等												頭						
	肥育牛	肉専用種						頭（月平均）						頭						
		乳用種						頭（月平均）						頭						
		交雑種						頭（月平均）						頭						
養豚	繁殖雌豚							頭（月平均）												
	肥育豚							頭（月平均）												
	肉豚													頭						
	子豚													頭						
採卵養鶏	採卵鶏							羽（月平均）												
	鶏卵（年間）							kg												
ブロイラー														羽						
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）																			
	その他																			

【８】農作業受託収入（全ての方にお答えいただく項目です。）

農作業受託についてお伺いします。

１年間に農作業受託収入がありましたか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年金額欄に記入してください。

いいえ → 【９】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

【９】農業に関する共済・補助金等（全ての方にお答えいただく項目です。）

農業に関する共済・補助金等についてお伺いします。

１年間に農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金等はありましたか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 次の設問へお進みください。

いいえ → 調査は終了になります。

名称等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 受取金（円）	前年 金額 積立金等（円）
農業保険	農業共済				
	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合　計					

➡ 以下の設問にある受取金・積立金等を整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。

いいえ →① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けてください。
② 受け取った金額を「受取金」欄に、拠出した金額を「積立金等」欄に記入してください。
なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等」及び「合計」欄を記入してください。

名　　称　　等		本　年			
		チェック		金　額	
		受取	積立	受取金（円）	積立金等（円）
				億 万 千 百 十 一	億 万 千 百 十 一
農業保険	農業共済				
	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合　計					

・**かんしょ**へのでん粉原料用いも交付金、**さとうきび**への甘味資源作物交付金並びに**生乳**への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、受取金には含めず、「【7】生産概況、農畜産物収入」の該当農畜産物の「販売金額」に含めてください。

・大口奨励金など、購入や販売を促すために支払われるものは含めないでください。

調査は以上です。ご協力、ありがとうございました。

別記様式第２号

秘
農 林 水 産 省

統計法に基づく基幹統計
農 業 経 営 統 計

別添３－２

農業経営統計調査

○　年　営農類型別経営統計調査票

（法人経営体用）

政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

営農類型		番号	

☆　この調査は、統計法に基づく基幹統計調査です。

☆　この調査により報告された記入内容は、統計法により秘密が保護されます。
　　統計作成以外の目的に使うことはありません。

【記入上の留意事項】

１．○年４月１日～○年３月31日の間に到来した決算日の対象となる１年間について記入してください。
２．記入に当たっては、同封の「調査票の記入の仕方」を参照してください。
３．調査項目欄には、右づめで記入してください。
４．**黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用**し、間違えた場合は消しゴムで消してください。
５．オンラインを利用される方は、同封の「オンライン利用の手引き」を参照してください。
６．本調査に必要な資料
　設問に回答する際は、お手元に次の資料をご用意ください。
　　○ 貸借対照表
　　○ 損益計算書
　　○ 事業経費の内訳がわかる書類
　　（製造原価報告書や販売費及び一般管理費内訳書など）
　　○ 労働時間や給与支給額がわかる書類
　　○ 生産状況・販売金額の内訳がわかる書類

○年○月○日までに提出をお願いします。
（決算月が１月～３月の場合は○月○日までに提出をお願いします。）

ご不明な点がございましたら、次の問合せ先までご照会ください。

【通信欄】
決算期間の１年間で、農畜産物の生産や販売で特徴的なできごとがあれば、記入してください。

【はじめに】

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。

本調査票への記入に際しては、次の点に留意してください。

○　貸借対照表や事業経費（製造原価、販売費及び一般管理費）に係る勘定科目の記入欄は、貴法人が採用する勘定科目と異なる場合があります。

○　営農の状況により、記入する欄が異なる場合があります。

1　調査票の構成

区　　分	説　　明	ページ
【1】現況	認定農業者の有無、決算期、 経営する土地面積等の状況について記入してください。	3
【2】貸借対照表	資産や負債の状況について記入してください。	4
【3】投資と資金の調達	農業に係る投資や資金調達の状況について記入してください。	5
【4】労働の概要、給与の状況	事業に従事した人数や労働時間、 役員、雇用者への給与の状況について記入してください。	6、7
【5】損益計算書	農業以外も含めた全ての事業収支の状況について 記入してください。	8
【6】農業に係る事業経費	農業に係る経費の状況について記入してください。	9～11
【7】生産概況、農畜産物収入	農畜産物の生産概況と販売収入について記入してください。	12～17
【8】農作業受託収入、事業消費など	農作業受託収入、事業消費に仕向けた農畜産物の金額について記入してください。	18
【9】農業に関する共済・補助金等	農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金に係る状況について記入してください。	18、19

2　「【6】農業に係る事業経費」の記入に際しての留意点

（1）　「当期製品製造原価」と「販売費及び一般管理費」の内訳である「事業経費」については、法人ごとに会計処理が異なるため、貴法人に該当する項目（【6】農業に係る事業経費（6－1－1又は6－2－1）（9頁又は10頁））を選択し記入してください。

（2）　「事業経費」の勘定科目は、日本農業法人協会が定める「農業の会計に関する指針」（平成26年5月制定）及びその参考資料の「農業法人標準勘定科目」を基準に設定しています。このため、調査項目に採用している勘定科目と貴法人の勘定科目の名称に相違がある場合には、調査項目に採用している勘定科目の説明欄を参照し科目ごとに記入してください。

【１】現況

１－１　経営する法人の形態等についてお伺いします。

	区分	前年		本年	
①	家族による経営ですか。	はい	いいえ	はい	いいえ
②	貴法人は認定農業者ですか。 又は、認定農業者はいますか。	はい	いいえ	はい	いいえ
③	決算期間の期末月を 記入してください。	月		月	
④	決算日時点の経営主の年齢を 記入してください。	歳		歳	
⑤	農業以外の事業を 行っていますか。	はい	いいえ	はい	いいえ

・**農業以外の事業**とは、農業生産関連事業（農産加工、観光農園、貸し農園、農家民宿、農家レストラン）、林業、米穀集荷販売業、不動産経営などをいいます。

	区分	前年		本年	
⑥	集落営農ですか。	はい	いいえ	はい	いいえ

・**集落営農**とは、集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいいます。

１－２　決算期末時点の土地の状況についてお伺いします。

経営している田、畑、樹園地、牧草地及び採草放牧地がありますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 本年欄に記入してください。

いいえ → ４頁の【２】へお進みください。

区分は現状の地目で記入してください。また、貸している面積は含みません。
なお、集落営農の場合は、構成員持ち寄りの耕地は借入地に含めてください。

区　分	前　年		本　年	
	経営面積 a	うち借入地 a	経営面積 ha a	うち借入地 ha a
田				
畑 （樹園地、牧草地を除く）				
樹　園　地 （茶の植栽面積を含む）				
牧　草　地				
採　草　放　牧　地				

・**牧草地**とは、専ら牧草の栽培を行う耕地をいいます。
・**採草放牧地**とは、自生する野草を飼料用や肥料用に採草したり、放牧に利用する土地をいいます。

【２】貸借対照表

資産、負債の状況について、貸借対照表を参照して、期末の金額を記入してください。
また、農業以外の事業も経営している場合は、農業の占める割合を必ず記入（有形固定資産の内訳及び負債計のみ）してください。

「貸借対照表」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、５頁の【３】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

２－１　資産の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
資産計	資産の合計				
流動資産	流動資産の合計				
うち 現金・預貯金	現金、当座預金、普通預金、定期預金				
売掛金・未収入金	通常取引による営業上の未収入金				
棚卸資産	農産物、半製品、仕掛品、貯蔵品、資材				
うち 農産物	農産物				
固定資産	固定資産の計				
有形固定資産	有形固定資産の計				
うち 動物・植物	乳牛、繁殖牛、繁殖豚、果樹、茶、桑　等				
自動車・農機具	車両運搬具、トラクター、乾燥機、機械装置、籾すり機　等				
建物・構築物	建物、施設、畜舎、建物付属設備　等				
土地	農地、付属施設　等				
減価償却累計額	間接法による場合の減価償却費の累計額				
無形固定資産	電話加入権、地上権、借地権				
投資・その他の資産	農協出資金、長期貸付金、投資証券、補償金				
繰延資産	創立費、開業費				

２－２　負債の部

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
負債計	負債の合計				
流動負債	流動負債の合計				
うち 買掛金・未払金	原材料等の購入代金等の未払金の合計				
短期借入金	返済期限が１年以内の借入金				
固定負債	固定負債の合計				
うち 長期借入金	返済期限が１年を超える借入金				

５頁の【３】へお進みください。

【３】投資と資金の調達

３－１　直近決算期における設備投資の状況についてお伺いします。

１年間に、建物・構築物、自動車・農機具、事業用の動物・植物、土地への投資を行いましたか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい	→	本年欄に記入してください。
いいえ	→	３－２へお進みください。

事業経営のため１年間（決算期間）に設備投資したそれぞれの資産について、取得額の合計を記入してください。また、農業以外の事業も経営している場合は、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。

勘定科目	説明	前年		本年	
		金額（円）	農業割合 %	金額（円） 億 万 千 百 十 一	農業割合 %
建物・構築物	建物・構築物の購入金額				
農機具等	自動車・農機具の購入金額				
果樹・牛馬等	植物・牛馬の購入金額（肥育牛及び中小動物を除く）				
土地	土地の購入金額				

３－２　直近決算期の資金調達の状況についてお伺いします。

１年間に、事業のための資金調達を行いましたか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい	→	本年欄に記入してください。
いいえ	→	６頁の【４】へお進みください。

１年間に借り入れた金額の合計を短期・長期別に記入してください。
また、農業以外の事業も経営している場合は、記入した金額のうち農業の占める割合を必ず記入してください。

勘定科目	説明	前年		本年	
		金額（円）	農業割合 %	金額（円） 億 万 千 百 十 一	農業割合 %
短期借入金	返済期限が１年以内の借入金				
長期借入金	返済期限が１年を超える借入金				

【４】労働の概要、給与の状況

雇用形態別の従事者数、農業労働時間等についてお伺いします。
なお、「うち農業」には、農畜産物の生産に加え、販売・一般管理に従事した人数及び労働時間を含めて記入してください。

以下の設問にある従事者数、農業労働時間、性別、支給した給与を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → ８頁の【５】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

４－１　男性の従事者数：１年間の男性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 男性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 うち農業 65歳未満（人）	本年 男性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 うち農業 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち７か月以上						

４－２　女性の従事者数：１年間の女性の従事者数について、雇用形態別に実人数で記入してください。
また、そのうち農業に従事した方の人数をそれぞれ記入してください。

区分		前年 女性の全従事者数（人）	前年 うち農業（人）	前年 うち農業 65歳未満（人）	本年 女性の全従事者数（人）	本年 うち農業（人）	本年 うち農業 65歳未満（人）
有給役員							
常用雇用者	正社員・正職員						
	その他						
	うち７か月以上						

４－３　臨時雇用者数：１年間の臨時雇用者数（男女計）について、実人数で記入してください。

区分	前年 従事者数（人）	前年 うち農業（人）	本年 従事者数（人）	本年 うち農業（人）
臨時雇用者				

４－４　研修生の受け入れがあった場合、研修生の人数をそれぞれ記入してください。

区分	前年 人数（人）	本年 人数（人）
外国人技能実習生		
日本人研修生		

・**外国人技能実習生**は、外国人技能実習制度に基づき雇用した実習生の人数（実人数）を記入してください。
・**日本人研修生**は、雇用の有無にかかわらず受け入れた研修生（実人数）を記入してください。

４－５　労働時間：１年間の労働時間の合計を雇用形態別に記入してください。
また、農業には、貴法人が請け負った農作業も含みます。

区分		前年		本年	
		年間の事業労働時間（時間）	うち農業（時間）	年間の事業労働時間（時間）	うち農業（時間）
有給役員					
常用雇用者	正社員・正職員				
	その他				
	うち7か月以上				
臨時雇用者					

・労働時間の合計の記入は、整理した資料若しくは以下の方法などにより算出した値を記入してください。
「１人当たりの１日平均労働時間」×「１人当たりの年間の平均従事日数」×「人数」により算出した値を記入してください。

＜例＞
正社員５人の平均労働時間が、1日８時間、年間300日働いている場合、８×300×５＝12,000となるため、「12,000」を記入してください。

４－６　１年間に支給した給与（農業以外の事業に従事した従事者を含みます。）支給総額を雇用形態別に記入してください。
なお、従事分量配当として事業従事者に支払った場合は給与に含めます。

区分		前年	本年								
		給与支給総額（円）	給与支給総額（円）								
			億			万	千	百	十	一	
有給役員							0	0	0	0	
常用雇用者	正社員・正職員						0	0	0	0	
	その他						0	0	0	0	
臨時雇用者							0	0	0	0	

＜留意点＞
・退職金、法定福利費及び福利厚生費は支給総額に含めないでください。
・支給総額は千の位を四捨五入して、記入してください。

【雇用形態の区分】
○有給役員：法人の取締役、理事などで役員報酬を得ている者をいいます。
○常用雇用者：期間を定めずに雇用している者又は１か月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。
・**正社員・正職員**：常用雇用者のうち貴法人で正社員・正職員として処遇している者をいいます。
・**その他**：常用雇用者のうち正社員・正職員以外の者（１か月以上雇用したパート、アルバイト等）をいいます。
○臨時雇用者：１か月未満の期間を定めて雇用している者又は日々雇用している者をいいます。
※常用雇用者及び臨時雇用者には、外国人技能実習生及び日本人研修生を含みます。
酪農ヘルパー等の派遣労働に係る労働者及びその労働時間は含みません。

【５】損益計算書

事業全体の売上高や経費等についてお伺いします。

５－１　損益計算書：事業全体の売上高、経費等について記入してください。

「損益計算書」の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい　→　農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、５－２へお進みください。

いいえ　→　本年欄に記入してください。

勘定科目		前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
営業収支（売上高、売上原価等）	売上高				
	売上原価（①＋②＋③＋④－⑤）				
	期首商品棚卸高 ①				
	当期商品仕入高 ②				
	当期製品製造原価 ③				
	生物売却原価 ④				
	期末商品棚卸高 ⑤				
	販売費及び一般管理費				
営業外収支	営業外収益				
	営業外費用				
	支払利子・割引料				
特別損益等	特別利益				
	特別損失				
	当期純利益				

５－２　「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳である事業経費についてお伺いします。

「当期製品製造原価」「販売費及び一般管理費」の内訳の整理方法について当てはまる方へお進みください。

①まとめて整理している
（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合）

９頁へお進みください。

②別々に整理している
（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合）

10頁へお進みください。

【６】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費）

①　製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれかのみ作成している場合

６－１－１　事業経費についてお伺いします。

事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書のいずれか）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい　→　農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、「飼料費」がある場合は６－１－２へ、「飼料費」がない場合は、12頁の【７】へお進みください。

いいえ　→　本年欄に記入の上、「飼料費」がある場合は６－１－２へ、「飼料費」がない場合は、12頁の【７】へお進みください。

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
合計	【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」＋「販売費及び一般管理費」の合計額				
期首材料棚卸高	原材料の期首在り高				
期首仕掛品棚卸高	仕掛品の期首在り高				
種苗費	種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費				
素畜費	預託費、種付費、もと畜の購入費用、登録料				
肥料費	肥料の購入費用				
飼料費	飼料の購入費用、自給飼料の振替額				
農薬費・衛生費	農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費				
水道料・動力光熱費	生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費				
諸材料費	敷料、諸材料費、消耗品費、事務用消耗品費				
労務費・人件費	賃金手当、給与手当、雑給、賞与、役員報酬、福利厚生費等				
うち作業用衣料費	労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費				
農作業等委託費	賃耕料、刈取料などの農作業委託料				
診療衛生費	獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費				
外注費	酪農や肥育牛などのヘルパー利用料、ほ場管理費等				
農具・機械車両費等	農機具、農業用車両の購入費				
修繕費・修繕用部品費	建物、農機具、農機具車両等の維持、修繕費				
共済掛金・保険料	作物や農用施設の共済掛金、支払保険料、事務費等				
減価償却費	農業生産に使用した建物、農機具、自動車等の減価償却費				
地代・家賃・賃借料	地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費				
土地改良費	土地改良負担金・土地改良賦課金、水利費				
租税公課・諸会費等	租税公課、諸会費、諸負担金、消費税、印紙税、共済賦課金、自賠責保険				
荷造運賃・販売手数料	出荷用包装材料、運賃、販売手数料など				
その他の経費	上記以外の経費				
期末材料棚卸高	原材料の期末在り高				
期末仕掛品棚卸高	仕掛品の期末在り高				
育成費振替高	育成中の生物に対する当期の支出				

飼料費がある場合は、こちらも必ず回答してください。

６－１－２　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい　→　「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入の上、12頁の【７】へお進みください。

いいえ　→　12頁の【７】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円） 億 万 千 百 十 一

【６】農業に係る事業経費（当期製品製造原価、販売費及び一般管理費）（つづき）

② 製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方を作成している場合

※９頁の６－１－１を回答した場合は、12頁の【７】へ進んでください。

６－２－１　事業経費についてお伺いします。

事業経費の内訳を整理している決算資料（製造原価報告書、販売費及び一般管理費内訳書の両方）の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。

資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 農業以外の事業を行っている場合は、青色の点線内の農業割合を必ず記入の上、６－２－２へお進みください。

いいえ → 本年欄に記入の上、６－２－２へお進みください。

（1）当期製品製造原価（製造原価報告書）

勘定科目		説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
当期製品製造原価		【5】損益計算書の「当期製品製造原価③」計上額				
材料費	期首材料棚卸高	原材料の期首在り高				
	種苗費	種もみ、種子、種いも、苗類などの購入費				
	素畜費	預託費、種付費、もと畜の購入費用、登録料				
	肥料費	肥料の購入費用				
	飼料費	飼料の購入費用、自給飼料の振替額				
	農薬費	農薬、予防目的の家畜用の薬剤の購入費				
	敷料費	敷料の購入費				
	燃油費	重油等、園芸用ハウス暖房用燃料等の購入費				
	諸材料費	被覆用ビニール(マルチ)、鉢、針金などの購入費				
	期末材料棚卸高	原材料の期末在り高				
労務費		賃金手当、雑給、賞与、法定福利費、福利厚生費				
	うち作業用衣料費	労務費に含まれる作業服、長靴、軍手等の購入費				
外注費	作業委託費	賃耕料、刈取料などの農作業委託料				
	診療衛生費	獣医の診療報酬・コンサル料、治療用の薬剤費				
	預託費	家畜の育成、肥育の委託費				
	ヘルパー利用料	酪農や肥育牛などのヘルパー利用料				
	ほ場管理費	けい畔草刈り、水管理・肥培管理などの作業委託料				
製造経費	農機具費	取得10万円未満又は耐用年数1年未満の農機具購入費				
	修繕費	建物、農機具、農業用車両等の維持、修繕費				
	動力光熱費	生産用の電気、水道料やガソリン、軽油などの燃料費				
	共済掛金	作物や農用施設の共済掛金、価格補填負担金の収入保険料、事務費等				
	減価償却費	農業生産に使用した建物、農機具等の減価償却費				
	賃借料・地代	地代、家賃、賃借料、検査料、受託農産物精算費				
	土地改良費	土地改良負担金、土地改良賦課金、水利費				
	租税公課	生産用固定資産税等の租税、自動車損害賠償責任保険、農業共済賦課金				
その他		上記以外の経費				
仕掛品棚卸高増減		仕掛品の期首在り高－期末在り高				
育成費振替高		育成中の生物に対する当期の支出				

飼料費がある場合は、こちらも必ず回答してください。

（2）販売費及び一般管理費内訳書

勘定科目	説明	前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %
販売費及び一般管理費	【５】損益計算書の「販売費及び一般管理費」計上額				
人件費	給与手当、雑給、賞与、退職金、役員報酬、福利厚生費				
荷造運賃・販売手数料	出荷用包装材料、運賃、販売手数料など				
車両費・修繕費	事務用固定資産の修繕費、車両費				
減価償却費	販売や管理に使用した建物や自動車等の減価償却費				
地代・家賃・賃借料	販売管理用土地・建物の賃借料				
支払保険料	販売管理用固定資産の支払保険料				
租税公課・諸会費等	印紙税、消費税、諸会費				
貸倒引当金繰入額	貸倒引当金の当期の繰入金				
動力光熱費	販売や管理に使用した電気・水道料金など				
その他	上記に含まれない経費の合計				

車両費・修繕費がある場合は、こちらも必ず回答してください。

6－2－2　車両費・修繕費の金額に燃料費が含まれていますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 「本年」欄に車両費に含まれる燃料費の金額と農業割合を記入の上、6－2－3へお進みください。

いいえ → 6－2－3へお進みください。

前年 金額（円）	前年 農業割合 %	本年 金額（円） 億 万 千 百 十 一	本年 農業割合 %

6－2－3　飼料費の金額は、配合飼料価格安定制度の補てん金を控除していますか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 「本年金額」欄に控除した補てん金額を記入の上、12頁の【7】へお進みください。

いいえ → 12頁の【7】へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円） 億 万 千 百 十 一

【７】生産概況、農畜産物収入

１年間（決算期間）に、販売目的で作付（飼養）した農畜産物の作付延べ面積（飼養頭羽数）、生産量、販売金額についてお伺いします（自家消費のみの目的の場合は除きます。）。

なお、「作付延べ面積」「月平均飼養頭羽数」「生産量」欄には、事業用（種子用、飼料用、自家製造加工品の原料用）に消費することを目的に作付（飼養）した農畜産物も含めてください。
農業生産関連事業（自家製造加工品の原料用等）に仕向けている自家農産物の金額は、「販売金額」欄には含めず、18頁の８－２に記入してください。
また、稲わら以外の副産物を販売した場合は、該当する区分の販売金額に含めてください。

７－１　稲、麦類等

区分			作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年			
				作付延べ面積（茶は植栽面積）		生産量（kg）	販売金額（円）
				田（a）	畑（a）		
稲	食用	水稲	主食用、加工用、酒造用、米粉用、輸出用、備蓄用				
		陸稲					
	飼料用米		自給用を含む				
	WCS用稲		稲発酵粗飼料用稲（自給用を含む）				
稲わら・ぬか等			稲わら・もみがら・ぬかを販売したもの				
麦類	小麦						
	二条大麦						
	六条大麦						
	はだか麦						
	その他の麦		ライ麦など				
豆類	大豆		乾燥子実（枝豆等の未成熟は野菜）				
	大豆以外		小豆、ささげ、落花生などの乾燥子実				
雑穀	そば		そば殻を含む				
	他の雑穀		とうもろこし、あわ、ひえなどの穀物				
いも類	かんしょ		種いも用、原料用かんしょを含む				
	ばれいしょ		種いも用、原料用ばれいしょを含む				
工芸農作物	てんさい						
	さとうきび						
	茶		作付面積は植栽面積 生産量は荒茶換算				
	その他工芸農作物		なたね、い草、葉たばこなど				
その他	飼料用作物		牧草、デントコーン等、飼料用を目的に作付した作物の合計（自給用を含む）				
	その他の作物		芝、苗、苗木、栽培きのこ類など				

以下の設問にある１年間の生産概況を整理した資料がある場合は、整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。
資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → 18頁の【８】へお進みください。
いいえ → 本年欄に記入してください。

・**かんしょ**へのでん粉原料用いも交付金、**さとうきび**への甘味資源作物交付金は、販売金額に含めてください。

７－１　稲、麦類等

区分			本年			
			作付延べ面積（茶は植栽面積）		生産量（kg）	販売金額（円）
			田（ａ）	畑(普通畑)（ａ）		
			ha a	ha a		億 万 千 百 十 一
稲	食用	水稲				
		陸稲				
	飼料用米					
	WCS用稲					
稲わら・ぬか等						
麦類	小麦					
	二条大麦					
	六条大麦					
	はだか麦					
	その他の麦					
豆類	大豆					
	大豆以外					
雑穀	そば					
	他の雑穀					
いも類	かんしょ					
	ばれいしょ					
工芸農作物	てんさい					
	さとうきび					
	茶					
	その他工芸農作物					
その他	飼料用作物					
	その他の作物					

7－2　野菜

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
露地野菜					
	その他の露地野菜				
施設野菜					
	その他の施設野菜				

7－3　果樹

区　分	前　年				
	品　目		作付延べ面積（植栽面積）		販売金額（円）
	コード	品目名	露地（a）	施設（m^2）	
果　樹					
	その他の果樹				

7－2　野菜

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の露地野菜】【その他の施設野菜】にまとめて記入してください。

区分	本年 品目（生産した野菜の品目コード又は品目名を記入してください） コード	品目名	作付延べ面積 露地（a） ha	a	作付延べ面積 施設（m^2） m^2	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
露地野菜											
		その他の露地野菜									
施設野菜											
		その他の施設野菜									

野菜の品目はこちらから選択してください。

コード										
01	だいこん	04	キャベツ	07	ねぎ	10	なす	13	ピーマン
02	にんじん	05	ほうれんそう	08	たまねぎ	11	大玉トマト	14	ブロッコリー
03	はくさい	06	レタス	09	きゅうり	12	ミニトマト		

7－3　果樹

販売金額の多い順に記入してください。

品目記入欄に書ききれない品目及び品目コードに該当しない品目の作付面積・金額は【その他の果樹】にまとめて記入してください。

区分	本年 品目（生産した果樹の品目コード又は品目名を記入してください） コード	品目名	作付延べ面積（植栽面積） 露地（a） ha	a	作付延べ面積（植栽面積） 施設（m^2） m^2	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
果樹											
		その他の果樹									

果樹の品目はこちらから選択してください。

コード										
51	りんご	54	露地ぶどう	57	もも	60	おうとう	63	くり
52	露地温州みかん	55	施設ぶどう	58	かき	61	すもも	64	キウイフルーツ
53	施設温州みかん	56	日本なし	59	うめ	62	びわ	65	パインアップル

【7】生産概況、農畜産物収入（つづき）

7－4　花き

区　分	作付延べ面積、販売金額に含めるもの	前年		
		作付延べ面積		販売金額（円）
		露地（a）	施設（m^2）	
露地花き	露地で生産する鉢植えの花木を含む			
施設花き	施設で生産する鉢植えの花木を含む			

7－5　畜産物

区　分			飼養頭羽数、生産量に含めるもの	販売金額に含めるもの	前年		
					飼養頭羽数、生産量	販売頭羽数	販売金額（円）
酪農	生乳（年間）		自家で飼養する乳牛から搾乳して生産したもの	生乳	kg		
酪農	搾乳牛		搾乳牛(乾乳中の牛を含む)の**月平均飼養頭数**		頭		
酪農	自家生産乳牛等			自家で生産した乳牛（F1、ETを含む）、搾乳用育成牛		頭	
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛	繁殖用の和牛雌牛の**月平均飼養頭数**		頭		
肉用牛	繁殖牛	自家生産和牛等		自家で生産した子牛（和子牛・F1クロス牛）、自家で生産して繁殖用に育成した牛		頭	
肉用牛	肥育牛	肉専用種	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	肉専用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	乳用種	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	乳用種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
肉用牛	肥育牛	交雑種	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の**月平均飼養頭数**	交雑種の牛（他家から購入して育成または肥育した牛、自家で生産して肥育した牛）の合計	頭	頭	
養豚	繁殖雌豚		繁殖用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肥育豚		肥育用の豚の**月平均飼養頭数**		頭		
養豚	肉豚			肉豚、廃用豚のうち販売した豚		頭	
養豚	子豚			肥育用・繁殖用子豚		頭	
採卵養鶏	採卵鶏		採卵鶏（うずらを除く）の**月平均飼養羽数**		羽		
採卵養鶏	鶏卵（年間）		採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）	採卵鶏から生産される卵（販売した不正常卵を含む）、廃鶏	kg		
ブロイラー			ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）の**年間販売羽数**	ブロイラー、ブロイラー雛（地鶏を除く）		羽	
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）			きゅう肥として販売したもの（自給肥料としたもの以外）			
その他畜産	その他			地鶏、綿羊、うずら、やぎ、養蚕、養蜂等			

7－4　花き

区　分	本年 作付延べ面積 露地（a） ha	a	施設（m^2） m^2	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
露地花き									
施設花き									

7－5　畜産物

・**生乳**への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、販売金額に含めてください。

区　分			本年 飼養頭羽数（月平均）、生産量（年間） 万	千	百	十	一	（単位）	販売頭羽数（年間） 万	千	百	十	一	（単位）	販売金額（円） 億	万	千	百	十	一
酪農	生乳（年間）							kg												
	搾乳牛							頭（月平均）												
	自家生産乳牛等													頭						
肉用牛	繁殖牛	繁殖雌牛						頭（月平均）												
		自家生産和牛等												頭						
	肥育牛	肉専用種						頭（月平均）						頭						
		乳用種						頭（月平均）						頭						
		交雑種						頭（月平均）						頭						
養豚	繁殖雌豚							頭（月平均）												
	肥育豚							頭（月平均）												
	肉豚													頭						
	子豚													頭						
採卵養鶏	採卵鶏							羽（月平均）												
	鶏卵（年間）							kg												
ブロイラー														羽						
その他畜産	きゅう肥（ふん尿）																			
	その他																			

【８】農作業受託収入、事業消費など

８－１　農作業受託についてお伺いします。

１年間に農作業受託収入がありましたか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい	→	「本年金額」欄に受託収入を記入の上、８－２へお進みください。
いいえ	→	８－２へお進みください。

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

８－２　農業生産関連事業を行っている方にお伺いします。

自らが生産した農畜産物を農業生産関連事業に仕向けている場合は、仕向けた自家農畜産物の金額を記入してください。金額が不明な場合は、仕向けた数量に市場価格等を乗じて見積もった金額を記入してください。

前年金額（円）	本年金額（円）
	億 万 千 百 十 一

【９】農業に関する共済・補助金等

農業に関する共済・補助金等についてお伺いします。

１年間に農業に関する共済・補助金等の受取金や積立金等はありましたか。
「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい	→ 次の設問へお進みください。
いいえ	→ 調査は終了になります。

名称等		前年 チェック 受取	前年 チェック 積立	前年 金額 受取金（円）	前年 金額 積立金等（円）
農業保険	農業共済				
農業保険	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合計					

以下の設問にある受取金・積立金等を整理した資料の写しを提供していただくことにより記入に代えることが可能です。資料を提供していただけますか。「はい」か「いいえ」に〇を記入してください。

はい → １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けていただき、調査は終了になります。

いいえ → ① １年間に受け取った受取金、又は、拠出した積立金等の欄にチェック☑を付けてください。
② 受け取った金額を「受取金」欄に、拠出した金額を「積立金等」欄に記入してください。
なお、内訳の記入が難しい場合は、下段の「国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等」及び「合計」欄を記入してください。

名称等		本年 チェック 受取	本年 チェック 積立	本年 金額 受取金（円） 億 万 千 百 十 一	本年 金額 積立金等（円） 億 万 千 百 十 一
農業保険	農業共済				
	収入保険				
国、自治体、JA等の各種補助金・交付金等					
合計					

・**かんしょ**へのでん粉原料用いも交付金、**さとうきび**への甘味資源作物交付金並びに**生乳**への加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金は、受取金には含めず、「【７】生産概況、農畜産物収入」の該当農畜産物の「販売金額」に含めてください。

・大口奨励金など、購入や販売を促すために支払われるものは含めないでください。

別記様式第3号

秘
農林水産省
統計法に基づく基幹統計
農業経営統計

農業経営統計調査

記入用紙

別添3－3

令和〇年産 米 生産費統計（個別経営体）調査票

政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

✔本調査の対象範囲

- 令和〇年産の米の生産（受託生産を除く。）についてお答えください。
- 3ページ～41 ページは、食用米（食用のために生産された水稲）についてお答えください。
- 42 ページ以降は、飼料用米についてお答えください。
- 金額は消費税を含めて記入してください。

✔記入にあたって

- 黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用して青枠内に記入してください。
  なお、回答欄に「内訳」欄と「計」欄がある設問では、
  「内訳」欄に記入した場合、「計」欄への記入は不要です。
- 数字は右づめで記入してください。
- 該当がない項目は「－」を記入してください。
- マスが足りない場合は一番左のマス（桁）にまとめて、記入してください。
- 回答欄の単位に満たない数字は四捨五入をして記入してください。
- オンラインで回答される場合は、同封の「経営統計調査オンラインシステム操作手順書」に従って回答してください。
- 「調査票の記入の仕方」を参照して記入してください。

（記入例1）123.4 アールの場合

		町	反	畝	.	小数
		ha		a		
		1	2	3	.	4

（記入例2）該当がない場合

		町	反	畝	.	小数
		ha		a		
					.	－

✔記入欄にあらかじめ印字されている場合

- 一部の設問では、前年の回答をあらかじめ青字で印字しています。
- 変更や修正がありましたら、二重線で取り消し、正しい内容を記載してください（訂正印は不要です。）。

（記入例 3）
印字内容を修正する場合

		町	反	畝	.	小数
		ha		a		
		1	2	5		6
		~~1~~	~~2~~	~~3~~	.	~~4~~

2025 年センサス番号	都道府県		市区町村			旧市区町村		農業集落			調査区			客体番号		

目次

【1】 認定農業者の状況 ……3

【2】 直近5か年の10a 当たり収量 ……3

【3】 作業別労働時間 ……4

【4】 生産物の販売等の状況 ……9

【5】 制度受取金の状況 ……11

【6】 食用米生産のために使用した資材等 …… 12

【7】 農具の購入費・生産管理関係の費用等 ……25

【8】 物件税及び公課諸負担 ……27

【9】 土地改良及び水利費 ……29

【10】建物及び構築物(土地改良施設を含む。)の所有状況 ……30

【11】自動車(自動二輪・三輪を含む。)の所有状況 ……32

【12】農業機械(生産管理機器を含む。)の所有状況 ……34

【13】土地の面積及び地代 ……36

【14】作付ほ場の状況 ……39

【15】借入金(買掛未払金を含む。)及び支払利子 …… 41

【16】飼料用米の作付状況、費用及び労働時間 ……42

まずは経営全体のことをお教えください。

【1】認定農業者の状況

記入の仕方 ～ ページ

認定農業者はいますか。

いる	①
いない	②

ここからは　食用米　についてお教えください。

本調査は、以下の調査範囲の水稲（食用米）が対象です。

調査範囲

食用のために生産された水稲

主食用米　もち米　政府備蓄米
新市場開拓用米（食用）　加工用米
米粉用米　醸造用米

（※）畑に湛水した「田」で生産したものも含みます。

調査範囲外

飼料用米　バイオエタノール用稲
陸稲　ホールクロップサイレージ用稲
受託生産した米

直近5か年の食用米の 10a 当たり収量についてお教えください。

【2】直近5か年の10a 当たり収量

記入の仕方 ～ ページ

直近5か年における食用米の10a 当たりの収量（玄米数量）を記入してください。

区分	10a 当たりの収量
1 年前（〇〇〇〇年産（令和〇年産））	kg
2 年前（〇〇〇〇年産（令和〇年産））	kg
3 年前（〇〇〇〇年産（令和〇年産））	kg
4 年前（〇〇〇〇年産（令和〇年産））	kg
5 年前（〇〇〇〇年産（令和〇年産））	kg

ここからは 令和〇年産の食用米生産にかかった労働時間等 についてお教えください。

【3】作業別労働時間

記入の仕方 ～ ページ

1　家族や住み込みの年雇の労働時間

令和〇年産の食用米生産に携わった家族（世帯主を含め、夫婦とその血縁関係者を中心に構成され、共同生活の単位となる集団）の方や同居人（住み込みの年雇）について、1人ずつ性別、年齢、作業別の労働時間を記入してください。労働時間は食事などを除いた実労働時間とし、作業の準備や農具の片付けの時間、ほ場への往復時間も含めてください。また、複数の作業を同時に行った場合は、要した時間を作業数で等分し、それぞれの作業へ等分した時間を記入してください。

なお、受託作業に係る労働や他の農家等への出役労働は含みません。

7人以上の場合は、次ページに続けてご記入ください。

番号		1	2	3	4	5	6
作業者							
性別		男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
年齢（令和〇年1月1日時点）		歳	歳	歳	歳	歳	歳
作業	内容例示						
種子予措	選種、浸種、消毒、催芽	時間	時間	時間	時間	時間	時間
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業	時間	時間	時間	時間	時間	時間
耕起整地	荒起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ塗り	時間	時間	時間	時間	時間	時間
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入	時間	時間	時間	時間	時間	時間
直まき	直まき、覆土に係る労働	時間	時間	時間	時間	時間	時間
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗箱片付け	時間	時間	時間	時間	時間	時間
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤混入肥料の散布	時間	時間	時間	時間	時間	時間
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき	時間	時間	時間	時間	時間	時間
管理	けい畔の草刈り、けい畔の除草剤散布、水管理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
防除	農薬散布（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策	時間	時間	時間	時間	時間	時間
刈取脱穀	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲わら処理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
乾燥	乾燥、もみすり（※）、もみ及び玄米運搬	時間	時間	時間	時間	時間	時間
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記帳（税務申告は含まない。）	時間	時間	時間	時間	時間	時間
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等	時間	時間	時間	時間	時間	時間

（※）「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した時間を除いて記入してください。

1　家族や住み込みの年雇の労働時間(つづき)

番号		7	8	9	10	11	12
作業者							
性別		男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
年齢(令和〇年1月1日時点)		歳	歳	歳	歳	歳	歳
作業	内容例示						
種子予措	選種、浸種、消毒、催芽	時間	時間	時間	時間	時間	時間
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業	時間	時間	時間	時間	時間	時間
耕起整地	荒起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ塗り	時間	時間	時間	時間	時間	時間
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入	時間	時間	時間	時間	時間	時間
直まき	直まき、覆土に係る労働	時間	時間	時間	時間	時間	時間
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗箱片付け	時間	時間	時間	時間	時間	時間
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤混入肥料の散布	時間	時間	時間	時間	時間	時間
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき	時間	時間	時間	時間	時間	時間
管理	けい畔の草刈り、けい畔の除草剤散布、水管理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
防除	農薬散布(除草剤除く。)による防除、鳥獣害対策	時間	時間	時間	時間	時間	時間
刈取脱穀	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲わら処理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
乾燥	乾燥、もみすり(※)、もみ及び玄米運搬	時間	時間	時間	時間	時間	時間
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記帳(税務申告は含まない。)	時間	時間	時間	時間	時間	時間
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等	時間	時間	時間	時間	時間	時間

(※)「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した時間を除いて記入してください。

2　雇用労働時間(住み込みの年雇以外)

(1)　令和〇年産の食用米生産に携わった人の中に、住み込みの年雇以外で、雇用している人はいますか。

雇用している人はいない	①	→ 8ページへ
雇用している人がいる	②	→ (2)へ

(2)　((1)で「雇用している人がいる」を選択した方のみお答えください。)令和〇年産の食用米生産における雇用者(住み込みの年雇以外)の延べ労働時間について、作業別・男女別に記入してください。労働時間は食事などを除いた実労働時間とし、作業の準備や農具の片付けの時間、ほ場への往復時間も含めてください。

　また、複数の作業を同時に行った場合は、要した時間を作業数で等分し、それぞれの作業へ等分した時間を記入してください。

作業	内容例示	男性		女性	
種子予措	選種、浸種、消毒、催芽		時間		時間
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業		時間		時間
耕起整地	荒起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ塗り		時間		時間
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入		時間		時間
直まき	直まき、覆土に係る労働		時間		時間
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗箱片付け		時間		時間
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤混入肥料の散布		時間		時間
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき		時間		時間
管理	けい畔の草刈り、けい畔の除草剤散布、水管理		時間		時間
防除	農薬散布(除草剤除く。)による防除、鳥獣害対策		時間		時間
刈取脱穀	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲わら処理		時間		時間
乾燥	乾燥、もみすり(※)、もみ及び玄米運搬		時間		時間
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記帳(税務申告は含まない。)		時間		時間
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等		時間		時間

(※)「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した時間を除いて記入してください。

（3） 令和〇年産の食用米生産のために雇用者(住み込みの年雇以外)に支払った賃金について、**①賃金**、**②食用米負担割合**を男女別に記入してください。なお、現物支給した場合はその金額を見積もって含めてください。

●食用米のみの支払分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の支払分を含めて記入する場合
食用米分の割合を記入してください。

区分	①賃金		②食用米負担割合	
男性	万	円		%
女性	万	円		%

3　ゆい・手間替受け、共同作業受け、手伝い受けの労働時間

（1）令和〇年産の食用米生産に携わった人の中に、ゆい・手間替受け、共同作業受け、手伝い受けの人はいますか。該当するものに〇を記入してください。

区分	用語の説明	いる	いない
ゆい・手間替受け	食用米生産に係る作業で労働交換を受けた場合	①	②
共同作業受け	食用米生産に係る作業で集落等における共同作業を受けた場合	①	②
手伝い受け	食用米生産に係る作業で手伝いを受けた場合	①	②

1つでも「いる」に〇…（2）へ

すべて「いない」に〇
…次ページへ

（2）（1）で「いる」を選択した労働者について、令和〇年産の食用米生産における延べ労働時間を作業別・男女別に記入してください。労働時間は食事などを除いた実労働時間とし、作業の準備や農具の片付けの時間、ほ場への往復時間も含めてください。

　また、複数の作業を同時に行った場合は、要した時間を作業数で等分し、それぞれの作業へ等分した時間を記入してください。

区分		ゆい・手間替受け		共同作業受け		手伝い受け	
性別		男性	女性	男性	女性	男性	女性
作業	内容例示						
種子予措	選種、浸種、消毒、催芽	時間	時間	時間	時間	時間	時間
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業	時間	時間	時間	時間	時間	時間
耕起整地	荒起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ塗り	時間	時間	時間	時間	時間	時間
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入	時間	時間	時間	時間	時間	時間
直まき	直まき、覆土に係る労働	時間	時間	時間	時間	時間	時間
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗箱片付け	時間	時間	時間	時間	時間	時間
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤混入肥料の散布	時間	時間	時間	時間	時間	時間
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき	時間	時間	時間	時間	時間	時間
管理	けい畔の草刈り、けい畔の除草剤散布、水管理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
防除	農薬散布（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策	時間	時間	時間	時間	時間	時間
刈取脱穀	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲わら処理	時間	時間	時間	時間	時間	時間
乾燥	乾燥、もみすり（※）、もみ及び玄米運搬	時間	時間	時間	時間	時間	時間
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等	時間	時間	時間	時間	時間	時間

（※）「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した時間を除いて記入してください。

ここからは　令和〇年産の食用米の生産状況等　についてお教えください。

【4】生産物の販売等の状況

記入の仕方 ～ ページ

1　食用米の販売状況（玄米換算）

令和〇年産の収穫量のうち、販売用（予定を含む。）の食用米について、**①数量**、**②金額**を「計」欄に記入してください。なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

販売金額から販売委託手数料や出荷に関する経費（運送費、包装費等）を除いて記入してください（いわゆる庭先販売価額）。

区分	①数量	②金額	内容例示
販売用「計」	万　kg	万　円	〇主食用、加工用として販売された米（予定を含む。）及びその種子 次のようなものも含む ・いわゆる縁故米 ・贈答米 ・産直米 ・政府備蓄米 ・新市場開拓用米 ・加工用米 ・米粉用米 ・醸造用
内訳欄　（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）			
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	
	万　kg	万　円	

2　自家用の食用米の数量（玄米換算）

令和〇年産の収穫量のうち、自家用に仕向けた（予定を含む。）食用米の数量は何キログラムでしたか。

（該当がない区分は「－」を記入）

区分	内容例示	自家用の数量
種子用	種子用に仕向けたもの（予定を含む。）	万　kg
飯米用	飯米用に仕向けたもの（予定を含む。）	万　kg
その他	種子用、飯米用以外に仕向けたもの（予定を含む。）	万　kg

注：自家用については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

3　稲わら、もみがら、ふるい下米等

令和〇年産の食用米生産で発生した稲わら、もみがら、ふるい下米等のうち、販売用又は自家用に仕向けた（予定を含む。）ものについて、**①数量**を記入してください（焼却、廃棄したものは含みません。）。

また、販売用に仕向けたものについては、**②金額**も記入してください。

（該当がない区分は①に「－」を記入）

販売金額から販売委託手数料や出荷に関する経費（運送費、包装費等）を除いて記入してください（いわゆる庭先販売価額）。

区分		内容例示	①数量	②金額
販売用	稲わら加工品等	民芸品、なわ等の原料、飼料、敷料、たい肥等仕向けのもの（きゅう肥交換を含む。）	万　kg	万　円
販売用	もみがら	販売したもみがら	万　kg	万　円
販売用	ふるい下米等	選別により除かれた米（販売したもの）	万　kg	万　円
自家用	乾燥わら	収納された稲わらで、自家仕向けのもの（水田還元、敷料、たい肥等）	万　kg	
自家用	もみがら	自家で使用したもみがら	万　kg	
自家用	ふるい下米等	選別により除かれた米（自家で使用したもの）	万　kg	

注：自家用については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

【5】制度受取金の状況

記入の仕方 ～ ページ

令和〇年産の食用米に係る以下の制度受取金はいくらでしたか。
（該当がない区分は「－」を記入）

制度名	受取金
	万 円
	万 円
	万 円
	万 円
	万 円

注：飼料用米、WCS 稲に係る交付金は含みません。

ここからは　令和〇年産の食用米生産に使用した金額等　についてお教えください。

【6】食用米生産のために使用した資材等

記入の仕方 ～ ページ

1　使用した種子（購入分）

令和〇年産の食用米生産のために使用した種子のうち、購入した分について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

また、浸種の場合の減耗分や不発芽による二度まき分についても含めてください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

品種名等	使用数量	単位	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合
使用した種子（購入分）「計」			万　円	%
内訳欄　（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）				
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%

2　使用した種子(自給分)

(1) 令和〇年産の食用米生産のために使用した種子のうち、自給分(自家生産した分)はありますか。

ない	① → 次ページへ
ある	② → (2)へ

(2) ((1)で「ある」を選択した方のみお答えください。)令和〇年産の食用米生産のために使用した種子のうち、自給分(自家生産した分)について、**①品種名等、②使用数量、③単位、④食用米負担割合**を記入してください。

また、浸種の場合の減耗分や不発芽による二度まき分についても含めてください。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

①品種名等	②使用数量	③単位	④食用米負担割合
			%
			%
			%
			%
			%

注:自給分については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

3　使用した苗(購入分)

令和〇年産の食用米生産のために使用した苗のうち、購入した分について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

品種名等	使用数量	単位	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合
使用した苗(購入分)「計」			万　円	%
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)				
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%

4　使用した肥料(たい肥・きゅう肥以外)(購入分)

令和〇年産の食用米生産のために使用した肥料(たい肥・きゅう肥以外)のうち、購入した分について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資材名等	使用数量	単位	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合	内容例示
使用した肥料(たい肥・きゅう肥以外)(購入分)「計」			万　円	%	・窒素質肥料 ・りん酸質肥料 ・カリ質肥料 ・けい酸質肥料 ・炭酸カルシウム(石灰含む。) ・複合肥料 ・土壌改良資材 ・微生物資材 ・液肥 ・農薬入り肥料 ・ペースト肥料 ・苦土質肥料 ・微量要素肥料 ・有機質肥料 など
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)					
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	
			万　円	%	

注:融雪剤として使用した分は、21～22 ページ「10　使用した諸材料(購入分)」「11　使用した諸材料(自給分)」に記入してください。

5　使用した、たい肥・きゅう肥(購入分)

令和〇年産の食用米生産のために使用した、たい肥・きゅう肥のうち、購入した分について、
①使用数量、②使用数量分の購入金額、③食用米負担割合を記入してください。
(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資材名等	①使用数量	②使用数量分の購入金額	③食用米負担割合
たい肥・きゅう肥(購入分)	万　kg	万　円	%

6　使用した肥料(自給分)

(1) 令和〇年産の食用米生産のために使用した肥料のうち、自給分(自家生産した分)はありますか。

ない	① → 次ページへ
ある	② → (2)へ

(2) ((1)で「ある」を選択した方のみお答えください。)令和〇年産の食用米生産のために使用した肥料のうち、自給分(自家生産した分)について、**①使用数量**、**②単位**、**③食用米負担割合**を記入してください。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資材名等		①使用数量	②単位	③食用米負担割合
たい肥		万	kg	%
きゅう肥		万	kg	%
稲・麦わら(注1)		万	kg	%
その他		万		%
		万		%
		万		%

注1:稲・麦わらは、前作の収穫後にほ場に放置し、そのまますき込んだ分を除いて記入してください。
注2:自給分については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

7　使用した農業薬剤

令和〇年産の食用米生産のために使用した農業薬剤について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資材名等	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合	内容例示
使用した農業薬剤「計」	万　円	%	・殺虫剤 ・殺菌剤 ・殺虫殺菌剤 ・除草剤 ・植物成長調整剤 ・展着剤 ・生産に使用する農具及び資材の殺菌・消毒剤 など
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)			
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	

注1:航空防除賃は、農薬代も含め 23 ページ「12　賃借料及び料金(航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製委託料)」に、共同負担金(薬剤散布)は、農薬代も含め 24 ページ「13　賃借料及び料金(航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製委託料以外)」に記入してください。

注2:除草剤等農薬入りの肥料は 15 ページ「4　使用した肥料(たい肥・きゅう肥以外)(購入分)」に記入してください。

8　使用した光熱動力(購入分)

令和〇年産の食用米生産のために使用した光熱動力のうち、購入した分について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当しない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

区分		使用数量	単位	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合
使用した光熱動力(購入分)「計」				万　円	%
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)					
動力燃料	重油		L	万　円	%
	軽油		L	万　円	%
	灯油		L	万　円	%
	ガソリン		L	万　円	%
	潤滑油		L	万　円	%
	混合油		L	万　円	%
電力料				万　円	%
その他(水道料、木炭などの燃料)				万　円	%

9　使用した光熱動力(自給分)

(1) 令和○年産の食用米生産のために使用した光熱動力のうち、自給分(自家生産した分)はありますか。

ない	① → 次ページへ
ある	② → (2)へ

(2) ((1)で「ある」を選択した方のみお答えください。)令和○年産の食用米生産のために使用した光熱動力のうち、自給分(自家生産した分)について、**①光熱動力名**、**②使用数量**、**③単位**、**④食用米負担割合**を記入してください。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

①光熱動力名	②使用数量	③単位	④食用米負担割合
	万		%
	万		%
	万		%
	万		%
	万		%

注:自給分については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

10　使用した諸材料(購入分)

令和〇年産の食用米生産のために使用した諸材料のうち、購入した分について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

諸材料とは、育苗箱マット、あぜ波板、ビニールシート、なわ、バインダー用結束ひも等の消耗品です。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資材名等	使用数量	単位	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合
使用した諸材料(購入分)「計」			万　円	%
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)				
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%
			万　円	%

注 1:償却資産に属する建物(育苗ハウス等)のビニール張り替え費用については、30～31 ページ「【10】 建物及び構築物(土地改良施設を含む。)の所有状況」の修繕費に記入してください。

注 2:くわ、かま等の農具や作業着等については、25 ページの「1　農具・農業被服等の購入費」に記入してください。

11　使用した諸材料(自給分)

(1) 令和〇年産の食用米生産のために使用した諸材料のうち、自給分(自家生産した分)はありますか。

ない	① → 次ページへ
ある	② → (2)へ

(2) ((1)で「ある」を選択した方のみお答えください。)令和〇年産の食用米生産のために使用した諸材料のうち、自給分(自家生産した分)について、**①資材名等**、**②使用数量**、**③単位**、**④食用米負担割合**を記入してください。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

①資材名等	②使用数量	③単位	④食用米負担割合
	万		%
	万		%
	万		%
	万		%
	万		%

注:自給分については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

12　賃借料及び料金（航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製委託料）

令和〇年産の食用米生産のために支払った航空防除賃、収穫請負わせ賃、ライスセンター費、カントリーエレベーター費、その他の乾燥・調製委託料について、**①延べ委託面積または委託数量、②支払金額、③食用米負担割合**を記入してください。

なお、乾燥・調製に係る委託数量については、玄米数量を記入してください。

（該当がない区分は①に「－」を記入）

●食用米のみの支払分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の支払分を含めて記入する場合
食用米分の割合を記入してください。

料金名等	①延べ委託面積 または 委託数量	②支払金額	③食用米負担割合
	町 反 畝 . 小数		
航空防除賃（※1）	ha a .	万 円	%
収穫請負わせ賃	ha a .	万 円	%
ライスセンター費（※2）	万 kg	万 円	%
カントリーエレベーター費（※2）	万 kg	万 円	%
上記以外の乾燥・調製委託料（※2）	万 kg	万 円	%

※1：航空防除賃は、農薬代も含めて記入してください。

※2：ライスセンター、カントリーエレベーター等に乾燥・調製を委託しており、その委託料金に包装荷造り費が含まれる場合、包装荷造り費を除いて記入してください。

13　賃借料及び料金(航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製委託料以外)

令和〇年産の食用米生産のために支払った賃借料や料金(航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製に係る費用を除く)について、**①支払金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみの支払分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の支払分を含めて記入する場合
食用米分の割合を記入してください。

料金名等		数量等 単位		①支払金額		②食用米負担割合
賃借料及び料金(航空防除賃、収穫請負わせ賃、乾燥・調製委託料以外)「計」				万 円		%
内訳欄　(以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)						
共同負担金	薬剤散布(※)			万 円		%
共同負担金	共同施設			万 円		%
共同負担金	共同苗代			万 円		%
農機具借料				万 円		%
賃耕料			a	万 円		%
は種・田植賃			a	万 円		%
その他				万 円		%
その他				万 円		%
その他				万 円		%
その他				万 円		%
その他				万 円		%

(※)共同負担金(薬剤散布)は、農薬代も含めて記入してください。

1　農具・農業被服等の購入費

令和〇年産の食用米生産のために使用した農具・農業被服等の購入費について、**①使用数量分の購入金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

名称	①使用数量分の購入金額	②食用米負担割合	内容例示
農具・農業被服等の購入費「計」	万　円	%	【農具の購入費】 ・くわ類 ・かま類 ・シャベル類 ・ホース ・じょうろ ・防除ネット ・防鳥ネット　等の購入費 【農業被服の購入費】 ・作業着 ・軍手 ・ゴム長靴 等の農作業用の衣類の購入費
内訳欄　（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）			
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	

2　生産管理関係の費用

令和〇年産の食用米生産のために発生した生産管理関係の費用について、**①金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

名称	①金額	②食用米負担割合	内容例示
生産管理関係の費用「計」	万　円	%	【購入費】 ・コピー用紙、プリントートナー等の消耗品の購入費 ・農業経営に係る事務用机、消耗品（筆記用具、帳簿、ノート、電卓等）の購入費 【技術習得に係る費用】 ・研修、集会等への参加料（受講料） ・研修等のための交通費 ・営農、技術習得等に関する専門書の購入費 【電話代・通信費】 ・スマートフォン等の通信料
内訳欄　（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）			
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	
	万　円	%	

1　物件税

令和〇年産の食用米生産に関係する以下の物件税について、**①金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

●食用米のみの負担分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の負担分を含めて記入する場合
食用米の負担割合を記入してください。

区分	①金額	②食用米負担割合
物件税「計」	万　円	%
内訳欄（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）		
固定資産税（建物）（※）	万　円	%
固定資産税（農機具）（※）	万　円	%
不動産取得税（土地以外）（※）	万　円	%
水利地益税	万　円	%
都市計画税（土地以外）（※）	万　円	%
共同施設税	万　円	%

（※）固定資産税、不動産取得税及び都市計画税は土地に係る金額を除いて記入してください。

2　公課諸負担

令和〇年産の食用米生産に関係する以下の公課諸負担について、**①金額**、**②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない場合は①に「－」を記入)

●食用米のみの負担分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の負担分を含めて記入する場合
食用米の負担割合を記入してください。

区分	①金額	②食用米負担割合
公課諸負担「計」	万　円	%
内訳欄（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）		
集落協議会費（地域集落等の会費）	万　円	%
農業協同組合費	万　円	%
農事実行組合費（稲作部会等の会費）	万　円	%
農業共済組合賦課金	万　円	%

1　土地改良区費

令和〇年産の食用米生産に関係する以下の土地改良区費について、**食用米作付ほ場負担金額（①維持負担金、②償還金）、③食用米負担割合**を記入してください。

（該当がない区分は「－」を記入）

●食用米のみの負担分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の負担分を含めて記入する場合
食用米の負担割合を記入してください。

事業種類	食用米作付ほ場負担金額		③食用米負担割合
	①維持負担金	②償還金	
ほ場整備事業	万　円	万　円	%
農地開発事業	万　円	万　円	%
かんがい排水事業	万　円	万　円	%
農道整備事業	万　円	万　円	%
その他（整地、表土扱いのない事業）	万　円	万　円	%

2　水利費等

令和〇年産の食用米生産に関係する水利費等について、**①食用米作付ほ場負担金額、②食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

（該当がない場合は①に「－」を記入）

水利組合費、揚水ポンプ組合費などの水利に係る費用を記入してください。

●食用米のみの負担分を記入する場合
100（%）としてください。
●食用米以外の負担分を含めて記入する場合
食用米の負担割合を記入してください。

費用名	①食用米作付ほ場負担金額	②食用米負担割合
水利に係る費用「計」	万　円	%
内訳欄（以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要）		
	万　円	%
	万　円	%
	万　円	%
	万　円	%

【10】建物及び構築物(土地改良施設を含む。)の所有状況

記入の仕方 ～ ページ

令和〇年産の食用米生産のために使用した建物及び構築物の所有状況について記入してください。

令和〇年1月1日現在で償却済のものに〇を記入してください。
償却済のものについては、耐用年数、取得年月、取得価額、農業経営基盤強化準備金の記入は不要です。

番号	名称等	償却済状況	耐用年数	取得年月		取得価額	農業経営基盤強化準備金
				年(西暦)	月	(購入金額から補助金分を控除した額を記入してください。)	(建物等の取得のために取り崩した準備金の額を記入してください。なお、左欄の取得価額には購入金額から準備金の額を控除して記入してください。)
1		○	年	年	月	億 万 円	万 円
2		○	年	年	月	億 万 円	万 円
3		○	年	年	月	億 万 円	万 円
4		○	年	年	月	億 万 円	万 円
5		○	年	年	月	億 万 円	万 円
6		○	年	年	月	億 万 円	万 円
7		○	年	年	月	億 万 円	万 円
8		○	年	年	月	億 万 円	万 円
9		○	年	年	月	億 万 円	万 円
10		○	年	年	月	億 万 円	万 円

●当該建物等を食用米のみに使用した場合
100(%)としてください。
●当該建物等を食用米以外にも使用した場合
食用米に使用した割合を記入してください。

修繕費(※) 令和〇年産に係る当該建物等の修繕費を記入してください。	保険料 令和〇年産に係る当該建物等の災害や事故による損害補償を目的とした掛捨保険料を記入してください。	食用米負担割合	年内取り壊し・売却状況					番号
			状況区分			発生金額 売却金額、取り壊しの金額	部分取り壊しをした面積割合	
			取り壊し	部分取り壊し	売却			
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	1
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	2
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	3
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	4
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	5
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	6
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	7
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	8
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	9
万 円	万 円	%	○	○	○	万 円	%	10

(※)修繕費には、次のような費用を記入してください。
・倉庫の屋根の修理、壁の塗り替え費用
・育苗ハウスのビニールの張り替え費用
・建物の電灯や電球の交換費用
・防風網や支柱の修繕費用　など

【11】自動車(自動二輪・三輪を含む。)の所有状況

記入の仕方 ～ ページ

令和〇年産の食用米生産のために使用した自動車等の所有状況について記入してください。

令和〇年1月1日現在で償却済のものに〇を記入してください。
償却済のものについては、耐用年数、取得年月、取得価額の記入は不要です。

番号	名称等	償却済状況	耐用年数	取得年月		取得価額	修繕費(※)	自動車保険料
				年(西暦)	月	購入金額から補助金分を控除した額を記入してください。		任意保険(対人・対物を除く車両分のみ。)の掛金を記入してください。
1		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
2		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
3		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
4		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
5		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
6		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
7		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
8		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
9		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円
10		〇	年	年	月	万 円	万 円	万 円

(※)修繕費には、次のような費用を記入してください。

・自動車(バイクを含む。)の修繕や整備費用、部品代、車検料のうち整備費用、自動車付属品
・バッテリー、補充液
・洗車代、リサイクル料金　など

令和〇年産に係る当該自動車等に要した費用について記入してください。

●当該自動車等を食用米のみに使用した場合
100(%)としてください。
●当該自動車等を食用米以外にも使用した場合
食用米に使用した割合を記入してください。

自動車・軽自動車税	令和〇年に車検を受けた自動車等について記入してください。		食用米負担割合	年内売却・廃棄状況			番号
	自動車重量税	自賠責保険		状況区分		売却金額	
				売却	廃棄・無償譲渡		
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	1
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	2
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	3
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	4
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	5
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	6
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	7
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	8
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	9
万 円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	10

【12】農業機械(生産管理機器を含む。)の所有状況

記入の仕方 ～ ページ

令和〇年産の食用米生産のために使用した農業機械、パソコンやコピー機等の生産管理機器の所有状況について記入してください。

令和〇年1月1日現在で償却済のものに〇を記入してください。
償却済のものについては、耐用年数、取得年月、取得価額、農業経営基盤強化準備金の記入は不要です。

番号	名称等	償却済状況	耐用年数	取得年月		取得価額	農業経営基盤強化準備金	修繕費(※)
				年(西暦)	月	購入金額から補助金分を控除した額を記入してください。	農業機械の購入のために取り崩した準備金の額を記入してください。 なお、左欄の取得価額には購入金額から準備金の額を控除して記入してください。	
1		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
2		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
3		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
4		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
5		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
6		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
7		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
8		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
9		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円
10		○	年	年	月	万 円	万 円	万 円

(※)修繕費には、次のような費用を記入してください。

・農業機械の修繕、整備費用、部品代

・パソコン等の修理費用、部品代　など

令和〇年産に係る当該農業機械や生産管理機器に要した費用について記入してください。

●当該農業機械等を食用米のみに使用した場合
100(%)としてください。
●当該農業機械等を食用米以外にも使用した場合
食用米に使用した割合を記入してください。

保険料 (災害や事故による損害補償を目的とした掛捨保険料を記入してください。)	軽自動車税	令和〇年に車検を受けた車両について記入してください。		食用米負担割合	年内売却・廃棄状況			番号
		自動車重量税	自賠責保険		状況区分		売却金額	
					売却	廃棄・無償譲渡		
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	1
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	2
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	3
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	4
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	5
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	6
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	7
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	8
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	9
万 円	円	万 円	万 円	%	○	○	万 円	10

1　作付地

令和〇年産の食用米生産のために作付けした(1)所有地と(2)借入地について、**①団地又はほ場名等**、**②土地台帳面積**、**③作付面積**、**④支払地代**(借入地のみ)、**⑤食用米負担割合**を記入してください。なお、所有地、借入地の**③作付面積**の合計が令和〇年産の食用米の作付面積になるように記入してください。

令和〇年産の食用米の収穫が終わる前の1年間に、
●食用米のみを作付けした団地・ほ場等の場合
　100(%)としてください。
●食用米以外の作物も作付けした団地・ほ場等の場合
　作付けした作物の収入全体に占める食用米の収入割合を記入してください。

(1) 所有地

番号	①団地　又は　ほ場名等	②土地台帳面積 0.1a 単位					③作付面積 0.1a 単位					⑤食用米負担割合	
			町	反	畝	. 小数		町	反	畝	. 小数		
1			ha		a	.		ha		a	.		%
2			ha		a	.		ha		a	.		%
3			ha		a	.		ha		a	.		%
4			ha		a	.		ha		a	.		%
5			ha		a	.		ha		a	.		%
6			ha		a	.		ha		a	.		%
7			ha		a	.		ha		a	.		%
8			ha		a	.		ha		a	.		%
9			ha		a	.		ha		a	.		%
10			ha		a	.		ha		a	.		%
11			ha		a	.		ha		a	.		%
12			ha		a	.		ha		a	.		%
13			ha		a	.		ha		a	.		%
14			ha		a	.		ha		a	.		%
15			ha		a	.		ha		a	.		%

令和〇年産の食用米の収穫が終わる前の1年間に、
●食用米のみを作付けした団地・ほ場等の場合
100(%)としてください。
●食用米以外の作物も作付けした団地・ほ場等の場合
作付けした作物の収入全体に占める食用米の収入割合を記入してください。

(2) 借入地

番号	①団地又はほ場名等	②土地台帳面積 0.1a 単位	③作付面積 0.1a 単位	④支払地代	⑤食用米負担割合
		町 反 畝 . 小数	町 反 畝 . 小数		
1		ha a .	ha a .	万 円	%
2		ha a .	ha a .	万 円	%
3		ha a .	ha a .	万 円	%
4		ha a .	ha a .	万 円	%
5		ha a .	ha a .	万 円	%
6		ha a .	ha a .	万 円	%
7		ha a .	ha a .	万 円	%
8		ha a .	ha a .	万 円	%
9		ha a .	ha a .	万 円	%
10		ha a .	ha a .	万 円	%
11		ha a .	ha a .	万 円	%
12		ha a .	ha a .	万 円	%
13		ha a .	ha a .	万 円	%
14		ha a .	ha a .	万 円	%
15		ha a .	ha a .	万 円	%

2　建物敷地等

令和〇年産の食用米生産のために使用した作付地以外の建物敷地等の所有地、借入地について、**①建物敷地名**、**②総面積**、**③使用面積**、**④支払賃借料**(借入地のみ)、**⑤食用米負担割合**を記入してください。

総面積に対する食用米の使用割合を記入してください。

番号		①建物敷地名	②総面積 ㎡単位	③使用面積 ㎡単位	④支払賃借料	⑤食用米負担割合
1	所有地		万 ㎡	万 ㎡		%
2			万 ㎡	万 ㎡		%
3			万 ㎡	万 ㎡		%
4			万 ㎡	万 ㎡		%
5			万 ㎡	万 ㎡		%
6			万 ㎡	万 ㎡		%
7			万 ㎡	万 ㎡		%
8			万 ㎡	万 ㎡		%
1	借入地		万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
2			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
3			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
4			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
5			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
6			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
7			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%
8			万 ㎡	万 ㎡	万 円	%

1　作付ほ場規模別のほ場枚数及び作付面積

令和〇年産の食用米を作付けたほ場について、ほ場の規模別に**①ほ場枚数**、**②作付面積**を記入してください。なお、**②作付面積**の合計が令和〇年産の食用米の作付面積になるように記入してください。

（該当がない区分は①に「－」を記入）

区分	①ほ場枚数		②作付面積 0.1a 単位				
				町	反	畝	. 小数
未整理又は 10a 未満		枚		ha		a	.
10a～20a 未満区画		枚		ha		a	.
20a～30a 未満区画		枚		ha		a	.
30a～50a 未満区画		枚		ha		a	.
50a～1ha 未満区画		枚		ha		a	.
1ha 以上区画		枚		ha		a	.

2　田の団地数

令和〇年産の食用米を作付けた田の団地はいくつですか。

区分	用語の説明	団地数
田の団地数	ほ場が地続きでまとまっている場合は、そのまとまりを1団地とします。地続きの耕地の一団が、他人の経営する耕地等によって分割されていても、作業単位として分離されていない場合は、同一の団地としてください。	団地

3　田の区画整理状況

令和〇年産の食用米を作付けた田の区画整理済の面積は何割ですか。該当するもの１つに〇を記入してください。

区画整理済の面積割合	いずれかに〇
50%未満	①
50～80%未満	②
80%以上	③

4　ほ場間の距離及び団地への平均距離

令和〇年産の食用米を作付けたほ場間の距離と、団地への平均距離は何キロメートルですか。

区分	用語の説明	距離 0.1km単位 百 十 一 . 小数	
ほ場間の距離	2つ以上団地がある場合、最も離れたほ場間を、最も使われる道のりで移動した距離。（団地数が1つの場合は「－」を記入）	.	km
団地への平均距離	居住箇所を起点として、それぞれの団地へ、最も使われる道のりで移動した距離の合計を、団地数の合計で割ったもの。	.	km

【15】借入金(買掛未払金を含む。)及び支払利子

記入の仕方 ～ ページ

令和〇年産の食用米生産のための借入金及び支払利子について、**①令和〇年1月1日時点の未償還残高**、**②令和〇年の支払利子額**、**③食用米負担割合**を「計」欄に記入してください。

なお、「計」を記入しない場合は、内訳欄に記入してください。

(該当がない区分は「－」を記入)

土地の取得に関する借入金を除いて記入してください。

●食用米のみに使用した分を記入する場合
100(%)としてください。
●食用米以外の使用分を含めて記入する場合
食用米に使用した割合を記入してください。

資金名(用途)	①令和〇年1月1日時点の未償還残高	②令和〇年の支払利子額	③食用米負担割合
「計」	万 円	万 円	%
内訳欄 (以下に内訳を記入する場合、「計」欄の記入は不要)			
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
借入金	万 円	万 円	%
買掛未払金	万 円	万 円	%

最後に　飼料用米　についてお教えください。

飼料用米とは、家畜の飼料として生産される米のことを言います。

○ 調査範囲	× 調査範囲外
飼料用米	食用のために生産された水稲 （主食用米　もち米　政府備蓄米 新市場開拓用米（食用）　加工用米 米粉用米　醸造用米 バイオエタノール用稲　陸稲 ホールクロップサイレージ用稲 受託生産した米）

【16】飼料用米の作付状況、費用及び労働時間

記入の仕方 ～ ページ

1　飼料用米の作付状況

令和〇年産に飼料用米の作付けがありましたか。

飼料用米の作付けはなかった	①	→ 調査は以上で終了です。 ご回答いただき、ありがとうございました。
飼料用米の作付けがあった	②	→ 次ページへ

2　飼料用米の作付面積及び生産量

令和〇年産の飼料用米について**①作付面積**、**②生産量**（玄米、乾燥もみ及び生もみ別）を記入してください。

なお、乾燥もみ、生もみの生産量は玄米換算しない数量を記入してください。

（該当がない区分は①に「－」を記入）

区分	①作付面積 0.1a 単位	②生産量		
		玄米	乾燥もみ	生もみ
	町 反 畝 . 小数			
飼料用米	ha a .	万 kg	万 kg	万 kg
うち多収品種	ha a .	万 kg	万 kg	万 kg

3　稲わらの販売状況等

令和〇年産の飼料用米生産で発生した稲わらについて、販売用又は自家用に仕向けた（予定を含む。）ものについて、**①数量**を記入してください（焼却、廃棄したものは含みません。）。

また、販売用に仕向けたものについては、**②金額**も記入してください。

販売金額から販売委託手数料や出荷に関する経費（運送費、包装費等）を除いて記入してください（いわゆる庭先販売価額）。

区分	内容例示	①数量	②金額
販売用稲わら	民芸品、なわ、飼料、敷料、たい肥等仕向けのもの（きゅう肥交換含む。）	万 kg	万 円
自家用乾燥わら	収納された稲わらで、自家仕向けのもの（水田還元、敷料、たい肥等）	万 kg	

注：自家用については、記入の数量を基に担当者が市価評価により金額を計算します。

4　飼料用米と食用米の 10a当たり費用及び労働時間の違いの有無

令和〇年産の飼料用米と食用米生産にかかる 10a 当たりの費用及び労働時間に違いはありましたか。

費用及び労働時間に違いはなかった	① → 調査は以上で終了です。ご回答いただき、ありがとうございました。
費用及び労働時間に違いがあった	② → 次ページへ

5　飼料用米生産にかかる費用（10a当たり）

令和〇年産の飼料用米生産にかかる 10a当たりの費用について、**①食用米との違いの有無**を選択してください。違いがある場合は、②食用米にかかる 10a 当たりの費用を 100%としたときの**飼料用米の割合**、**③食用米との違いが生じる主な要因**を記入してください。

食用米との違いの有無について、それぞれ該当するものに〇を記入してください。食用米との違いがない場合は、②飼料用米の割合、③食用米との違いが生じる主な要因の記入は不要です。

食用米にかかる 10a 当たりの費用を 100%とした場合の割合を記入してください。

費用の種類	①食用米との違い		②飼料用米の割合	③食用米との違いが生じる主な要因
	有	無		
種苗費	1	0	%	
肥料費	1	0	%	
農業薬剤費	1	0	%	
光熱動力費	1	0	%	
その他の諸材料費	1	0	%	
土地改良及び水利費	1	0	%	
賃借料及び料金	1	0	%	
物件税及び公課諸負担	1	0	%	
建物費	1	0	%	
自動車費	1	0	%	
農機具費	1	0	%	
生産管理費	1	0	%	

6　飼料用米生産にかかる労働時間（10a当たり）

令和〇年産の飼料用米生産にかかる10a当たりの労働時間について、**①食用米との違いの有無**を選択してください。違いがある場合は、②食用米にかかる10a当たりの労働時間を100%としたときの**飼料用米の割合**、**③食用米との違いが生じる主な要因**を記入してください。

食用米との違いの有無について、それぞれ該当するものに〇を記入してください。食用米との違いがない場合は、②飼料用米の割合、③食用米との違いが生じる主な要因の記入は不要です。

食用米にかかる10a当たりの労働時間を100%とした場合の割合を記入してください。

労働時間名	①食用米との違い		②飼料用米の割合		③食用米との違いが生じる主な要因
	有	無			
種子予措	1	0		%	
育苗	1	0		%	
耕起整地	1	0		%	
基肥	1	0		%	
直まき	1	0		%	
田植	1	0		%	
追肥	1	0		%	
除草	1	0		%	
管理	1	0		%	
防除	1	0		%	
刈取脱穀	1	0		%	
乾燥	1	0		%	
生産管理	1	0		%	
間接労働	1	0		%	

調査は以上で終了です。ご回答いただき、ありがとうございました。

令和〇年産の水稲栽培の特徴

1　作柄概況

2　被害の状況や品質

3　栽培状況の変化

(1)新たな品種の導入

(2)直まき栽培の導入

(3)新たな設備・機械の導入

(4)その他(新たな栽培技術の導入)

調査票の記入について、分からないこと等がありましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

調査票のお問い合わせ先

別添４

農業経営統計調査の集計事項一覧

目　　次

Ⅰ　営農類型別経営統計

1　個人経営体

(1) 水田作経営 …… 1
(2) 畑作経営 …… 1
(3) 野菜作経営 …… 2
(4) 果樹作経営 …… 3
(5) 花き作経営 …… 3
(6) 酪農経営 …… 4
(7) 肉用牛経営 …… 4
(8) 養豚経営 …… 4
(9) 採卵養鶏経営 …… 4
(10) ブロイラー養鶏経営 …… 4

2　個人経営体（資産等把握経営体）

(1) 水田作経営 …… 5
(2) 畑作経営 …… 5
(3) 野菜作経営 …… 5
(4) 果樹作経営 …… 6
(5) 花き作経営 …… 7
(6) 酪農経営 …… 7
(7) 肉用牛経営 …… 7
(8) 養豚経営 …… 7
(9) 採卵養鶏経営 …… 7
(10) ブロイラー養鶏経営 …… 7

3　法人経営体

(1) 水田作経営 …… 8
(2) 畑作経営 …… 8
(3) 野菜作経営 …… 9
(4) 果樹作経営 …… 9
(5) 花き作経営 …… 9
(6) 酪農経営 …… 9
(7) 肉用牛経営 …… 9
(8) 養豚経営 …… 9
(9) 採卵養鶏経営 …… 9
(10) ブロイラー養鶏経営 …… 9

4　農業経営体

(1) 水田作経営 …… 10
(2) 畑作経営 …… 10
(3) 野菜作経営 …… 10
(4) 果樹作経営 …… 11
(5) 花き作経営 …… 11
(6) 酪農経営 …… 11
(7) 肉用牛経営 …… 11
(8) 養豚経営 …… 11
(9) 採卵養鶏経営 …… 11
(10) ブロイラー養鶏経営 …… 11

Ⅱ　経営形態別経営統計

１　個人経営体

(1) 全国年次別統計表 …… 12
(2) 全国農業地域別統計表 …… 12
(3) 農業所得依存度別統計表 …… 12
(4) 青色申告経営体統計表 …… 12
(5) 農業地域類型別統計表 …… 12
(6) 認定農業者のいる経営体の経営収支 …… 12

２　法人経営体

(1) 全国年次別統計表 …… 12
(2) 全国農業地域別統計表 …… 12
(3) 法人経営体のうち組織法人経営体 …… 12
(4) 法人経営体のうち個別法人経営体 …… 12

３　農業経営体

(1) 全国年次別統計表 …… 12
(2) 全国農業地域別統計表 …… 12

Ⅲ　農産物生産費統計

１　個別経営体

(1) 米生産費 …… 13
(2) 小麦生産費 …… 13
(3) 二条大麦生産費 …… 13
(4) 六条大麦生産費 …… 13
(5) はだか麦生産費 …… 13
(6) そば生産費 …… 13
(7) 大豆生産費 …… 14
(8) 原料用かんしょ生産費 …… 14
(9) 原料用ばれいしょ生産費 …… 14
(10) なたね生産費 …… 14
(11) てんさい生産費 …… 14
(12) さとうきび生産費 …… 14

２　組織法人経営体

(1) 米生産費 …… 14
(2) 小麦生産費 …… 14
(3) 大豆生産費 …… 14

Ⅳ　畜産物生産費統計（個別経営体）

1　牛乳生産費 …… 15
2　去勢若齢肥育牛生産費 …… 15
3　乳用雄肥育牛生産費 …… 15
4　交雑種肥育牛生産費 …… 15
5　子牛生産費 …… 15
6　乳用雄育成牛生産費 …… 15
7　交雑種育成牛生産費 …… 15
8　肥育豚生産費 …… 15

本文内の記号の意味
◎：　平均値及び階層別を表章
○：　平均値のみを表章
×：　集計しない

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
Ⅰ　営農類型別経営統計					調査対象経営体のうち、調査期間（５（２）に掲げる期間をいう。以下同じ。）に脱落等により調査不能となった経営体を除く経営体を集計の対象とする。（Ⅱにおいても同様）
１　個人経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況は２において集計
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	◎	○	
イ　水田作主業経営	〃	◎	○	×	
ウ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	◎	○	
エ　稲作１位経営	〃	◎	◎	○	
オ　稲作単一経営	〃	◎	◎	○	
カ　稲作１位複合経営	〃	◎	◎	○	
キ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	○※1	○※2	※１　北海道のみ ※２　関東・東山、九州のみ
ク　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	○	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	○	◎	○	
イ　畑作主業経営	〃	○	◎※1	○※2	※１　都府県は平均値のみ ※２　九州のみ
ウ　麦類作経営		×	○※	×	※　北海道のみ
エ　大豆作経営		×	○※	×	※　〃

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
オ　ばれいしょ作経営		×	○※	×	※　北海道のみ
カ　てんさい作経営		×	○※	×	※　〃
キ　茶作経営		×	○※	×	※　都府県のみ
ク　さとうきび作経営		×	○※	×	※　〃
ケ　かんしょ作経営		×	○※	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営					
（ア）野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	○	○	
（イ）野菜作主業経営		○	×	×	
イ　露地野菜作経営					
（ア）露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○	
（イ）露地野菜作主業経営		○	×	×	
（ウ）露地野菜作単一経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	○	○	
（エ）露地野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○	
ウ　施設野菜作経営					
（ア）施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○	
（イ）施設野菜作主業経営		○	×	×	
（ウ）施設野菜作単一経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	○	○	
（エ）施設野菜作１位複合経営	〃	◎	○	○	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
(4) 果樹作経営					
ア　果樹作経営	果樹植栽面積	◎	○	○	
イ　果樹作主業経営		○	×	×	
ウ　果樹作単一経営	果樹植栽面積	◎	○	○	
(5) 花き作経営					
ア　花き作経営					
（ア）花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
（イ）花き作主業経営		○	×	×	
イ　露地花き作経営					
（ア）露地花き作経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×	
（イ）露地花き作主業経営		○	×	×	
（ウ）露地花き作単一経営	露地花き作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設花き作経営					
（ア）施設花き作経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×	
（イ）施設花き作主業経営		○	×	×	
（ウ）施設花き作単一経営	施設花き作作付延べ面積	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	○	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
ウ　肥育牛経営					
（ア）肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
（イ）肉専用種が主	〃	◎	×	×	
（ウ）乳用種が主	〃	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	◎※	○	※　北海道は平均値のみ
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
2　個人経営体（資産等把握経営体）					単一経営は貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営		○	○	○	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営		○	○	○	
イ　ばれいしょ作単一経営		×	○	×	
ウ　茶作単一経営		×	○ ※	×	※　都府県のみ
エ　かんしょ作単一経営		×	○ ※1	○ ※2	※1　都府県のみ ※2　九州のみ
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営		○	○	○	
イ　露地野菜作経営		○	○	○	
（ア）露地きゅうり作単一経営		○	×	×	
（イ）露地大玉トマト作単一経営		○	×	×	
（ウ）露地なす作単一経営		○	×	×	
（エ）露地キャベツ作単一経営		○	×	×	
（オ）露地ほうれんそう作単一経営		○	×	×	
（カ）露地たまねぎ作単一経営		○	×	×	
（キ）露地レタス作単一経営		○	×	×	
（ク）露地はくさい作単一経営		○	×	×	
（ケ）露地白ねぎ作単一経営		○	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
（コ）露地だいこん作単一経営		○	×	×	
（サ）露地にんじん作単一経営		○	×	×	
（シ）露地ブロッコリー作単一経営		○	×	×	
ウ　施設野菜作経営		○	○	○	
（ア）施設きゅうり作単一経営		○	×	×	
（イ）施設大玉トマト作単一経営		○	×	×	
（ウ）施設ミニトマト作単一経営		○	×	×	
（エ）施設なす作単一経営		○	×	×	
（オ）施設ブロッコリー作単一経営		○	×	×	
(4) 果樹作経営					
ア　果樹作経営		○	○	○	
イ　りんご作単一経営		○	×	×	
ウ　露地温州みかん作単一経営		○	×	×	
エ　露地ぶどう作単一経営		○	×	×	
オ　日本なし作単一経営		○	×	×	
カ　もも作単一経営		○	×	×	
キ　施設温州みかん作単一経営		○	×	×	
ク　施設ぶどう作単一経営		○	×	×	
ケ　かき作単一経営		○	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
コ　うめ作単一経営		○	×	×	
サ　おうとう作単一経営		○	×	×	
シ　キウイフルーツ作単一経営		○	×	×	
ス　すもも作単一経営		○	×	×	
(5) 花き作経営					
ア　花き作経営		○	×	×	
イ　露地花き作経営		○	×	×	
ウ　施設花き作経営		○	×	×	
(6) 酪農経営		○	○	○	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営		○	○	○	
イ　繁殖牛経営		○	○	○	
ウ　肥育牛経営		○	○	○	
(8) 養豚経営		○	○	○	
(9) 採卵養鶏経営		○	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営		○	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
３　法人経営体					
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	○	○※	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○※	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○※	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
キ　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
ク　水田作経営のうち集落営農組織法人					
（ア）水田作経営のうち集落営農組織法人	水田作作付延べ面積	◎	○※	○	※　都府県のみ
（イ）稲作１位経営	稲作作付延べ面積	◎	○※1	○※2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（ウ）稲作単一経営	〃	◎	○※1	○※2	※１　都府県のみ ※２　東北、北陸のみ
（エ）麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
（オ）大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○※	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○※	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○※	×	※　〃

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
オ　てんさい作経営		×	○※	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○※	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○※	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○※	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
4　農業経営体					貸借対照表、投資と資金調達の状況を除く
(1) 水田作経営					
ア　水田作経営	水田作作付延べ面積	◎	○	○	
イ　稲作経営	稲作作付延べ面積	◎	○	○※	※　東北、北陸のみ
ウ　稲作１位経営	〃	◎	○	○※	※　〃
エ　稲作単一経営	〃	◎	○	○※	※　〃
オ　稲作１位複合経営		○	×	×	
カ　麦類作経営	麦類作作付延べ面積	◎	×	×	
キ　大豆作経営	大豆作作付延べ面積	◎	×	×	
(2) 畑作経営					
ア　畑作経営	畑作作付延べ面積	◎	◎	×	
イ　麦類作経営		×	○※	×	※　北海道のみ
ウ　大豆作経営		×	○※	×	※　〃
エ　ばれいしょ作経営		×	○※	×	※　〃
オ　てんさい作経営		×	○※	×	※　〃
カ　茶作経営		×	○※	×	※　都府県のみ
キ　さとうきび作経営		×	○※	×	※　〃
ク　かんしょ作経営		×	○※	×	※　〃
(3) 野菜作経営					
ア　野菜作経営	野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
イ　露地野菜作経営	露地野菜作作付延べ面積	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
ウ　施設野菜作経営	施設野菜作作付延べ面積	◎	×	×	
(4) 果樹作経営	果樹植栽面積	◎	×	×	
(5) 花き作経営	花き作作付延べ面積	◎	×	×	
(6) 酪農経営	月平均搾乳牛飼養頭数	◎	◎	×	
(7) 肉用牛経営					
ア　肉用牛経営	月平均肉用牛飼養頭数	◎	×	×	
イ　繁殖牛経営	月平均繁殖雌牛飼養頭数	◎	×	×	
ウ　肥育牛経営	月平均肥育牛飼養頭数	◎	×	×	
(8) 養豚経営	月平均豚飼養頭数	◎	×	×	
(9) 採卵養鶏経営	月平均採卵鶏飼養羽数	◎	×	×	
(10) ブロイラー養鶏経営	年間ブロイラー出荷羽数	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
Ⅱ　経営形態別経営統計					
1　個人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 農業所得依存度別統計表		○	○	○	
(4) 青色申告経営体統計表		○	○	○	
(5) 農業地域類型別統計表		○	×	×	
(6) 認定農業者のいる経営体の経営収支		○	○	×	
2　法人経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	
(3) 法人経営体のうち組織法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
(4) 法人経営体のうち個別法人経営体					
ア　全国年次別統計表		○	×	×	
3　農業経営体					
(1) 全国年次別統計表		○	×	×	
(2) 全国農業地域別統計表		○	○	○	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
Ⅲ　農産物生産費統計					調査対象経営体のうち、調査期間に脱落等により調査不能となった経営体、調査対象品目が収穫皆無となった経営体及び10アール以上作付けしなかった経営体（個別経営体のうち米以外の生産費）を除く経営体を集計の対象とし、このうち、調査期間の調査対象品目の生産実績として販売がなかった経営体（個別経営体のうち米生産費については、販売量600kg未満の経営体、個別経営体のうち麦類、そば及びなたね生産費については、販売量が計算単位数量未満の経営体）並びに過去５年間の10アール当たり収量のうち最高及び最低の年を除いた３年間の10アール当たり平均収量（平年作）に対する調査年の10アール当たり収量の増減が基準（米については±20%、米以外の農産物については±70%）以上の経営体を除く経営体を対象とした集計を行う。 更に、全ての集計対象経営体を対象とした集計（全国のみ）も、併せて行う。
1　個別経営体					
(1) 米生産費	食用米作付面積	◎	◎	◎	府県別平均値についても表章
(2) 小麦生産費					
ア　田畑計	小麦作付面積	◎	◎	○※	※　関東・東山及び九州のみ
イ　田畑別	〃	◎	○	×	
(3) 二条大麦生産費		○	×	×	
(4) 六条大麦生産費		○	×	×	
(5) はだか麦生産費		○	×	×	
(6) そば生産費	そば作付面積	◎	○	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
(7) 大豆生産費					
ア　田畑計	大豆作付面積	◎	◎	○ ※	※　東北、北陸、関東・東山及び九州のみ
イ　田畑別	〃	◎	×	×	
(8) 原料用かんしょ生産費		○ ※	×	×	※　鹿児島のみ
(9) 原料用ばれいしょ生産費	原料用ばれいしょ作付面積	×	◎ ※	×	※　北海道のみ
(10) なたね生産費		○	○	×	
(11) てんさい生産費	てんさい作付面積	×	◎ ※	×	※　北海道のみ
(12) さとうきび生産費	さとうきび収穫面積	◎	×	×	鹿児島及び沖縄平均値についても表章
2　組織法人経営体					
(1) 米生産費	食用米作付面積	◎	×	×	
(2) 小麦生産費	小麦作付面積	◎	×	×	
(3) 大豆生産費	大豆作付面積	◎	×	×	

区　　分	階層の種類	表章地域の範囲			備　考
		全　国	北海道・都府県別	農業地域別	
Ⅳ　畜産物生産費統計（個別経営体）					調査対象経営体のうち、調査期間に脱落等により調査不能となった経営体及び調査期間の調査対象畜の飼養実績が別添２の別表第２の分類基準に該当しなかった経営体を除く経営体を集計の対象とする。
1　牛乳生産費	搾乳牛飼養頭数	◎	◎	○	
2　去勢若齢肥育牛生産費	去勢若齢肥育牛飼養頭数	◎	○※	○	※　北海道のみ
3　乳用雄肥育牛生産費	乳用雄肥育牛飼養頭数	◎	○※	○	※　〃
4　交雑種肥育牛生産費	交雑種肥育牛飼養頭数	◎	○※	○	※　〃
5　子牛生産費	繁殖雌牛飼養頭数	◎	○※	○	※　〃
6　乳用雄育成牛生産費	乳用雄育成牛飼養頭数	◎	○※	○	※　〃
7　交雑種育成牛生産費	交雑種育成牛飼養頭数	◎	○※	○	※　〃
8　肥育豚生産費	肉豚飼養頭数	◎	○※	○	※　〃

別添５

農業経営統計調査の公表時期

統　　計		公　表　時　期	
		概　　要	詳　　細
営農類型別経営統計			
	個人経営体 法人経営体 農業経営体	翌年 12 月まで	翌々年３月まで
農畜産物生産費統計（個別経営体）			
	米	翌年 10 月まで	翌々年３月まで
	小麦 二条大麦 六条大麦 はだか麦 なたね	翌年６月まで	翌々年３月まで
	そば 大豆 原料用かんしょ 原料用ばれいしょ てんさい さとうきび	翌年８月まで	翌々年３月まで
	牛乳 去勢若齢肥育牛 乳用雄肥育牛 交雑種肥育牛 子牛 乳用雄育成牛 交雑種育成牛 肥育豚	翌年 12 月まで	翌々年３月まで
農産物生産費統計（組織法人経営体）			
	米	翌年 10 月まで	翌々年３月まで
	小麦	翌年６月まで	翌々年３月まで
	大豆	翌年８月まで	翌々年３月まで

（注）公表時期は、調査年を基準として記載している。

農業経営統計調査の必要性等について

1　調査の目的・必要性について

農業経営統計調査は、農業生産物の販売を主たる目的とする農業経営体の年間の経営及び農畜産物の生産費の実態を明らかにし、農業行政の基礎資料を整備することを目的として実施している。

調査結果は、農業施策の企画・立案・評価の根拠として利用されるほか、「食料・農業・農村基本計画」（令和７年４月 11 日閣議決定。以下「基本計画」という。）における指標の策定、経営所得安定対策における交付金の算定、畜産物の生産者補給金単価の算定等に利用されている。

【政府内において想定される主な利活用】

(1)　営農類型別経営統計

〔区分〕

■重要な政策の立案・実施・評価のための基礎資料
■基幹統計など重要な統計作成への利用
□国際機関への提供など国際比較上の利用
□その他

〔具体的な利活用〕

- 基本計画の「（参考２）技術体系の将来像と経営モデル」において、各経営モデルを策定するための基礎資料として利用。
- ＥＢＰＭに基づく各種施策の効果測定、見直し等の基礎データとして利用。
- 「国民経済計算」、「産業連関表」、「生産農業所得統計」及び「農業・食料関連産業の経済計算」において、農業部門の投入・産出の細目を推計する上で必要な項目について基礎データとして利用。
- 政策担当部局における各種施策の検討・効果検証に利用。

等

(2)　生産費統計

〔区分〕

■重要な政策の立案・実施・評価のための基礎資料
■基幹統計など重要な統計作成への利用
□国際機関への提供など国際比較上の利用
□その他

〔具体的な利活用〕

- 基本計画における生産性の向上に関するＫＰＩに利用。
- 麦、大豆、原料用ばれいしょ、てんさい、そば及びなたねに係る諸外国との生産条件の格差による不利を補正するための交付金算定に利用（農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に関する法律（平成 18 年法律第 88 号））。

・　甘味資源作物及び国内産糖並びにでん粉原料用いも及び国内産いもでん粉についての交付金算定に利用（砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律（昭和 40 年法律第 109 号））。
・　加工原料乳及び子牛の畜産物価格並びに肉用牛及び肉豚の経営安定交付金の算定に利用（畜産経営の安定に関する法律（昭和 36 年法律第 183 号）、肉用子牛生産安定等特別措置法（昭和 63 年法律第 98 号））。
・　基本計画の「（参考２）技術体系の将来像と経営モデル」において、各経営モデルを策定するための基礎資料として利用。
・　政策担当部局における各種施策の検討・効果検証に利用。
等

２　他の統計調査との重複

本調査のように農業経営の収支及び生産費の実態を詳細に調査する統計は存在しない。

３　行政記録情報等の利活用

「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」（平成 15 年法律第 72 号）に基づき、農林水産省が保有している「牛個体識別台帳」のデータ（調査客体が飼養している牛個体ごとの性別、品種、出生月、購入月、売却月、死亡月）を活用している。

「牛個体識別台帳」を利用することにより、当該データで把握できる事項については、当省職員において調査票に記入することができ、調査客体への聞き取り又は自計が不要となり、報告者負担の軽減が図られる。

４　事業所母集団データベースを利用した重複是正等

本調査は、次の標本選定期に至るまでの５年間調査客体を固定して実施することから、次回の重複是正は、調査区分ごとに次の時期までに実施予定である。

・農産物生産費統計（組織法人経営体：米及び大豆生産費）：令和８年 12 月下旬
・農産物生産費統計（組織法人経営体：小麦生産費）：令和９年８月下旬
・営農類型別経営統計（法人経営体）：令和９年 12 月下旬

また、調査結果名簿の履歴登録については、調査区分ごとに次の時期までに実施予定である。

・営農類型別経営統計（法人経営体）：毎年８月下旬
・農産物生産費統計（組織法人経営体：米及び大豆生産費）：毎年７月下旬
・農産物生産費統計（組織法人経営体：小麦生産費）：毎年４月中旬

（直近の登録実績）

・営農類型別経営統計（法人経営体）：令和８年８月 21 日
・農産物生産費統計（組織法人経営体：米及び大豆生産費）：令和８年７月 28 日
・農産物生産費統計（組織法人経営体：小麦生産費）：令和８年４月９日